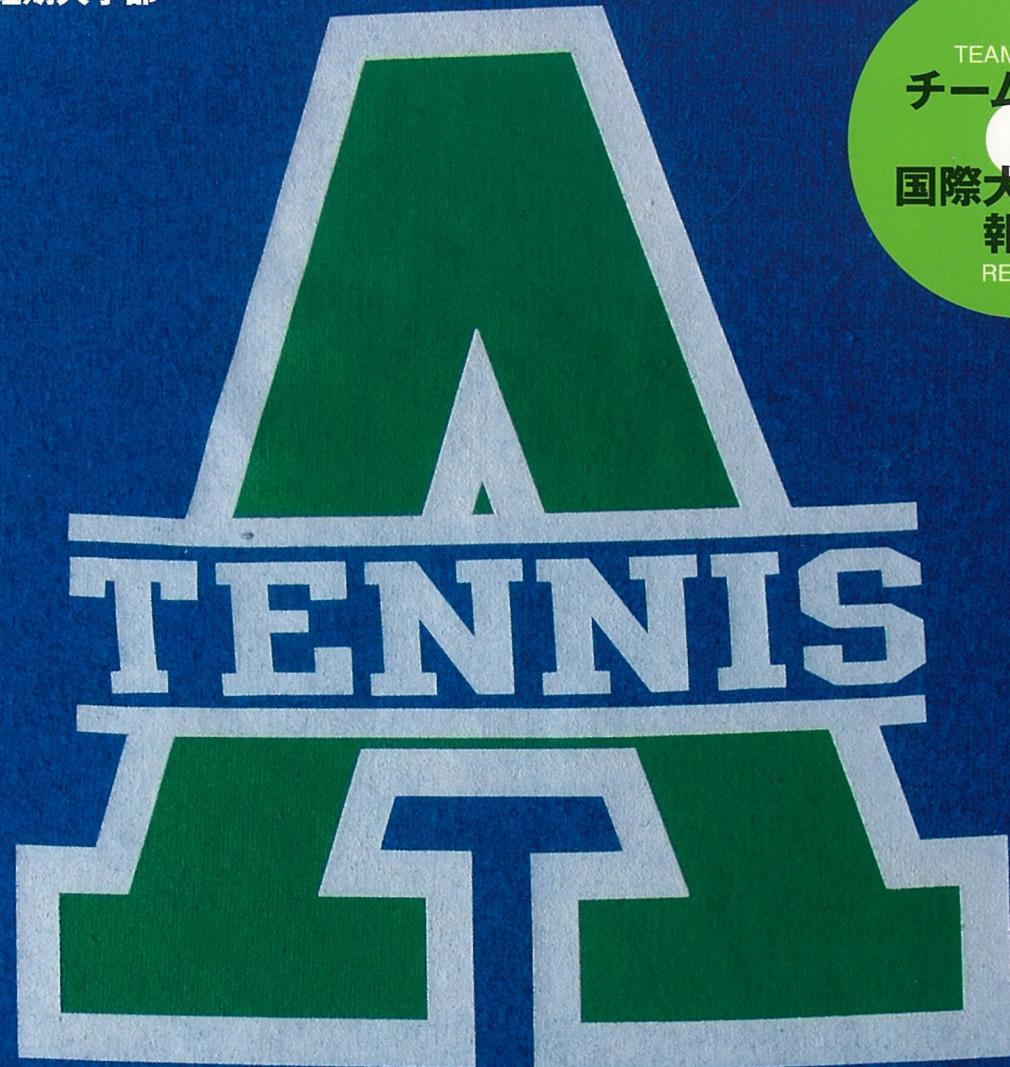




亞細亞大学  
亞細亞大学短期大学部



TEAM GUIDE  
チームガイド  
&  
国際大会開催  
報告  
REPORT

Japan Mens Futures  
ITF Womens Circuit

Asia Univ. @ 日の出 Tokyo, Japan

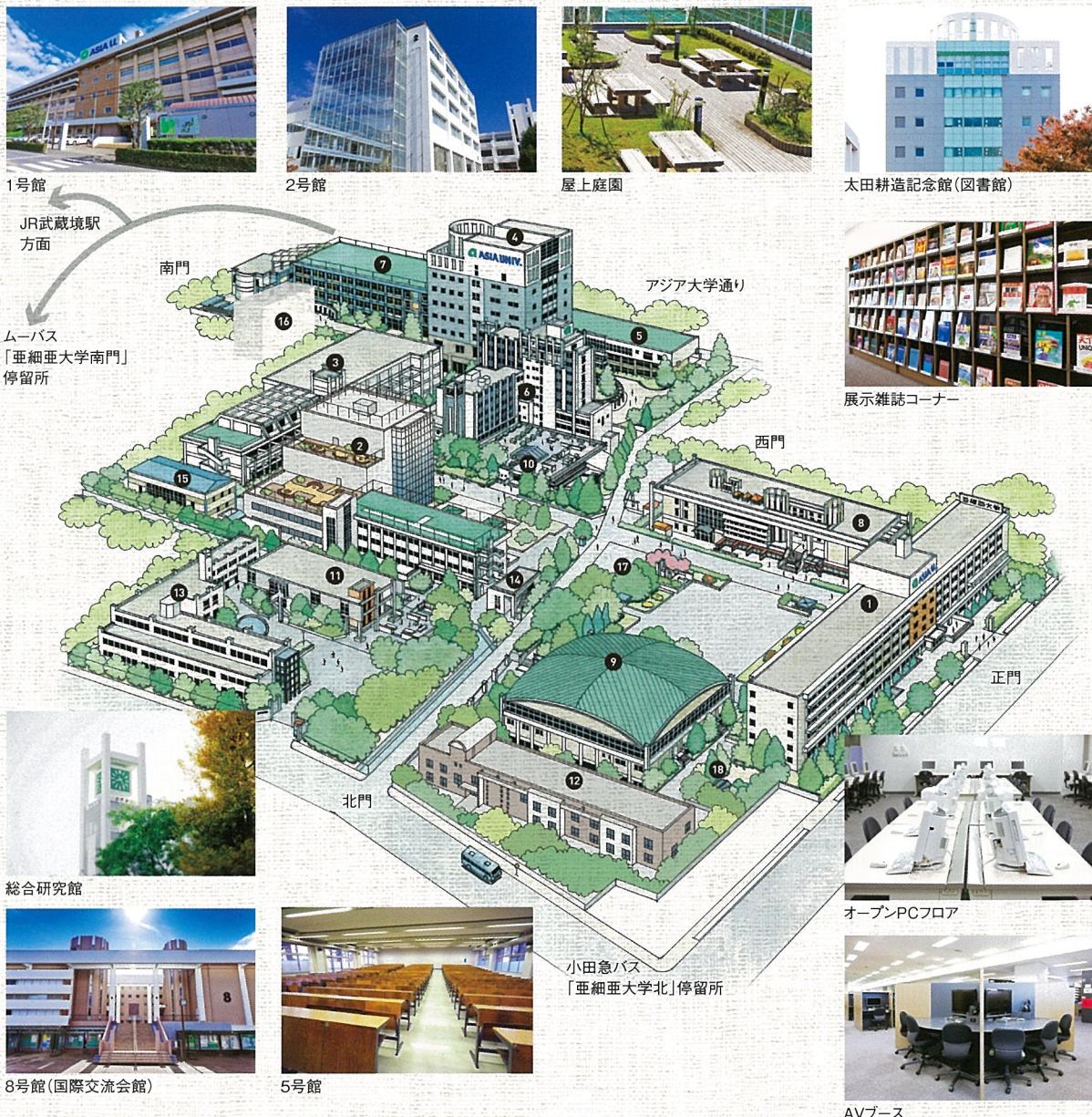
2014

亞細亞大学  
テニス部

# 武蔵野キャンパス 紹介

## ここで勉強します!

最寄り駅はJR中央線の武蔵境駅です。基本的に授業は武蔵野キャンパスで行なわれます。学生に必要な設備はすべて整っており、勉強に関して困ることはありません。テニス部の場合、平日はここで授業を受けて、終了後、日の出キャンパスに移動して練習します。



3号館



太田耕造記念館(図書館)



展示雑誌コーナー



オープンPCフロア



AVブース



### アクセス

- 武蔵境駅まで
  - ・「新宿駅」から約20分、「東京駅」から約35分(JR中央線利用)
  - ・「大宮駅」から約50分(JR中央線、埼京線利用)
- 武蔵境駅からキャンパスまで
  - ・北口から徒歩12分
    - ・北口から小田急バス【境21】「団地上水端(団地入口経由)」で「亞細亞大学北」下車、徒歩1分
    - ・北口からムーバスで「境5丁目」または「亞細亞大学南門」下車、徒歩0分
    - ・西武新宿線「田無駅」北口から西武バス「武蔵境行」で「武蔵境駅」(終点)下車、徒歩12分

日

本テニスの育成には大きな課題があります。ひとつは18歳以上の強化です。多くのジュニアや高校生は、指導者や親とともに夢と希望をもってテニスに取り組んできています。テニスは決して18歳までに完成することができない、奥の深いスポーツですが、それを18歳以上でどのように磨くかが日本テニス最大のテーマのはずです。ということは、大学の役割は非常に大きく、特に重要なのが指導力です。選手が陣営戦するだけでは身につかないもの、または、それ以上のものを大学が提供できなければ意味がありません。

次に重要なのが環境の強化です。関東の大学では春闘（関東学生）、夏闘、新進戦、リーグ戦と4つの大会のみです。全国大会はインカレ、インカレ・インドア、大学王座の3つの大会です。これらの大会は同世代だけが参加します。しかし、実は戦う相手はもっと別の世界にもいます。知っている人と戦うことよりも、まったく知らない人と戦うことがどれだけ人をワクワクさせるでしょうか。大学4年間であらゆる世代やレベルや地域を越えたテニスを体験し、挑むことほど、素晴らしいものはありません。自分が今までつくり上げたテニスを試す“最高ステージ”は、大学テニスの世界以外にもあるのです。

当然、「負け」や「失敗」が付きまといつ、自分を見失うこともあることでしょう。しかし、「負け」を嫌い、「失敗」をたくさんしない学生が、いつどうやってそこから這い上がる精神を身につけることができるでしょうか。私は学生こそ

「失敗することが仕事」だと思っています。そこからしか創意工夫や独創性は生まれてきません。

能力があるにもかかわらず、挑戦を恐れ、安全で安定な道にすがっている精神のテニスには、困難を乗り越える力が備わりません。いつからラケットを置いたときに、就職したときに残るのは、テニスの技術や記録だけではなく、未知を乗り越えてきた精神力であってほしいのです。

私はその一環として、アメリカの大学との対抗戦、韓国体育大学との交流合宿を行なってきました。1月のオーストラリアン・オープン観戦では「これが本物」と感じることができます。そして、いまは春に男女の国際テニス大会（1万ドル）を学内で開催しています。学生主体のこの大会は、まさに選手しか経験のない学生たちに、テニスへの取り組み方から、技術、体力、精神力、戦術、歴史、経済、経営、哲学にいたるすべてを、外国選手やスポンサー、観客など、テニスにかかわる人々から学ばせてもらっています。国際大会は最高のコーチングになっているのです。

初めは国際大会レベルのパワーやスピードや意識の違いに弾き飛ばされていたものの、徐々にそれに近づくための行動が起こってきました。「機会」が学生を育てていることを実感します。国際大会という環境は学生に大学テニスに明け暮れる=守りの伝統を、攻める「機会」へと発展させていることは間違ひありません。

私は亞細亞大学に奉職して25年になりますが、冒頭の理想には残念ながらまだまだ到達しません。それでも、これまで

理想に向かっていっしょに闘った多くの学生たちや卒業生には感謝しています。永遠にチームは完成できないかもしれません。しかし、向上に悩める学生に出会ったときには、自分の未来を信じて戦う意思がある学生と出会ったときには、いっしょに青春時代を闘いたい。私は自らの可能性を信じる本気の選手を歓迎します。

テニスは18歳までには  
決して完成しません。  
自らの可能性を信じて  
未来に向かって挑戦する  
本気の選手を歓迎します。

**堀内昌一**

(亞細亞大学教授 / テニス部監督)



# 日の出キャンパス 紹介

## ここがテニス部のホームです!

最寄り駅はJR五日市線「武蔵引田」駅です。ここにはテニスコートをはじめ、野球場、サッカー場、陸上トラックなど、スポーツ関係の研究施設があります。屋外競技のクラブは主にここで練習をします。



### テニスコート

ハードコート8面と砂入り人工芝コート2面の合計10面のテニスコートがあります。面数が多いので、少人数で効率よく、充実した練習ができます(全面ナイター完備)。



### 日の出 キャンパス 案内図



### トレーニングセンター

機材が整っており、学生はいつでも自由に利用することができます。夜遅くまで筋トレをしている学生もいます。トレーニングルームに隣接して鏡張りの大きな部屋があり、雨の日でもラダーなどのフィールドトレーニングを室内で行なうことができます。

### クラブハウス

2010年に完成しました。男子部室、女子部室、監督・コーチ室のほか、ユーティリティーがあります。ユーティリティーでは、全体ミーティングを行なうほか、テレビやスライドを使って映像の確認や勉強会を行なっています。



### セミナーハウス(宿泊施設)

テニス部は、12月の年末合宿、2、3月の強化合宿、国際大会開催期間などに利用します。また、他校の学生が練習に訪れているときに宿泊することもあります。施設内には大広間もあり、ミーティングや講義が行なわれます。

※学生2000円、ビジター3000円(朝夕食付)



### アクセス

武蔵引田駅まで

・新宿駅から約90分、「東京駅」から約100分(JR中央線、青梅線、五日市線利用)

・大宮駅から約120分(JR埼京線、川越線、八高線、五日市線利用)

武蔵引田駅から日の出キャンパス「亞細亞大学セミナーハウス」まで

・武蔵引田駅の改札口は北口1ヶ所、下車後、踏切まで戻り、北(左)に向かって徒歩7分

### 所在地

〒190-0182 東京都西多摩郡日の出町平井1466 TEL042-597-0714

# 『私

の考える良いチームとは、チームメイトが落ち込んでいる時、スランプに陥っている時にどれだけ気持ちをピッシュして、チームの目標にむけて頑張れるかだと思います。どれだけ個が強く、個が活躍して団体戦を優勝しても、1人でも欠けていては、その優勝は何も意味のないものと私は考えます。チームメイト全員で作り上げたものに価値があるのです。優勝する事が本当の目的ではありません。優勝することが目的ならば、日本各地から強い選手だけを勧誘し、強いチームを作り上げるでしょう。よく、結果と過程どちらが大切ですか?という質問にほとんどのスポーツマンは結果が大切と答えるでしょう。確かに結果は大切です。しかし、チームメイト全員で同じ目標に向かって色々な知恵を出し合い努力していく、そして、結果が出なかったとしてもその経験は間違いなくこれから的人生に活かされることは間違いません。そして、その経験は大きな自信に繋がります。時には、気持ちが折れそうになる選手もあります。その時にどれだけ周りのチームメイトが支えてあげられるか、テニスの調子が悪く、試合に勝てなくスランプに陥ってしまった。その時にどれだけ本気になってアドバイスしてあげられるか。このように周りのことを1番に考えられるチームが私の考える良いチームです。

平成26年度の男子チームの目標は1部リーグ昇格です。

1部リーグに上がる事が最終目標ではありません。来年王座に出場し、日本一になることが最終目標です。1部リーグに昇格することは、通過点でしかありません。目標設定はとても大切です。目標をたてないとどうなるでしょう。日々何故練習して、何故チームのためにサポートしているのか分からなくなります。そして、小さい目標をたてても、その程度の練習になってしまい、チーム全体の空気も悪くなります。大きく現実離れしそうでいる目標をたてたとしても、チーム全体が一丸となることは難しいです。しっかりとした目標設定があるからこそチーム全体が1つの目標に向かって努力できるのです。この、私達幹部がたてた大きな目標もチームが一丸となれば必ず成し遂げられると信じています。

さらに、チーム一丸となり努力することは試合だけではありません。我々テニス部は、国際大会を学生主体で運営しています。トップに学生ADがいて、その下に沢山の部署があります。誰一人として欠けては運営することはできません。もちろん、自分の好きな興味のある部署につくこともできます。どれも社会に出て必要なことばかりです。ここでもチーム力がためされます。国際大会では、もちろん選手としても出場します。予選はもちろん本戦も出場できます。部員全員にチャンスがあります。この貴重な機会を体験出来るのも亞細亞テニス部だけです。日本一沢山の事にチャレンジできる

部活だと思います。全員にチャンスがあり、それを活かすか活かさないかは自分次第です。

高校3年間過ごした皆さんは、大学4年間が長いと思われるでしょう。しかし、本当にあつという間に過ぎていきます。亞細亞テニス部はこれまでにない経験ができます。ぜひ一緒に汗を流し人間的にもテニス選手としても大きく成長してみませんか?

チーム全員で作り上げることに価値があるのです。

# 高山和也

(亞細亞大学硬式庭球部主将/4年)



## 1

1995年卒業の宮地弘太郎です。私の同期には、昨年引退した本村剛一プロと2つ下に岩瀬聰プロがあり、柳川高校時代から良きライバルでした。

彼らはプロの道を選択し、私は大学進学の道を選択。亜細亜大学入学当初から、「大学テニスに留まらない競技生活を送る」ことをテーマに4年間を過ごしました。

なぜ亜細亜大学に進学したのか——亜大には日本のトップジュニアが多数在籍しており、大学を経由して世界を目指す集団、大学からプロを目指せるというイメージが定着していたことに加え、大学テニスのパイオニアでもある堀内先生の「大学はさらなる飛躍に挑戦する場所であり、大学からグランドスラムに挑戦する」という考えに共感したからです。

卒業後、さまざまな企業のサポートを受け、約8年間プロテニス選手として、ATPランキング100位を目指し、世界を転戦しましたが、目標に到達することはできませんでした。

その後、28歳で現役を引退し、指導者の道へ進むことを決意しました。そこでの主たる研究テーマは、硬式テニス（球技／対人／ネットラケット型）のゲーム分析（エリート選手、大学生選手の技術や戦術の様相）や、競技特性に応じた体力組成の分析により効果的な指導方法論を導き出し、大学生選手の技術に関しては縦断的研究を行ない、ドリルの効果も検討していくことを目指しました。

選手から研究者へという転身は、テニス選手では珍しく、テニス漬けで過ごした私がその道に進むことに周りは驚いていました。

いましたが、当の本人は、これから新たな人生に向けて30歳手前ながら、胸ときめいていました。私の強みは、実体験で得た知見や、経験で培った実技ですが、現在大学テニスを指導する上でのテーマは、主観的コーチング+客観的コーチングです。テニスは日々進化し、トレーニング方法も年々変容してきています。現場+研究からの知見を学生にフィードバックし、大学生からでも世界を目指せる環境整備や、大学テニスの醍醐味を学生に伝えていくことが私の使命ではないかと考えています。

近年、残念なことは高校生プレーヤー、大学生プレーヤーに夢がないことです。大学進学のための『テニス』ではなく、夢の実現のための『テニス』でしょう。私の夢は“日本のテニスを自分が変える！”ことでした。日本のテニスを変える=大学出身者がグランドスラムに出場すること。そのためには、大学や国内一般の試合だけに留まらず、海外ヘトライし、さまざまなプレーヤーと対戦し、自分のスタイルを確立することです。いま日本のテニスは世界と拮抗しています。錦織圭選手、添田豪選手、伊藤竜馬選手と世界のトップ選手=「テニスで飯が食える」時代に突入してきました。これは、先を見据えたJTAの強化活動の成果だと思います。私はいまこそ、大学テニスプレーヤーがそこに食い込んでいく絶好のタイミングと考えています。

亜細亜大学時代に培われたもの——『考える』ことが『人間を成長させる』ことに繋がり、上達に『近道』はなく、強くなるには『人と違うこと』を『人の倍努力する』ということを学びました。高校生のみなさん、大学生活はあつという間です。『夢』を持って『夢』の実現に向けて精進してください。

**学生時代の私の夢は“日本のテニスを変える!”ことでした。  
いまは大学出身者がグランドスラムに出場する—  
その夢をもって指導しています。**

# 宮地弘太郎

(関西国際大学専任講師／テニス部監督)

みやち・こうたろう◎1974年2月18日生まれ。広島県出身。柳川高校卒。91年インターハイ団体準優勝、単ベスト8、複ベスト4。92年亜細亜大学入学。93、95年インカレ優勝。94年全日本準優勝。95年ユニバーシアード銅メダル獲得(27年ぶり)。卒業後プロ転向し、ジャパンオープン・ベスト16。99年全豪予選決勝敗退。元デ杯日本代表。ATP最高位は303位(98年7月)、JOP3位。03年に現役を引退し、日本体育大学大学院を経て、07年4月から現職。ユニバーシアード男子監督。S級エリートコーチ





## 近藤大生

(アイシン精機/13年亞細亞大学  
国際オープンテニスシングルス優勝)

こんどうひろき◎1982年11月5日生まれ。31歳。愛知県知立市出身。竜北中学、名古屋高校卒。99・00年全日本ジュニア優勝。06・10・11年全日本選手権ダブルス優勝。11年デ杯代表選手。ATP最高位シングルス 275位(13年11月)/ダブルス 179位(10年4月)

**テ**ニスを始めたのは小学校1年生のとき。当時は野球をしたかったのですが小学校4年生からしか入れず、姉のやっていたテニスを始めました。当初から強くなることだけを考え「あの子に勝ちたい」「県大会で優勝したい」「東海・全国大会出場」「全国大会優勝」と少しづつ目標が大きくなりました。夢はグランドスラムで活躍すること。当時ピート・サンプラスに憧れ、彼のように活躍したいと思っていました。

僕は今、夢を追いかけている途中です。その夢へ向け、初めて出場したフェーチャーズが高校1年生のとき。初優勝は2009年の軽井沢。これまで2013年の亞細亞フェーチャーズを含め計6回シングルスで優勝しました。この亞細亞フェーチャーズには、これまで全て出場しています。亞細亞大学に高校の後輩がいることもあり、学生が気持ち良くフレンドリーに接してくれます。また、コートサーフェースとの相性も良いのでとても好きな大会です。

大会開催に向けては、学生がテニスクリニックなどを開き資金を集めると聞きました。素晴らしいと思いますし、最高の経験になると思います。

今後も、この大会からグランドスラムへ巣立つ選手が出てきます。これからもこの大会を続けて下さい。そして、夢を追いかける選手の努力を見逃さずに見てもらい、学生の皆さんも全力で頑張ってほしいと思っています。

このフェーチャーズシリーズはチャレンジャー大会へのステップです。僕は何度もチャレンジャーへ挑戦し、壁を破れず「フェーチャーズを卒業」とはなかなかいきません。しかし、今年1月初めて全豪オープンの予選に出場し、他のグランドスラムにも挑戦したいという気持ちがより強くなりました。これから僕の目標は、全仏・全英・全米の予選に出場することです。この目標を達成するためには、強い意志とこれまで以上の努力が必要です。夢を叶えるために、全力で頑張ります。 (2014年6月中旬インタビュー)

## 二宮真琴

(橋本総業/14年亞細亞大学  
国際テニス大会ダブルス準優勝)

にのみやまこと◎1994年5月28日。20歳。広島県広島市出身。清和中学、西宮甲英高校卒。11年全日本ジュニアダブルス優勝。12年全日本選手権ダブルス準優勝。14年有明国際女子オープンテニスダブルス優勝、柏国際オープンダブルス準優勝。WTA最高位シングルス359位(2012年11月)/ダブルス 183位(2014年2月)

私が\$10,000亞細亞大学国際女子オープンに初めて出場したのは17歳のとき。受付やラインパーソン、運営スタッフ、多くの関係者の方々が朝から夜まで働いていらっしゃいました。その役割を私と年の変わらない学生の先輩たちがやっている事に「他の大会とは違うな」と驚きました。スコアボードやドロー表に顔写真を貼り付けたり、プロフィールを書いて工夫されたり手作り感満載の大会に触れ、ちょっと嬉しかったのを思いだします。毎試合のビデオも購入する事ができましたし、遅くまで練習コートを開放して頂いたことで、試合後の反省に必要な練習時間も確保できました。今大会の当日の朝、アップの相手が見つからない私に男子学生がヒッティングをしてくれました。不慣れな私にとってすごく有難かった事を今でも覚えています。テニスコート横のトイレの壁には、今年から名言集が貼ってあり「チャンピオンになりたい気持ちと勇気と根性だけでやり抜く自信があるならチャンピオンになれる」という言葉や「練習のプログラムを厳しくすれば必然的に試合が楽になる」。その中でも「私は勝ち続ける事で強くなってきたんじゃない。負けて強くなってきた」という吉田沙保里さんの言葉が記憶に残っていて、今も私を励ましてくれています。

テニスを始めた時からプロになる事が目標、グランドスラムで優勝する事が夢。私にとって\$10,000の大会とは、ツアード戦う為のステップアップの大会。みんなにチャンスがあって、若い選手も多くどの選手も目的に向かって一所懸命で「勝ち負けはちょっとした差でしかない」。昨年プロに転向後、この厳しさに始まり、いま大会スポンサーの方々や関係者の方々のお蔭でやっとスタートラインに立てています。1段ずつでも上に行けるように、今大会での経験を生かしもっと飛躍して、みなさんの努力に対して少しでも恩返しきたらと思っています。これから多くのジュニア選手たちが夢に向かって行くファーストステップとして、この大会が未永く続きますことを願っています。

(2014年6月中旬インタビュー)



## CONTENTS

### 大学紹介

02 武藏野キャンパス 04 日の出キャンパス 33 入学案内(スポーツ推薦)

### PART 1 部活動紹介

- 03 挨拶～堀内昌一(亜細亞大学教授 / テニス部監督)  
12 部活ってすばらしい! 14 テニス部主要Topics[年表]  
16 過去(1988～)の主な戦績

### 亜細亞の部活

- 18 入学前から卒業までの流れ 22 我々は本物のテニスを追求する。  
20 一年間の流れ

### PART 2 チーム紹介

- 05 挨拶～高山和也(4年/男子主将)  
23 挨拶～森稔詞(亜細亞大学テニス部コーチ)  
24 池島政広学長挨拶  
宇田川裕部長、金子国彦部長挨拶  
26 指導スタッフ紹介 28 男女部員名簿  
32 橋本大貴(1年)の1日  
34 「部員からひと言」高校生のみんなへ  
36 文武両道～学生は部活と授業の両立を目指す。

### 学部紹介

- 38 法学部 糸井彬(3年)の場合 41 経営学部 李国淵(2年)の場合  
39 経済学部 小林浩貴(3年)の場合 41 短期大学部紹介  
40 國際関係学部 山浦はる香(3年)の場合

### 42 大学に入って、こんなに変わりました!

白井卓也(4年) / 秋山和潤(3年) / 松本千広(3年) / 山藤彩香(2年) / 田中亮寛(1年)

- 54 亜細亞大学OB.OG対談

### PART 3 卒業後の進路

- 07 挨拶～宮地弘太郎(亜細亞大学テニス部OB)  
46 2003年、亜細亞大学、メルボルンへ行く。  
「大学に行ったら世界に行けないなんて言わせない」  
文◎吉松忠弘 記事提供◎テニスマガジン  
48 卒業生、それぞれの道  
岡本聖子 / 宮崎優実 / 佐藤博康 / 高田充 / 宮崎靖雄 / 駒田政史 / 中村聰利 / 新谷啓平良和己 / 須藤陽史 / 山名均  
58 就職ガイダンス

### PART 4 国際大会報告

- 09 参加選手を代表して～近藤大生プロ(アイシン精機)、二宮真琴プロ(橋本総業)  
60 2014国際大会開催レポート  
[男子]亜細亞大学国際オープン [女子]亜細亞大学国際女子オープン  
男女予選、本戦結果  
70 私たちはこうやって大会をつくりました  
第1回亜細亞大学国際オープン2007 『国際大会開催までの全記録』  
74 過去8大会(第1回～8回)国際大会結果 2015年亜細亞国際大会告知  
75.77 日の出に世界がやってきた。 文◎武田 薫 記事提供◎テニスマガジン  
79.81 亜細亞大学主催 チャリティクリニックのお知らせ / 参加者の声

# 2014 亜細亞大学 テニス部

チームガイド  
TEAM GUIDE



国際大会開催報告  
REPORT

©ここに掲載する記事、写真、および図版の無断転載を厳禁します。

### STAFF

●Editorial supervisor  
堀内昌一 Shoichi Horiuchi  
森 稔詞 Toshitsugu Mori

●Editor in chief  
佐藤俊介(4年) Shunsuke Sato

●Editor  
松本千広(3年) Chihiro Matsumoto  
辻本有佳里(2年) Yukari Tsujimoto  
大塚陽平(2年) Yohei Otsuka

●Design  
泰司デザイン事務所 Taizi Design office  
バグオ PAGUO

●Printing  
株式会社文伸 Bunshin Corporation



### Editor's MEMO

●今年でアジパンの作成は3年目となりました。就職活動をする中での仕事との両立は非常に大変で、自分の仕事が遅れてしまい周りに迷惑をかけてしまうものもありましたが、無事に完成させることができてよかったです。今年は新たに「対談」を加え、OB.OGの貴重な話を掲載することができました。来年も新しい企画を追加してより一層楽しめるようにしてもらいたいです。 (佐藤/写真右上)

●今回で2回目のアジパン作成となりました。今年は新しい企画で対談を加え、たくさんのお話を聞かせていただき勉強になりました。亜細亞大学テニス部の歴史をたくさん記事にさせていただいたので他のページはもちろんですがせひ、読んでほしいページです。 (松本/写真左下)

●今回初めてアジパンの作成のお手伝いをさせていただきました。この冊子を作成するにあたり、多くの方々に協力していただき、私たちの日々の活動は皆さんの支えのおかけであると実感しました。本当にありがとうございます。昨年より更にパワーアップしたアジパンをお楽しみください! (辻本/写真右下)

●今年初めてアジパンの作成に参加させていただきました。自分が主に作成したのは、部員プロフィールです。これを作成したことにより部員1人1人の考えがわかりました。テニスをやりながらもアジパンの作成を進めていくのは大変でしたがなんとかやりぬくことができ良かったと思います。 (大塚/写真左上)





**大**学に勤めて27年になります。最近では教え子の結婚式に毎月のように招待されるような歳になりました。ひと回りもふた回りも大きくなった教え子の成長を見るたびに、ただ驚くばかりです。そこには同期たちも集まってきたから、その成長ぶりにも驚かされてしまします。

あれほどやんちゃだった学生時代からは想像もできないくらい、社会でもまれ、成長した姿を見るにつづけ、たった4年の間だったけれど、ともに過ごした時間のありがたさを感じています。同期や同僚たちが披露するエピソードを聞き、スナップ写真を見て、当時を想い出し、私はうなずくばかりです。

入学式に卒業式、そして結婚式と、繰り返される“集合写真”こそ、まさに“部活”的証。それぞれが真剣にテニスに取り組み、いっしょに戦ってきたからこそ迎えられる瞬間だと思います。その当時は、そんな未来を想像することもできなかったでしょうが、大人になり、みんなで再び顔を合わせたときに、“部活”的のすばらしさを感じてくれていると私は確信しています。

“部活”は一見ややこしそうですが、実はとてもシンプルなものです。

私はいつも学生たちに「できるまでやれ」と指導しています。課題を与えると、すぐにできるヤツ、すぐにできないヤツ、まったくできないヤツに、できるまでやろうとしないヤツと、さまざまですが、いずれに対しても“部活”は容赦しません。ヒントは与えますが、答えは自分で見つけなければならぬのです。私が答えをあげることはできません。答えを見つけるのは自分。見つけるまでにはおそらく相当な時間がかかります。でも、“待つこと”も私の仕事。そうしているうち、失敗してしまうこともしばしばありますが、それでもいいと思っています。失敗が教えてくれるものもある。それがまた、大きな財産となるからです。

コートにはコーチと部員がいますが、最終的

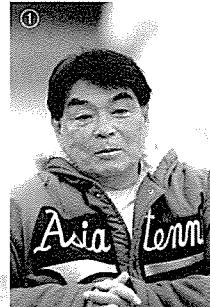
には、部員自身が課題を解決する力を身につけなければ意味がないと思っています。課題や目標を達成するために必要となるのは、自身の力であるとともに、重要なのは仲間の力。そのことに気づき、みんなで結束してこそ、乗り越えられるものがあることにも気づいてほしいのです。そのことに気づき、その力の大きさを知ったときに、喜びを分ち合える関係になります。ひとりでは到底できないことにも、みんなの力を合わせれば必ず近づくことができる、達成できる。私はそれが“部活”だと思います。

部活って、本当にすばらしい！ 高校生諸君、私たち亞細亞大学でいっしょに部活をやろう！

文◎堀内昌一

すばらしい！  
部活つて、  
高校生諸君、私たち亞細亞大学でいっしょに部活をやろう

## 亜細亜大学テニス部

過去26年間の  
主要Topics

衛藤瀧吉学長



93年、UCLAへ。堀内監督の隣りの女性はビート・サンプラス姉

**1987年(昭和62年)**

- ・衛藤瀧吉学長就任(1987-95年)。一芸入試を導入。(写真①)
- ・堀内昌一が講師およびテニス部監督に就任。

**1988年(昭和63年)**

- ・男子7部リーグ優勝/6部リーグ昇格
- ・女子5部リーグ3回戦敗退

**1989年(平成元年)**

- ・男子6部リーグ優勝/5部昇格
- ・女子5部リーグ優勝/4部昇格
- ・亞大初となる全国タイトル。インカレ・インドアで山崎史子が単優勝。
- ・アメリカプログラム(AUAP/正規単位取得型の留学プログラム)開始。

**1990年(平成2年)**

- ・男子5部リーグ優勝/4部昇格
- ・女子4部リーグ優勝/3部昇格
- ・男子初となる全国タイトル。インカレ単優勝・森稔詞、複優勝・岡田岳二/坂口雄二。
- ・国際関係学部国際関係学科開設。

**1991年(平成3年)**

- ・男子4部リーグ優勝/3部昇格
- ・女子3部リーグ優勝/2部昇格
- ・日の出トレーニングセンター完成。
- ・海外のITFサーキットに岡田・森・高田の3名が参戦。約4ヶ月間、オーストラリア・アメリカ・韓国を回る。そこで亞大生初となるATPポイントを獲得(岡田3ポイント、森1ポイント)。
- ・第16回ユニバーシアード(イギリス)日本代表選手に森、伊東新、山崎、赤堀奈緒の4名が選ばれる。また堀内昌一監督も日本代表コーチに就任。

**1992年(平成4年)**

- ・男子3部リーグ優勝/2部昇格
- ・女子2部リーグ優勝/1部昇格
- ・ITFサーキットに単身、宮地弘太郎が遠征(フィリピン)。ATP3ポイント獲得。
- ・女子初となるインカレ・タイトルを獲得。赤堀が単優勝。

**1993年(平成5年)**

- ・男子2部リーグ優勝/1部リーグ昇格
- ・女子1部リーグ初優勝/女子王座初優勝(写真②)
- ・全米遠征(93年~97年)で、強豪大学(USC/UCLA/スタンフォード大など)と対抗戦。(写真③)
- ・第17回ユニバーシアード(アメリカ)で赤堀が平木理化(青学)とのペアで銀メダル獲得。
- ・日本経済短期大学と亜細亜大学が統合、亜細亜大学短期大学部開設。

**1994年(平成6年)**

- ・男子1部リーグ初優勝/大学王座初優勝(写真④)
- ・女子1部リーグ優勝2連覇/大学王座3位

93年、女子が大学王座初制覇



・関東1部リーグで初のアベック優勝。

- ・全日本選手権複で、佐藤博康/駒田政史が学生として33年ぶりに優勝。(写真⑤)

**1995年(平成7年)**

- ・男子1部リーグ優勝2連覇/大学王座2連覇
- ・女子1部リーグ優勝3連覇/大学王座3位
- ・関東1部リーグで2度目のアベック優勝。
- ・全日本選手権男子単で宮地弘太郎が決勝進出。
- ・第18回ユニバーシアード(福岡)男子単で宮地が27年ぶりに銅メダルを獲得。
- ・ジャパンオープン男子単で宮地が3回戦進出(ベスト16)。

**1996年(平成8年)**

- ・男子1部リーグ優勝3連覇/大学王座準優勝
- ・女子1部リーグ優勝4連覇/大学王座準優勝
- ・関東1部リーグで3度目のアベック優勝。

**1997年(平成9年)**

- ・男子1部リーグ優勝4連覇/大学王座準優勝
- ・女子1部リーグ優勝5連覇/大学王座2度目の優勝
- ・関東1部リーグで4度目のアベック優勝。
- ・第19回ユニバーシアード(イタリア)女子複で岡本聖子が銅メダル獲得。

**1998年(平成10年)**

- ・男子1部リーグ優勝5連覇/大学王座4位
- ・女子1部リーグ優勝6連覇/大学王座2連覇達成(3度目の優勝)
- ・関東1部リーグ5度目のアベック優勝。
- ・コーチ帯同で3週間、岡本聖子がアメリカのITFサーキットに参戦。(写真⑥)

**1999年(平成11年)**

- ・男子1部リーグ準優勝/大学王座準優勝
- ・女子1部リーグ優勝7連覇/大学王座3位
- ・ITFサーキット(アメリカ/メキシコ)参戦。
- ・第20回ユニバーシアード(スペイン)の日本代表監督に堀内昌一が就任。

**2000年(平成12年)**

- ・男子1部リーグ6度目の優勝/大学王座準優勝
- ・女子1部リーグ8連覇/大学王座準優勝
- ・関東1部リーグは6度目のアベック優勝。

**2001年(平成13年)**

- ・男子1部リーグ準優勝/大学王座3位
- ・女子1部リーグ4位(関東リーグ9連覇ならず)



94年、男子が初の大学王座日本一

## 2002年(平成14年)

- ・男子1部リーグ3位
- ・女子1部リーグ9度目の優勝/大学王座3位
- ・テニス部専任コーチにOBの森稔詞就任。

## 2003年(平成15年)

- ・男子1部リーグ7度目の優勝/大学王座3位
- ・女子1部リーグ10度目の優勝(写真⑦)/大学王座4位
- ・関東1部リーグ7度目のアベック優勝。
- ・四大大会のひとつ、オーストラリアン・オープン観戦遠征を開始。以来、有志を募っての恒例行事に。
- ・韓国体育大学と合同合宿。韓国と日本を交互に遠征(03年~06年)

## 2004年(平成16年)

- ・男子1部リーグ5位/1部残留
- ・女子1部リーグ準優勝/大学王座4位
- ・関東リーグで5位となった男子は、初の2部との入れ替え戦へ。勝利して1部残留が決定。

・デ杯日本代表チームのオーストラリア合宿に宮崎靖雄が参加。

## 2005年(平成17年)

- ・男子1部リーグ6位/1部残留
- ・女子1部リーグ準優勝/大学王座4位
- ・関東リーグで6位の男子は2度目の2部との入れ替え戦へ。勝利し、1部残留。
- ・デ杯日本代表チームのオーストラリア合宿に、男子は比嘉明人、女子は遠藤真理子と高橋令が参加。ボブ・プレットコーチの指導を仰ぐ。

## 2006年(平成18年)

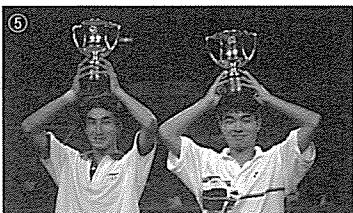
- ・男子1部リーグ5位/1部残留
- ・女子1部リーグ準優勝/大学王座準優勝
- ・関東リーグで5位の男子は、3度目の2部との入れ替え戦へ。勝利し、1部残留。
- ・オーストラリアン・オープン観戦遠征。
- ・コーチ帯同で3週間、オーストラリアのITFサーキットに参戦。

## 2007年(平成19年)

- ・男子1部リーグ4位
- ・女子1部リーグ3位
- ・男子フューチャーズ『第1回亜細亜大学国際オープン』(1万ドル)を開催。篠川智大が本戦1回戦に勝利し、ATP1ポイントを獲得。
- ・国際大会開催にあたり、『チャリティー・テニスクリック』を始める。収益のすべてを運営費に充て、年間20回を目標に開催。
- ・アメリカプログラム(AUAP)の参加学生数が1万人突破。
- ・ユニバーシアード(バンコク)の日本代表監督に森稔詞が就任。
- ・堀内昌一助教授が教授に昇格。
- ・テニス部強化に尽力を注いだ元学長、衛藤瀧吉先生逝去。享年84才。

## 2008年(平成20年)

- ・男子1部リーグ4位
- ・女子1部リーグ準優勝/大学王座準優勝
- ・第2回男子フューチャーズ開催。
- ・スポーツケア・アローズと年間50日間の専属トレーナー契約を交わす。



94年、全日本男子ダブルス制覇の佐藤博康／駒田政史



98年、インカレを制した岡本聖子

## 2009年(平成21年)

- ・男子1部リーグ4位
- ・女子1部リーグ6位/2部降格
- ・関東リーグで6位の女子は、初の2部との入れ替え戦へ。最後はエース宮本紗織が敗れて、2部降格へ。1989年に5部で優勝してから王座優勝、その後は常勝し、1部を死守してきたが、ついに力尽きる。
- ・第3回男子フューチャーズ開催。

## 2010年(平成22年)

- ・男子1部リーグ5位/1部残留
- ・女子2部リーグ優勝/1部昇格
- ・関東リーグで6位の男子は、4度目の2部との入れ替え戦へ。勝利し、1部残留。
- ・関東リーグ2部で優勝の女子は、1部との入れ替え戦で日本大学に勝利し、1部復帰。
- ・全日本選手権・混合複で篠川智大(／瀬間詠里花プロ)が初優勝。
- ・第4回男子フューチャーズ開催。
- ・森コーチ帯同で、ポルトガルのITF女子サーキットに3週間遠征。メンバーは宮本紗織・荒木史織・山本翔子。
- ・新しい部室が完成。

## 2011年(平成23年)

- ・男子1部リーグ6位/1部残留
- ・女子1部リーグ準優勝/大学王座準優勝
- ・関東リーグ6位の男子は、5度目の2部との入れ替え戦へ。勝利し、1部残留。
- ・全日本選手権・混合複で篠川智大(／田中真梨プロ)が2連覇。
- ・第5回男子フューチャーズ開催も、予選サイン当日に東日本大震災が起きる。予選を消化するも、ITF、JTA、春のフューチャーズシリーズ大会ディレクターらと協議の結果、大会中止を決定。
- ・亜細亜大学建学70周年。
- ・テニス部創部50周年。
- ・部室前に駐車場が完成。

## 2012年(平成24年)

- ・男子と共に、女子サーキット『第1回亜細亜大学国際女子オープン』(1万ドル)を開催。伊波佳苗が単ベスト8進出。
- ・第6回男子フューチャーズ開催。
- ・男子1部リーグ6位/1部残留
- ・女子1部リーグ4位
- ・関東リーグ6位の男子は、6度目の2部との入れ替え戦へ。勝利し、1部残留。
- ・亜細亜大学文部科学省「グローバル人材育成推進事業」採択

## 2013年(平成25年)

- ・男子1部リーグ5位/2部降格
- ・女子1部リーグ4位
- ・関東リーグ5位の男子は7度目の2部との入れ替え戦へ。敗北し、1994年から続いた1部から降格する。
- ・亜細亜大学新5号館完成
- ・第7回男子フューチャーズ開催。
- ・第2回亜細亜大学国際女子オープン開催。山本翔子が単ベスト8進出。

## 2014年(平成26年)

- ・第8回フューチャーズ開催。
- ・第3回亜細亜大学国際女子オープン開催。

03年、10度目の関東リーグ優勝







# 亞細亞の部活

## 入学前から卒業までの流れ

入学前

高校3年 ⇒ 大学1年  
大切な時間 大学入学前から部活は始まっている

12月

年末合宿(12月20日~27日)

練習内容

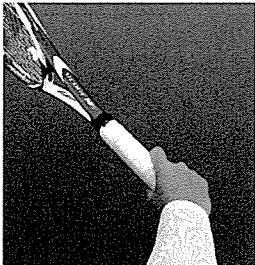
- ・学生は全国各地から延べ100名を超す参加者(高校生・中学生)とともに練習やトレーニングを行なう。後輩たちとともにに行なうことにより、テニスの基礎を確認、時間をかけて徹底的に基礎を磨く。



ときにOB、OGやプロ(スペシャルゲスト)も参加。レクチャーを受ける高校生や部員たち

- ・その年にやり残した課題、自分の改善点を徹底的に克服する。

- ・特にサービスは改善の必要がある場合が多く、この時期にグリップをコンチネンタルにして、基本を学ぶ。



全員コンチネンタルグリップへ移行

オリエンテーション

- ・部員が作成したカレンダーに

- ・基づいて、翌年1年間のスケジュールを説明。

- ・4月からスタートする大学生活、特に授業に関する説明がある(4年間で必要な124単位に関して)。1年生での単位数取得の方法とその重要性などのレクチャーを受ける。

- ・『テニス発見ノート』を作成。

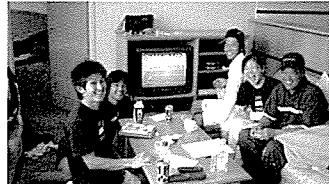
- ・翌年2月から始まる合宿までの宿題となるのが読書。『五輪の書』と『不毛地帯』を読み、後日感想文を提出。



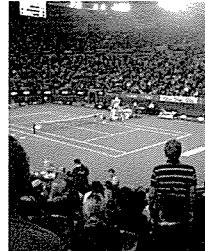
1月

・冬休み(故郷へ帰省する学生が多い)

- ・四大大会のひとつ、オーストラリアン・オープン観戦。有志を募り、学生や監督・コーチとともにメルボルンへ。予選および本戦を観て、肌で“世界のテニス”を感じる(1月10日前後～20日前後まで)。



監督・コーチと同じ部屋で、夜中もテレビを観ながら談笑



オーストラリアン・オープンのセンターコート

2月

- ・高校を卒業した学生から2月の合宿に参加(12年末合宿での宿題提出)。

- ・大学4年間でのテニス活動における準備(基礎体力や基礎技術の改善)。

- ・翌3月に大学で開催する男女の国際大会の準備をする。

- ・これから的生活拠点、活動の準備をする。

- ・国際大会参加を想定し、ITFのIPIN(アイ・ピン)登録と春の男子フューチャーズ、女子サーキットへの申し込みを行なう。

3月

- ・基礎練習から応用練習への移行期。

- ・体力強化を継続する。

- ・月末から始まる男子フューチャーズと女子サーキットへの参加を目指すとともに、大会運営に参加する。



スーパーバイザーから審判のレクチャーなどを受ける学生

入学後

## 4年間の目標を考える。 学生は本物を学べ!!

- ・Ever Upward「自らの可能性は、それを信じ続けた者だけが実現できる」(亜細亜大テニス部テーマ)の実行
- ・スポーツマンシップの獲得。人間的成长を目指す。
- ・大学王座・インカレ・全日本選手権など主要大会での優勝を視野に置く。
- ・海外などへ積極的に遠征し、世界ランキングに必要なATP・WTAポイント獲得を目指す。
- ・亜細亜大テニス部が使う重要ワード～意識改革／できるまでやる／適当や雑を一切無くす／時間を大切にする
- ・そして、卒業する！

大学

1 年

- ・1年間で40単位取りきれるように努力する。
- ・体力、技術、精神の向上を目指す。
- ・基礎体力、基礎技術の取得。
- ・大学テニス界での自分の位置を確立すること。春／夏の関東学生での予選突破や本戦での活躍。インカレでの活躍。学生ランキングを上げること。
- ・新しい生活に慣れ、部活動とともに大学生活においての自分のペースを確立すること。

大学

2 年

- ・さらに40単位を取り、3年生で124単位取り切れるように努力する。
- ・勝負の年にする。
- ・体力、技術力のさらなる向上。
- ・積極的に对外試合や国内一般トーナメントに参加する。
- ・目標を忘れず、周りに流されないこと。

大学

3 年

- ・3年生終了時に、124単位を取り切れるように努力する。
- ・勝負の年を充実させていく。
- ・海外遠征や国内トーナメントなどに積極的に参戦する。
- ・卒業後のことを見据えて、思いきりチャレンジする。
- ・卒業後に向けて進路を決定していく。部活動をきちんとこなしながら就職活動を行なう。

大学

4 年

- ・4年間の集大成として、思いきり勝負する(そうなるように1～3年生をコツコツと精一杯努力しておくことが重要)。
- ・積極的に海外遠征でチャレンジする。
- ・卒業後の準備をする(プロ、実業団、指導者、教員、一般社会人など、それぞれの道へ)。
- ・教職科目を履修している学生は、母校にて教育実習を行なう。

### Aプロジェクト 亜細亜テニス部員が4年間かけて達成することを “Aプロジェクト”と呼ぶ

- ・JTA(全日本ランキング)100位以内を目指す。(男子1519位～1位／女子775位～1位)そして、全日本選手権への出場、活躍を目指す。

- ・年間52週のうち3分の1の休みをうまく活用してオープン大会へ積極的に参加、ランキングを上げる。
- ・テニスの戦略&戦術を学び、必要な技術に

- 磨きをかけていく。
- ・基礎体力の向上を目標に計画性をもち、目標達成の原動力にする。

## 戦術の研究 情報・理論の収集・勉強

コーチングスタッフは、ユニバーシアード元日本代表選手、全日本チャンピオン、インカレチャンピオン、グランドスラム出場経験者など。その経験を生かし、年間の練習プラン、メニュー作成から、実戦練習、戦術、ゲーム研究までを学生といっしょに行なう。

- ・堀内監督によるテニス講義「戦略と戦術」について、それに必要な「9つのボール調整」「ナチュラルスピンドサービス」などが考え方のベースとなる。
- ・部室には、テニス、トレーニングに関する1000冊を超える書籍やテニス関連の映像教材が設置されていて、自由に利用できる。
- ・毎年1月に行なわれるオーストラリアン・オープン観戦の遠征や、国内主要大会観戦(デ杯・フェド杯・ジャパンオープン・東レPPO・全日本)に、積極的に出掛けて、理論を勉強する。情報収集の重要性。
- ・主催する男女国際大会でのゲーム分析(サービス、リターンの確率／エース・ミスの調査比較など)。出場学生のほか、参加選手のデータ収集も可能となり、非常に有効な情報収集、研究の場となる。
- ・自身の練習や試合を撮影し、部室のテレビなどを使ってチェック、改善に役立てる。
- ・主要大会のゲーム映像を部室の大型テレビで研究。
- ・関東大学テニスリーグなどのゲーム分析。
- ・時間や空間、場所取りなどテニスにおける戦術をゲーム分析含め映像やデータなどから読み取り、実際に役立つように処理し修得する。

### 試合後のミーティングが特に重要

トーナメントを終えたあとは、コーチングスタッフとミーティングを行なう。反省をもとに改善点を洗い直し、その反省を生かし、次のプランを作成し実践していく。

### 卒業生のプロたちも学生を強力サポート

卒業生で選手活動をしている比嘉明人プロ、宮崎優美プロ、佐藤博康プロ、井上貴博プロ、北崎悦子プロ、荒木史織プロ、長谷川梨紗プロ、木下ミサプロ、矢野洋プロなどが、大会の合間に練習に参加し、学生を引っ張っている。心・技・体を学生とともに鍛え、磨き上げていくことができるのも、いまの亜細亜の大きな特徴。卒業生プロたちは、卒業後も大学をホームコートとして活用している。

# 1年間の流れ

**授業+練習(火-金◎16:00-20:30、土日◎9:00-18:00) + 試合**

**練習(火-日◎9:00-18:00)  
+ 試合**

4月

5月

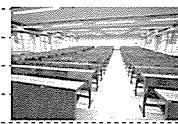
6月

7月

8月

9月

授業・テスト



前期授業(15週間)

テスト

休暇

学生大会

春の関東学生  
(予選・本戦)



夏の関東学生  
(予選・本戦)

インカレ  
関東リーグ

テニス

女子サーフィット  
\$25K+\$50K(4大会)

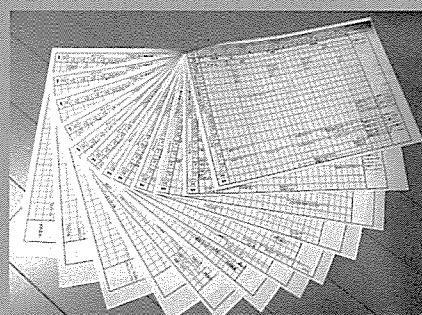
男子フューチャーズ  
F5~F8(4大会)

女子サーフィット\$10K(2大会)

(テスト・主要学生大会期間を除き、授業との兼ね合いを考えて自身のレベルを

## 年間スケジュール

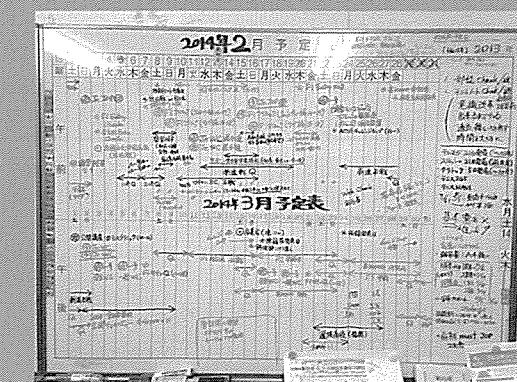
- ・「国際大会チャリティークリニック」を年間20回を目標に開催  
(※写真⑪)チャリティークリニックの風景
- ・毎年3月後半に男女国際大会を主催。男子F1フューチャーズ(\$1万)／女子サーフィット(\$1万)



12ヶ月のスケジュール。学事、  
学生大会、国際大会、JTAハーナメントを記載

## 月間スケジュール

- ・対抗戦やトーナメントスケジュールの確認
- ・クリニックや行事の確認
- ・試合・練習計画作成



12ヶ月のスケジュール。学事、学生大会、  
国際大会、JTAトーナメントを記載



考慮し20万～300万までの国内大会)

### 週間スケジュール

- 基本的に毎週月曜日がOFF
- 外部スクールへアシスタントコーチ派遣／①昭和の森TS、②武蔵野ドームTC
- 毎週水曜日(授業期間中)は、武蔵野キャンパスにてお昼にミーティング
- 土日には、その週の反省と次週の確認を含めミーティング

### 1日スケジュール

授業有り (練習時間／火-金◎16:00-20:30、土日◎9:00-18:00)

- 基本的に1限が9:00からスタート。テニス部員はできるだけ3限までに授業を登録受講し、練習時間の確保に努める。
- 10面のテニスコートを使用する。
- オンコート練習(ナイター設備があり、20:30まで練習可能)。
- 3時間の練習と1.5時間のトレーニング。男子10km、女子8kmのランニング。
- 400mトラックを使いインターバルやランニング、フットワークトレーニングなど。
- トレーニングジムにてウエイトトレーニング。コートではフットワークドリルやプライオメトリクストレーニングなどを行なう。
- 雨の場合は、昭和の森TSインドアコートへ移動して、練習する場合もある。

### 日常のオンコートスタッフ陣

- 堀内昌一監督／森稔詞コーチ(週6日)
- 岡本聖子プロ(週4日)
- 宮崎靖雄プロ(週5日)
- 赤堀奈緒プロ(週1日)
- 佐藤武文プロ(週3日)

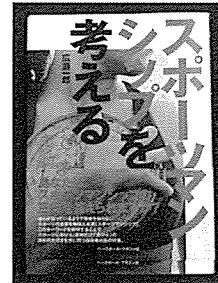
契約トレーナーとともにフットワークトレーニングを行なう



# 我々は本物のテニスを追求する。

## 心の追求

- ・スポーツマンシップの獲得(グッドルーザー～潔く負けを認められる人になるためには…)
- ・メンタルトレーニング受講(月1回、部員は高妻容一先生の講義を受講)。メンタルのスキルアップを実戦している。
- ・礼儀やモラルを大切にする(テニス部というチームで、仲間との協調性を磨き、団体行動において必要とされるモノを取得する)。
- ・PDCA( plan / do / check / action )の徹底。
- ・復習の徹底(試合報告書の作成や本を読み、座学を受けた際の感想文作成など)
- ・個々が毎日精一杯努力し、人間的成長を目指す。



テキスト『スポーツマンシップを考える』

## 技の追求

### なぜ必要なのか?

テニスは対戦競技であり、ネットを挟んで相手と対峙し、1ポイントを奪い合うスポーツ。1ポイントを奪い合い、1ポイントの積み重ねが1ゲームになり、1ゲームの積み重ねが1セットになり、1セットの積み重ねが1試合になる。

そのようなゲーム特性を踏まえると対戦するふたりは、テニスコートの中で、「間」＝時間をうまく使い、「場」＝スペースを確保し、あるいは埋めることを考えて、実行に移す。テニスはお互いが「時間」と「場所」を奪い合うスポーツである。その手段として必要になるのが「技」。

現在の競技力は劇的に進歩しており、スピードもスピinnもリカバリーも戦術も、より速く、より重く、より変化に富み、より高度に、より巧みになっている。スピードがある——すなわち時間が限られた時間の中で、プレーヤーの選択は、くいかに時間的有效に使うか>という、<戦術に基づいた技術>に進化している。

それは、くいかに無駄な時間をなくすか>ということにつながり、さらに、より機能的な運動に近づくという<再現性の高い運動>をすることもある。それが、いま我々が目指している「技」である!

## 体の追求

・専属トレーナーによる年間50日間のトレーニング指導。

・毎日のランニング(男子10km／女子8km)

・火曜日-金曜日(平日)は3時間のオントート練習と1時間30分のトレーニングで、徹底的に「技」と「体」を追求する。

・テニスコート(ナイター完備)、陸上トラック、トレーニングジムともに9:00-20:30まで利用できる。

・トレーニング1時間30分の内容は、韓国式(体幹)トレーニング、ジムトレーニング、オントートフットワークドリル、メディシンボールでのブレイオメトリックトレーニングなど。

・土・日・休日は6時間のオントート練習となる。

……なぜ6時間もオントート練習か  
……シングルス3セットマッチを2試合、ダブルス3セットマッチを1試合という、現行ルールでの最大ゲーム数を問題なくプレーするための準備。それに耐えられるだけの身体をつくることを目標にしている。常に「将来」に目を向けてトレーニングする。



目的意識を常に持ってランニング

## すべてに共通、練習はできるまでやる!

### どんなことが必要?

「再現性の高い運動」

「戦術に基づいた技術」

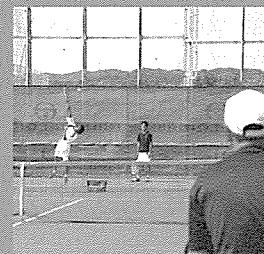
「時間を作る」

- ・時間をつくるとミスが減る。時間をつくると相手を「観る」「探る」「読む」ことができる。時間をつくると場所が確保できる。
- ・我々は、時間をつくるために必要な技術、「戦術的技術」も追求していく。
- ・ただボールを打つだけでなく、技術の効果をどう上げるかを考えながら、技術習得を目指す。
- ・必ずその技術を習得するために、時間で区切った練習はせずに、できるまでやる～達成型の練習を行なう。
- ・対人練習はもちろんのこと、選手同士のコーチング練習、高校生やジュニア、一般プレーヤーを対象としたクリニックでの指導も、さまざまな角度から「技」を磨くためのものである。

### もっとも追求している技術のひとつが「サービス」

試合の中で使う全ショットのうち、3分の1を占めるのがサービスである。ということは、3時間の練習であれば、1時間はサービス練習に費やす必要があると考える。サービスは、テニスの中で唯一のクローズドスキル(相手の影響を受けずに打てるショット)であり、自分自身でコントロールできるショット。サービスを追求することは、テニスの質を高める上で絶対に外せない。だからどんなに時間がかかるとも、至細至では徹底的に追求し、改善し、習得を目指す。

基本的にストロークにおいては、ボール調整(9種類と考えている)を行ない、練習に取り組む。各コートにはゴムで高さを設定し、目指すボールの種類をもって、この高さをクリアするまで練習は終わらない



写真◎●●●●

**19**

88年、亜細亜大学テニス部は大々的な強化をスタートさせました。その舵取りをしたのが、私の恩師のひとりである亜細亜大学元学長、衛藤瀬吉先生（故人）です。先生は「テニスは、ラケット1本で世界中どこでもプレーすることができ、半日でいろいろな国の人とも親交を深めることのできる素晴らしいスポーツ」とおっしゃっていました。

私はいま、そのテニスを通して、志ある学生たちと目の出のテニスコートで汗を流しています。

関東大学テニスリーグ男子7部／女子5部からスタートし、大学王座優勝まで上り詰め、数々の全日本優勝者やグランドスラムでプレーする選手を輩出してきた亜細亜には、現在、ATP・WTAポイントを取得してグランドスラム出場を夢みる学生や、全日本、インカレ、関東学生に出席し、優勝することを目標に日々練習に励んでいる学生、ケガからの復帰を目標にリハビリしている学生などがいます。

そんな学生たちがいる現場では、目標を達成した学生が、新たな目標に向かいいっそう努力する瞬間、目標に届かずあきらめかけ、もがいている瞬間、再度挑戦している瞬間、目標を失い、迷っている瞬間など、それぞれの一喜一憂を目します。その中で私の役目は、個々の「夢」を思い起こさせ、目の前で起きていることに左右されず、軸をもち、軸をぶらさず、目の前の小さなことからクリアしていくようにアドバイスし、導くことです。



大学4年間は、大人になっていく過程でもっとも重要な時期です。一見「楽しそう」に思えることが多々出てきて、気持ちがぶれることがあります。でも長い人生、いくらでも時間はあります。いましか打ち込めないものを見定め、自ら何をすべきか優先順位をつけて自分を磨いてほしいと思います。

テニスを長くやっているとうまくいかないことだけで、あきらめそうになる瞬間もあります。しかし、小さい頃から好きで続けてきた「夢」を簡単にあきらめてはいけません。亜細亜で「夢」を必死に追い続けてみませんか。

私たち、亜細亜大学テニス部の目指す「夢」とは、テニスを通じて人間力を高めることにあります。大学王座やインカレを獲ることに収まらず、全日本選手権優勝やユニバーシアード、グランドスラムへの挑戦——と同時に、社会に出ても大きな力となるスポーツマンシップを修得することです。

「夢」の実現には、まず自分を信じて努力し、学生生活で仲間をつくり、学業で知識を深め、部活動を通して思いやりをもてるよう、そして人に感謝できるように、人のためになれるよう人間力を磨くことです。

現在、それらを経験してきたコーチングスタッフ、堀内監督をはじめ、卒業生たち——グランドスラム出場経験を持つ岡本聖子、インカレ・チャンピオンの赤堀奈緒、インカレインカレ・チャンピオンの宮崎靖雄、そして私——全員学生のオリンピックであるユニバーシアード日本代表経験者が、日々コートに立ち、学生たちを指導しています。

現在の亜細亜大学テニス部のリーグ戦、個人戦の結果を振り返ると、課題は多く、私はもう一度初心に戻って、取り組まなければならないと思っています。自分の学生時代を思い出し、学生たちとコートに立ってボールを打ち合い、うれしいときはともに喜び、つらいときはともに歯を食い縛り、同じ夢を追いかけようと思います。「夢を変えずに自分を変えよう！」——私の好きな言葉です。いっしょに夢を叶えませんか。

**夢を簡単にあきらめないで。  
「夢」を変えずに  
「自分」を変えましょう！  
亜細亜で「夢」を必死に  
追い続けてみませんか。**

**森 稔詞**

(亜細亜大学テニス部コーチ)

挨拶

# 学長 池島政広

(亜細亜大学・亜細亜大学短期大学部)

無限の可能性を  
秘めている  
高校生の皆さん、  
**亜細亜大学で**  
**テニス界に新風を**  
**巻き起こしましょ。**



有意義な学生生活を送るため、また豊かな人間性を育むために、課外活動は大学教育の重要な要素のひとつです。学生時代の私は、応援指導部の一員である楽器奏者として、六大学野球の応援のため、神宮球場でトランペットを吹いていました。厳しい練習や縦社会の人間関係、炎天下での応援など、辛いこともありました。今ではいい思い出ですし、この時のあらゆる経験が、自分を成長させてくれたと実感しています。

学生団体の中でも、とりわけ体育会の学生は就職活動で有利だと言われてきました。クラブという組織の中で、チームワークや先輩後輩の上下関係のあり方などを学んできた点が評価されてきたのでしょうか。国際的に活躍できるグ

ローバル人材のニーズが高まっている今日では、精神的にも肉体的にもタフでストレス耐性ができる、語学力を超えた真のコミュニケーション能力が高いという点も魅力となり、経済の浮き沈みによる採用環境の変化がありながらも、優秀な体育会学生に対する一定のニーズが保たれているようです。

本学テニス部では、自分をしっかりと確立した上で、周囲や他と協力していく「自助協力」の建学精神に基づき、学生個々の個性と人間性を重視した選手育成が行われています。優秀な監督、コーチ、スタッフ陣の指導の下、全国レベルの輝かしい戦績を収め、本学の名声を高め

ると共に、国際大会の開催をとおして、学生テニス界の発展にも寄与してきました。これからも、世界を視野に入れ一流のアスリート育成目標とし、チーム一丸となって果敢に挑戦を続けてくれるものと信じています。

亜細亜大学は、無限な可能性を秘めている高校生諸君の若い力に期待しています。本学テニス部の新たな歴史を一緒に築き、大学テニス界に新風を巻き起こす意欲と気概のある選手を大いに歓迎します。

## 宇田川 裕

(学術情報部長)



社会に有為な人材の輩出、  
社会貢献に取り組み、  
“世界に開かれた  
テニスチーム”を目指します。

亞細亞大学テニス部は、50年を超える歴史と伝統、輝かしい戦績や、多方面で活躍される卒業生の存在だけではなく、他には実現できない画期的な練習プログラムや教育システムをもって運営され、常に前進し続けています。

テニスプレーヤーの誰もが、満足できる成果を上げたいと思っています。ただ、練習によって技術を磨き、単に大会に出場するだけでは、その目的は達成できません。プレーするのは人間ですから、全般を鍛えていくことが必要なのです。また、今般の激変する社会環境にあって、大学卒業後に社会人として逞しく生き抜くには、スポーツの技術や理論を通して、思考力、実践力を身につけ、友人との協働とさまざまな社会体験によりコミュニケーション能力を養って、人間力を高めることが重要となります。

これを実践するために、私たちはさまざまな実践プログラムを用意しています。まさに、心・技・体を鍛え上げる、人間力の高いバランスのとれた学生育成を行なうのです。

そして、海外遠征や国際テニス大会の運営によって、国際感覚をも磨いてゆくのです。

私たちは、社会に有為な人材の輩出やテニス競技普及等の社会貢献に取り組み、皆さんとともに“世界に開かれたテニスチーム”となることを目指していきたいと思います。

## 金子国彦

(学生生活課課長)



明るく、爽やかで、個性豊かな  
バランスのとれた人間に  
成長してほしい。  
国際社会に貢献できる  
人材育成が目標です。

亞細亞大学テニス部は、スポーツ新興の一環として大学の強化クラブに指定されており、大学テニス界においてトップクラスの戦績を挙げています。これも堀内昌一監督、森稔詞コーチ等の熱心な指導による、部員ひとりひとりの日頃の努力と、チームとしてのまとまりがこのような良い結果につながったと思います。

本学は、単にテニスが強い大学を目指してはおりません。部員ひとりひとりが社会で活躍できるよう育成すべく、大学生活においてもていねいな指導を心がけております。特に授業のサポート体制は他大学にないものであります。同時に生活指導も行き人格形成においても、明るく、爽やかで個性豊かでバランスのとれた人間に成長していくことを目標としています。

また、大学という教育機関が、世界レベルへの登竜門となる国際テニス大会を主催することにより、本学の使命でありアジア地域を中心とした国際化の取り組みを実践する場となり、国際社会で貢献できる有為な人材の育成を図っております。

人柄がよく、やる気のある者、自分の可能性を感じぜひとも、亞細亞大学のテニス部にチャレンジしてください。クラブ一同、歓迎いたします。

### 衛藤藩吉先生を偲んで

### この出会いですべては始まった

文◎堀内昌一

「亞細亞大学学長の衛藤です。帰国したら大学で会おう!」——昭和62年7月、私がジュニア日本代表チームのコーチとしてロンドン（ワインブルドン）に遠征していたときにいたいた電話です。

帰国して学長室を訪ねると、衛藤先生はランニングシャツに下駄履きといいで立ちで私を迎へ、大学改革についての思いをぶつけてきました。そこでも、生意氣にも自分の思いをぶつけました。日本テニス界は18歳以上の強化が課題であること、大学での指導の必要性、そして世界挑戦——当時の私は26歳です。

衛藤先生は、私の話をにこにこしながら聴いてくださり、こう言いました。「テニスはどこへ行つても誰とでも友達になれるスポーツ」「誠実な人柄のテニス選手は、どんな仕事をひとりでやり抜くことができるよ」と。衛藤先生はテニスが大好きで、自ら体験されて、それを知っていたからこそその言葉でした。

スポーツを強化する目的が、宣伝や経済効果を考えての手段となることが少なくない世の中で、衛藤先生の純粋な考え方には惹かれ、亞細亞大学を選ぶのにもう時間はいりませんでした。あれから25年が経ち、あのときがなかつたら……いまの私もテニス部もありません。だから衛藤先生、心からありがとうございます。どうぞさいます。いつも見守っていてください。

「亞細亞大学学長の衛藤です。帰国したら大学で会おう!」——昭和62年7月、私がジュニア日本代表チームのコーチとしてロンドン（ワインブルドン）に遠征していたときにいたいた電話です。

帰国して学長室を訪ねると、衛藤先生はランニングシャツに下駄履きといいで立ちで私を迎へ、大学改革についての思いをぶつけてきました。そこでも、生意氣にも自分の思いをぶつけました。日本テニス界は18歳以上の強化が課題であること、大学での指導の必要性、そして世界挑戦——当時の私は26歳です。

衛藤先生は、私の話をにこにこしながら聴いてくださり、こう言いました。「テニスはどこへ行つても誰とでも友達になれるスポーツ」「誠実な人柄のテニス選手は、どんな仕事をひとりでやり抜くことができるよ」と。衛藤先生はテニスが大好きで、自ら体験されて、それを知っていたからこそその言葉でした。

スポーツを強化する目的が、宣伝や経済効果を考えての手段となることが少なくない世の中で、衛藤先生の純粋な考え方には惹かれ、亞細亞大学を選ぶのにもう時間はいりませんでした。あれから25年が経ち、あのときがなかつたら……いまの私もテニス部もありません。だから衛藤先生、心からありがとうございます。どうぞさいます。いつも見守っていてください。

# 亜細亜大学テニス部 指導スタッフ紹介

## ディレクター兼テクニカルコーチ

教え子のコーチ陣に囲まれて、指導体制はとても充実しています。その指導に甘えることなく、自立した学生、選手、部活を目指しています。



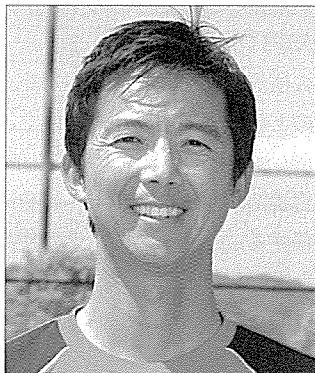
### 堀内昌一監督

(亜細亜大学教授／テニス部監督)

全体を統括し、学生がテニスに集中して競技力を向上できる環境を整えている。これまで育ててきたOB、OG複数名をコーチとして迎え、指導者が常駐するほか、遠征に帯同できる準備もある。そのほか、トレーニングコーチ、メンタルコーチ、メディカルスタッフも揃え、あらゆる角度から学生をサポートする。

ほりうち・しょういち◎1960年に東京都世田谷区に生まれる。1972年に中央大学付属高校に入学、戦績はIH都予選ベスト64だった。日本体育大学に入学し2年生のときアメリカのニック・ボロテリーに留学、その後New Mexico Military Institute大学に留学。1982年には全米短期大学テニス選手権でベスト8に入った。帰国直後のインカレでベスト8に入り、翌年の関東学生では優勝。その後、ユニバーシアードに選ばれた。日本体育大学大学院修了後、1987年に亜細亜大学の衛藤滌吉学長と出会い、テニス部の監督を引き受ける。しかしそのときの亜細亜大学は男子7部女子5部、共に最下位であった。1988年、監督の指導力に惹かれ、前年のIHチャンピオンの岡田岳二さんや山崎史子さんをはじめ、高田充さんらの高校トップクラスの選手が亜細亜に入學し亜細亜大学の快進撃が始まった。ATP S 571位/D 713位 JOP S 17位/D 13位

## テクニカルコーチ

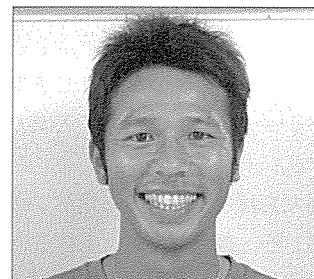


### 森 稔詞

(亜細亜大学学生生活課所属)

27年前の第一期生が母校に戻り、学生に“テニスの精神”を叩き込む全力指導をしている。週6日男女部員を指導。

もり・としつく◎1969年12月22日大阪府で、父(故)顕郎と母孝子の間に生まれ、弟大明の2人兄弟。父の仕事の都合で東京へ上京。小学校在学中、地元の多摩ローンテニスクラブで毎日壁打ち、週末は野球。中学校在学中、平日は多摩ローン、週末は朝日生命テニス教室(スクール)へ通う。のち、大阪にある名門清風高校へ進学。3年次インターハイでは団体・単・複すべて準優勝。全日本ジュニア18歳以下複優勝。その後、亜細亜大学へ進学し3・4年次インカレ単2連覇とアジア学生選手権単複2連覇。90年ユニバーシアード日本代表(イギリス)複ベスト8。卒業後プロ転向プリンスホテルと契約、92年全日本テニス選手権複優勝、94年全日本室内選手権単優勝。97年引退。現在、亜細亜大学堀内監督の下、後進の指導にあたる。07年ユニバーシアード日本代表監督。日本ランキング単5位・複4位・ATPランキング単579位・複473位が最高。大学1年生から8年間ナショナルチームメンバー。



### 宮崎 靖雄

現役プロでありながら、週5日男子部員を指導している。アカデミックな思想を持ち合わせ、学生との打ち合いで与える影響は大きい。

みやざき・やすお◎1981年8月29日熊本県出身。小学4年からテニスを始め、中学3年初めて全国大会に出場(全国中学生テニス選手権)。熊本マリスト学園高校に入学、高校2年次、全国選抜室内ジュニア選手権優勝。3年次ウィンブルドンジュニア出場、全日本ジュニア複優勝。亜細亜大学に入学。全日本学生室内テニス選手権単優勝、複準優勝。03.05年ユニバーシアード(トルコ)複ベスト8。日本ランキング単17位、複16位／世界ランキング単790位、複829位。現在は筑波大学大学院を修了しコーチをしている。



### 佐藤 武文

大学時代に大きな成長をし、結果を出しているということもあり、学生に大きな影響を与えていた。

さとう・たけふみ◎1971年東京都港区生まれ。高校では関東ジュニアすら出場なしという目立った戦績を残していくなかつたが、亜細亜大学にて1年生春闇で関東学生、2年でインカレ出場、3・4年次に夏関複優勝、全日本選手権複出場と多くな戦績を残す。卒業後も関西オープンダンブルスで何度も優勝している。1999年テニスコーチとなる。小畑沙織、吉田友佳のツアーコーチとして世界を転戦するようになる。森上ア希子のツアーコーチだったときウィンブルドンのセンターコートで試合を行なうまで育てあげた。現在はCS放送GAORAでのWTA、ATPツアーのテレビ解説をしながら亜細亜大学の学生のコーチをしている。



### 赤堀 奈緒

週1日女子部員を指導。5部だった亜細亜を1部の常連にした立役者は、そのハングリー精神と職人気質な身体の使い方を指導してくれる。

あかぼり・なお◎1971年生まれ。1987年東海大学付属相模高等学校入学し2年次に全日本選手権ベスト8に入る。1990年亜細亜大学に入学し2年次にアジア学生テニス選手権(台湾)S優勝。全日本学生選手権Sベスト4、D優勝。全日本学生室内選手権S、D優勝。群馬オーブンS、D優勝。3年次には関東学生選手権S優勝。全日本学生選手権S優勝、D準優勝。全日本選手権Sベスト16Dベスト4になる。最高学年のときは、ユニバーシアードD準優勝。1994年大東銀行入行。1995年テニスプロ転向。1997年に全日本選手権Sベスト16、D優勝。1998年腰椎椎間板ヘルニアで引退。1999年～現在、民間クラブのテニスコーチ。2001～2004年東京医療専門学校(鍼灸)。2004年～亜細亜大学コーチをしながら鍼灸マッサージの仕事をする。2011年～現在、祖師ヶ谷大蔵で治療院を開業中。



## 岡本聖子

週4日女子部員を指導。“プロに負けない学生プロ”を体現した張本人が、母校に戻って来た。明るい笑顔の指導で部活が楽しくなっている。

おかもと・せいこ◎1978年に大阪府豊中市に生まれる。小学校高学年でテニスを始め、中学、高校とテニスの名門校である夙川学院に進学。インターハイ団体3位、単ペース8、複ペース4の成績を残す。その後、亞細亞大学堀内監督の「プロに負けない学生」という言葉に惹かれ、亞細亞大学へ進学。卒業後、プロ転向し、グランドスラムの全豪ダブルス2年連続出場、シングルス予選すべてに出場する。全日本タイトル8、WTAツアータイトル1、ITFサーキット決勝進出最多記録を持つ。2年前に現役を引退し、これまでの経験を元に、後輩の指導、プロ選手のサポート、テニスウェアの開発を行っている。



## 北崎悦子

週1女子部員を指導。大学卒業後にプロ転向し、現在は大学院で研究活動をしている。テニスの指導だけでなく学生の悩みにも親身になって考えててくれる。

きたざき・えっこ◎1982年東京都出身。東海大浦安高校卒。00年全日本ジュニア18歳以下単ベスト8。01年亞細亞大学入学。01年夏闇・単優勝、インカレ単ベスト4、インカレインドア単準優勝。03年インカレインドア復優勝。卒業後にはプロ転向をし、07広島国際女子オープン単優勝。09年東レPPO予選出場。自己最高位はWTA単516位12年現役引退。現在、女子部員の指導と筑波大学大学院でコーチング原論・トレーニング学領域を勉強中。

### トレーニング担当



## 青木祐子

月に数回トレーニング全般を指導。試合時にはチームに帯同して、コンディショニングからマッサージまでを行う。

あおき・ゆうこ◎1971年神奈川県鎌倉市生まれ。東京学芸大学人間科学課程にてバイオメカニクス・トレーニング理論・運動处方等を学ぶ卒業後日産スポーツプラザ株式会社に入社。インストラクターとして勤務資格取得のため退社し帝京医学技術専門学校に入学。柔道整復師の資格を取得。社会人アメリカンフットボールチームのトレーナーや高校バスケットボール部のトレーナーとして活動し2007年から亞細亞大学テニス部にトレーナーとして参加。

### メンタル担当

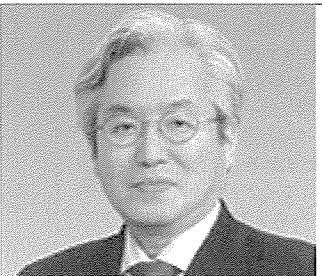


## 高妻容一

月に1回、メンタルトレーニングを指導。学生自らがトレーニングできるように、スチューデントトレーニングという役割を作り、トレーニングが継続できるように努力している。

こうづま・よういち◎1955年、宮崎県生まれ。福岡大学(体育学部体育学科)卒。中京大学大学院(体育学研究科体育心理学)修了後、フロリダ州立大学へ留学(スポーツ心理学など)、博士課程中退。1993年、州立フロリダ大学へ1年間の研究留学。近畿大学教養部助教授を経て、現在、東海大学体育学部教授。1985~2001年、日本オリンピック委員会のメンタルマネジメント研究班員。1994年からメンタルトレーニング・応用スポーツ心理学研究会をスタート。所属学会は「国際メンタルトレーニング学会」など10を数える。

### コンディショニング担当



## 平石貴久

亞細亞大学テニス部の心強いチームドクター。血液検査を定期的に行なうなどして、身体に関する基礎知識を指導する勉強会を行うなどして、学生の体調を管理している。

ひらいし・たかひさ◎1950年鹿児島県生まれ。東京慈恵会医科大学卒業。専門は内科、循環器科、スポーツ医学、放射線診断、東洋医学、鍼灸あん摩マッサージ指圧師。介護予防運動指導員。日本体育協会公認アスレティックトレーナー。駒澤大学卒業後、小守スポーツマッサージ部のトレーナーに就任。'81年に独立し、日本トレーナー協会所属、三宅スポーツマッサージを設立。医療法人社団貴生会理事長。東京ミッドタウンメディカルセンター平石貴久特別外来ドクター。

### 学内スタッフ



#### 宇田川 裕 (学術情報部部長)

亞細亞大学テニス部OBで、男子部部長である。現在は亞細亞大学職員として、学校の仕事もしながらテニス部の運営や就職の手伝いをしている。亞細亞大学国際大会事務局長。



#### 金子国彦 (学生生活課課長)

亞細亞大学テニス部OBで女子部部長である。現在は亞細亞大学職員として年度始めに履修カリキュラムのミーティングをしたり、部活との兼ね合いで履修ができない授業がある学生の、時間割変更などのサポートをしている。

# 部員名簿

①学部②出身地③出身校④生年月日⑤テニス歴⑥身長⑦好きな選手  
⑧趣味⑨主な戦績⑩目標⑪高校生にひと言⑫自己PR

## 高山和也

(主将)4年



①経済学部②福岡県③1992年6月7日④湘南工科大学附属高⑤1992年6月7日⑥12年⑦170cm⑧山室智明⑨激しい音楽を聞くこと⑩一部昇格⑪'13新進復ベスト8⑫大学時代に一番テニスが伸びると思います。亜細亞は、個性を伸ばしながら成長できますよ。一緒に頑張りましょう。⑬大学生活でテニス以外の様々なことを学びました。今年は必ずチームを一部に上げ、来年後輩に有明でおもいっきりプレーさせます。

## 小堺遠馬

(副将)4年



①法學部②福島県③秀明英光高④1992年4月25日⑤12年⑥178cm⑦高山和也⑧スノーボード⑨サービス力を上げる⑩'13インカレ単予選⑪こんなに素晴らしいスポーツはないです。楽しんでやろう。⑫テニスだけではなく息抜きもしっかりしているため切り替えが早いです。

## 白井卓也

4年



①法學部②埼玉県③東京学館浦安高④1992年11月26日⑤13年⑥172cm⑦国枝慎吾⑧音楽鑑賞⑨インカレ優勝、全日本出場⑩'13インカレ単出場、12新進単ベスト8⑪環境面は最高に良い所なので練習、トレーニングに聞いては申し分ないと思います。あとは、やる気のある方大歓迎です。⑫テニスと勉強がなかなか両立できませんがテニスに関して少しはアドバイスできると思うので誰でも気軽に聞いてください。あとは、大学生活最後の年なのでしっかりと結果が出せるように日々の練習を全力で頑張っていきたいと思います。

## 鍛代 悟

4年



①法學部②東京都③松が谷高④1992年11月5日⑤11年⑥171cm⑦牛島公貴⑧趣味読書、ゲートボール⑨一部昇格⑩'12春関単2次予選F⑪どんなに辛くても諦めないで自分を信じて頑張って下さい。⑫大学生活最後なので、4年間の集大成を結果に結びつけるために頑張ります。

## 森下亮太郎

4年



①法學部②宮城県③佐野日本大学高④1992年3月7日⑤10年⑥176cm⑦ツォンガ⑧スキー⑨一部昇格⑩'12新進単1次予選F⑪ともに頑張っていこう。⑫追い込める時に、追い込みましょう。

## 佐藤俊介

(主務)4年



①国際関係学部②三重県③四日市工業高④1992年12月15日⑤13年⑥178cm⑦ジョコビッチ⑧読書⑨一部昇格⑩'11春関単2次予選SF⑪後悔のないように生きよう!⑫あっという間に最上級生になりました。今までと違ってテニスだけ頑張ればいいわけではないので、仕事とテニスをこなすマルチな人間になりたいと思います。

## 谷戸孝雄

4年



①法學部②佐賀県③桜町高④1993年1月8日⑤7年⑥176cm⑦トマス・ベルデイッチ⑧人間観察⑨関東学生になること⑩'12年新進単1次予選F⑪プロフェッショナルを目指そう。⑫4年生になり授業が少なくなり一層テニスに打ち込む時間が増えました。最後の年、毎日ランニングしてトレーニングして練習して全てを出し切ります。

## 越田晃司

4年



①経済学部②石川県③金沢伏見高④1992年11月15日⑤9年⑥168cm⑦堀内昌一⑧サーフィン⑨全日本優勝⑩'11年春関単2次予選SF⑪クラブ活動頑張ろう。⑫真面目に一生懸命練習に打ち込んで頑張ります。

## 仲村元希

3年



①経済学部②大阪府③大阪産業大学附属高④1993年6月3日⑤16年⑥182cm⑦ツォンガ⑧夢を語ること⑨インカレ優勝⑩'13インカレ単ベスト32⑪一緒に汗を流しましょう。⑫昨年は、リーグの時期に怪我をしてチームに迷惑をかけました。その分今年は頑張ります。

## 秋山和潤

3年



①国際関係学部②岐阜県③麗澤瑞浪高④1993年7月21日⑤14年⑥171cm⑦ワウリンカ⑧釣り⑨インカレ単複ベスト8⑩'14新進複ベスト8⑪全ては気合と根性です。⑫とにかく、コート上を気合と根性で走り回ります。昨年の悔しい思いをバネに亜細亞の底力を見せて、今年は絶対に一部に昇格します。

## 宮脇駿

3年



①国際関係学部②愛知県③名古屋高④1993年10月31日⑤12年⑥168cm⑦ハン・リヤンチー⑧読書⑨春関本戦出場⑩'13春関複2次予選F⑪亜細亞なら頑張れます。⑫アメリカ帰りでパワフルになりました。持ち前の俊敏さでコートを走り回ります。

## 小林浩貴

3年



①経済学部②宮城県③仙台商業高④1994年2月12日⑤11年⑥173cm⑦ギレルモ・コリア⑧ラーメン・つけ麺めぐり⑨インカレ出場&全日本本戦出場⑩'13東京国体出場⑪1日1日を大事に生きて。⑫毎日ストイックに追い込みます。雨にも負けず風にも負けず雪にも夏の暑さにも負けない小林になります。

## 西岡 靖雄

3年



①法学部②三重県  
③四日市工業高④  
1993年10月8日⑤  
11年⑥167cm⑦西  
岡良仁⑧お風呂⑨  
一部昇格⑩'14春関  
複2次予選F⑪今を  
大切にしてください。  
⑫最近時間が過ぎるのを早く感じます。  
残りの時間を有意義に使える様に準備  
を大切にしていきます。

## 豊田 魁

3年



①国際関係学部②  
山形県③日本大学  
山形高④1993年  
10月13日⑤15年⑥  
178cm⑦ヒューイット  
⑧映画鑑賞⑨インカ  
レ出場⑩'13年春関  
複2次SF⑪亜細亞  
大学に入りたい人はぜひ国際関係学部  
へ。⑫5ヶ月間のアメリカ留学のしたこと  
でいろいろな面でパワーアップしました。  
今年こそ関東学生になりたいと思います。

## 糸井 彬

3年



①経済学部②千葉  
県③麗澤高④1993  
年7月6日⑤8年⑥  
180cm⑦西岡靖雄  
⑧おいしいものを食べる  
⑨全日本出場⑩'14  
年春関複2次F⑪色  
んなことに目を向けよ  
う⑫千葉から来た両利きです。今年は両  
利きを生かして全力でプレーします。

## 松本 亘

3年



①経営学部②埼玉  
県③浦和学院高④  
1993年12月18日⑤  
9年⑥181cm⑦ツオ  
ンガ⑧空を見る⑨一  
部昇格⑩'14春関単  
1次予選SF⑪幸せ  
になろう。⑫テニス、  
勉強共に全力で頑張ります。学生大会  
一つでも多く勝利し心の財産を増やす様、  
精進していきます。

## 田村 亮

3年



①法学部②高知県  
③高知中央高④  
1993年4月7日⑤8  
年⑥176cm⑦リエン  
ダー・パエス⑧ショッピ  
ング⑨2次昇格⑩'13  
夏関単複2次F⑪軸  
を持ちましょう。⑫高  
知県から来ました。一部昇格と関東学生  
を目指します。勉強も頑張っていきたいと  
思います。

## 井上 裕貴

3年



①法学部②山形県  
③日本大学山形高  
④1993年8月13日  
⑤7年⑥167cm⑦  
錦織圭⑧音楽鑑賞  
⑨関東学生になる  
⑩'13春関複2次SF  
⑪全力で大学生活を  
満喫しよう⑫テニス部初の編入生です。  
今年は短大の後輩が出来たので編入試  
験のイロハを伝え、自分自身もしっかりと  
勉強していくこと。

## 李 国淵

2年



①経営学部②韓国  
③金川高(韓国)④  
1993年10月15日⑤  
8年⑥178cm⑦トミ  
ー・ロブレド⑧ビリヤード  
⑨インカレ出場⑩'13  
新進単ベスト64⑪一  
緒にやろう。⑫より良  
い環境や自分よりも強い選手と練習し、  
レベルアップするために韓国から來ました。  
テニスだけではなく、勉学にも力を入れて  
世界で通用する選手になりたいです。

## 土居祐太

2年



①経済学部②東京  
都③獨協埼玉高④  
1994年9月20日⑤6  
年⑥185cm⑦ジョコ  
ビッチ⑧買い物⑨イ  
ンカレ出場⑩'13春  
関ダブルス2次SF⑪  
平凡なことを1つ1つ  
積み重ねていきましょう。⑫サーブが得意  
なので、それを中心としたプレーをしていき  
たいと思います。諦めずに一生懸命頑張  
ります。

## 坂本龍也

2年



①国際関係学部②  
千葉県③麗澤瑞浪  
高④1994年10月  
21日⑤9年⑥173cm  
⑦添田豪⑧料理⑨  
インカレベスト8⑩'13  
春関ダブルス2次SF  
⑪今しかない!⑫ダブ  
ルスが得意です。これからはそれに磨きを  
かけることとシングルスにも自信を持てる  
ようにしていきます。明るく楽しくがモットー  
です。

## 村田道隆

2年



①法学部②埼玉県  
③法政二高④1994  
年6月21日⑤8年⑥  
192cm⑦竹口裕人  
⑧アクティブラーニング  
⑨関東学生出場  
⑩'14春関複2次予  
選F⑪ご飯をしっかり  
食べて体を作ろう⑫いっしょに大学生活  
をベストを尽くして頑張ろう!!

## 大塚陽平

2年



①経済学部②熊本  
県③秀明英光高④  
1994年5月27日⑤  
13年⑥178cm⑦フ  
ェデラー⑧新聞を読  
むこと⑨インカレ優勝  
⑩'13夏関単2次予  
選F⑪新聞を読んで  
社会を知ろう。⑫今年こそは関東学生に  
なれるように一日一日をやり抜いていきま  
す。それから、テニスだけではなく勉強もし  
っかりとやっていきたいです。

## 結城慎之介

1年



①国際関係学部②新  
潟県③東京学館新潟  
高④1995年10月21日  
⑤15年⑥170cm⑦小  
林佑介⑧サッカー、ディ  
ズニーに行くこと。⑨関  
東学生になってインカレ  
ベスト8⑩'13インターH  
イ単ベスト16⑪亜細亞大学はテニスが強くな  
るにはとても良い環境なので一緒に頑張りま  
しょう。⑫大学生活1年目で辛いことはたくさんあ  
りますが一生懸命勉強もテニスも頑張ります。

## 部員名簿

①学部②出身地③出身校④生年月日⑤テニス歴⑥身長⑦好きな選手  
 ⑧趣味⑨主な戦績⑩目標⑪高校生にひと言⑫自己PR

## 田中亮寛

1年

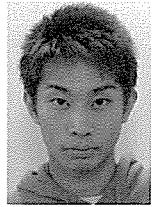
①国際関係学部②神奈川県  
 ③湘南工科大附属高④1996年1月2日⑤8年⑥170cm⑦高山和也⑧音楽鑑賞⑨インカレベスト8、一部昇格⑩インターハイ単・全日本ジュニア単ベスト32⑪選手、コチ陣共にレベルの高い方がたくさんいらっしゃるのでぜひ亞細亜大学に来てください。⑫テニスの特技向上だけではなく学生生活両立を目標としていきたいと思います。テニス面では高校時代までに培ったフットワーク活かして攻撃力を上げていきたいと思います。



## 須田悠揮

1年

①短期大学部②岐阜県③武義高④1996年1月1日⑤3年⑥169cm⑦フェデラー⑧ファッショングループ⑨とにかく強くなる⑩'14春闘単複1次予選1R⑪努力すれば絶対強くなるので頑張ってください。⑫自分のテニスはまだまだなので努力して強くなります。よろしくお願いします。



## 宮 遼太

1年

①短期大学部②東京都③日本大学明誠高④1996年3月5日⑤12年⑥170cm⑦モンフィス⑧音楽鑑賞⑨王座優勝、インカレ出場⑩山梨県新人戦ベスト8⑪文武両道で行こう。⑫自分は短期大学部なので編入のために勉強もしっかりやらなくてはいけないので大変ですが、テニスもしっかり練習してレベルアップしていきたいです。



## 坂本 徹

1年

①経済学部②静岡県③四日市工業高④1996年1月11日⑤12年⑥170cm⑦ダビデンコ⑧音楽鑑賞⑨インカレ選手になること。⑩インターハイダブルス出場⑪オンラインとオフをしっかりと⑫インカレを目指して、日々頑張っています。大学生でしかできないことを、やれるだけやろうと思います。



## 伊藤 陸

1年

①経済学部②東京都③堀越高④1995年9月27日⑤14年⑥170cm⑦マイク・ブライアン⑧スポーツ観戦⑨インカレ優勝・王座優勝⑩東京Jr.ベスト16⑪雨垂れ石を穿つ⑫4年間必死に練習して強くなります。



## 四釜奏知

1年

①経営学部②山形県③長井高④1994年5月9日⑤4年⑥165cm⑦ジル・シモン⑧試合観戦⑨インカレ出場⑩'14春闘単複1次予選1R⑪諦めずに頑張ろう。⑫山形県出身です。4年間を経て強くなるのはもちろんのこと色々なことを学び1回りも2回りも成長できるように頑張ります。



## 橋本大貴

1年

①経済学部②北海道③秀明英光高④1995年8月14日⑤11年⑥176cm⑦錦織圭⑧読書⑨インカレ優勝、王座優勝⑩インハイ・選抜団体3位⑪高校3年間はあっという間です。悔いの残らないように日々全力を尽くしてください。⑫北海道出身です。大学4年間でまた成長できるように努力していきたいです。応援よろしくお願いします。



## 恒松拓未

1年

①法学部②埼玉県③大成高④1996年1月26日⑤11年⑥179cm⑦ツォンガ⑧サイクリング、ダーツ⑨インカレ出場、王座優勝⑩'13インターハイ単2R⑪高校という期間は短いので今やれることをやりましょう。⑫東京からやってきました。自分はサーブとボレーを得意としていて、この亞細亜大学に来てさらに強化していきます。強くなれるのは自分次第なので頑張ります。



## 梅岡優大

1年

①国際関係学部②兵庫県③大阪産業大学附属高④1995年6月19日⑤8年⑥185cm⑦仲村元希⑧野球⑨インカレ出場、王座優勝⑩関西ジュニア複ベスト8⑪高校生活はあっという間に終わるので一日一日大切にしていきましょう。⑫兵庫県から來ました。OBで高校時の顧問である新谷先生や先輩である仲村元希さんに叩き込まれた産大魂で頑張っていきます。



## 保科晃平

1年

①短期大学部②東京都③松が谷高④1995年11月2日⑤8年⑥159cm⑦フェレール⑧映画鑑賞⑨インカレ出場⑩'14春闘単1次予選2R⑪全力でテニスに取り組んでいってください。⑫高校で何も結果を出しませんが、日々精神して目標を達成できるようにがんばってきたいです。



女子  
アジアローンテニス部

## 宇佐川沙耶

(主将)4年

①経済学部②山口県③野田学園高④1992年10月27日⑤13年⑥165cm⑦ヌニダ・ルアンナム⑧DVD鑑賞、料理⑨王座出場⑩'14春闘本戦複ベスト8⑪さあ、亞細亜に行こう。⑫山口県の田舎から出てきたおでんばです。山で走り回って鍛えた足腰は自信有りです。



## 松本千広

(副将)3年

①経済学部②千葉県③幕張総合高④1993年9月8日⑤14年⑥156cm⑦アンゲリク・ケルバー⑧パンケーキ⑨インカレ優勝⑩インカレ単ベスト64、複ベスト16⑪亞細亞大学に来れば強くなれるハズ。⑫左利きでいつも明るく元気です。食べること、寝ることが好きです。今年こそ王座を目指して頑張ります。



## 山浦はる香

3年

①国際関係学部②埼玉県③山村学園高④1993年5月15日⑤10年⑥158cm⑦美濃越舞⑧美味しいものを食べること。⑨インカレ出場⑩春関本戦単ベスト96⑪今を楽しんでください。⑫アメリカ留学から帰ってきました。しっかり食べて、しっかり寝て、しっかり走って、インカレ出場できるように頑張ります。



## 八島ちひろ

(主務)3年

①法学部②福島県③日大東北高④1993年7月20日⑤10年⑥157cm⑦マリア・シャラボワ⑧スポーツ観戦⑨インカレ本戦出場⑩インカレ予選複出場⑪一緒に笑顔でがんばりましょう。⑫どんなボールも最後まで追いかけます。気合と根性で頑張ります。



## 安野聰美

3年

①法学部②埼玉県③山村学園高④1993年8月5日⑤10年⑥163cm⑦美濃越舞⑧料理⑨インカレベスト8⑩春関本戦出場⑪亞細亞と一緒に頑張りましょう。⑫毎日美味しいものを食べることを楽しみに毎日頑張っています。残り2年走り回ってテニスも頑張ります。



## 旗手ひかる

2年

①経済学部②三重県③鈴鹿高④1994年10月11日⑤8年⑥167cm⑦サマンサ・ストーサー⑧ショッピング⑨インカレ出場⑩'12東海総体団体出場⑪亞細亞大学はテニスに打ち込める環境です。一緒にテニスを頑張りましょう。⑫1年の時の怪我をなんとか乗り越えてきました。2年生からは、心機一転テニスに力を注いでいきます。



## 平田智子

2年

①経済学部②東京都③昭和第一学園高④1994年7月25日⑤7年⑥158cm⑦マリア・シャラボワ⑧音楽鑑賞⑨試合の本戦に出場すること⑩'13新進復1次予選F⑪好きなことも苦手なことも一生懸命やりましょう。⑫一般入試でテニス部に入部しました。まだテニスは下手ですが、試合に向けて頑張っていきます。テニスを楽しみつつも真剣に部活に取り組み1年間を過ごしました。いつでも明るくいたいです。



## 下口あみる

1年

①法学部②神奈川県③東京高④1995年4月17日⑤7年⑥173cm⑦アザレンカ⑧テニス⑨インカレ優勝⑩'13神奈川県ジュニア単3位、'13関東ジュニア単ベスト16⑪亞細亞は環境がすばらしい場所です。テニスが強くなりたかったら亞細亞へ入ろう。⑫亞細亞はテニスが強くなるための環境がそろっています。テニスはまだまだですが色々なことを吸収し強くなれるように頑張ります。



## 田中文彩

1年

①法学部②愛知県③津島東高④1995年8月16日⑤10年⑥161cm⑦フェデラーチ・料理⑧インカレ王座出場⑩'12全国高校総体単ベスト64⑪時間はあっという間に過ぎてしまうので毎日を楽しんで悔いの無いように過ごしてください。⑫サーブが得意です。これからもっと磨いていけるように頑張ります。



## 近郷桃子

1年

①経営学部②埼玉県③弥栄高④1996年3月13日⑤4年⑥157cm⑦ナダル⑧寝ること⑨インカレ出場⑩関東大会団体出場⑪どんな事でも楽しんでやろう。⑫努力することが好きです。まだ下手ですがテニスが上手になる環境が整っている亞細亞大学でもっと強くなれるように一生懸命努力していこうと思います。



## 足立菊華

1年

①国際関係学部②東京都③柳川高④1995年9月16日⑤8年⑥165cm⑦アナ・イバビッチ⑧ショッピング⑨王座優勝⑩'13全国高校総体団体ベスト16⑪トレーニングもしっかり頑張ってください。⑫とにかく気合いで頑張ります。明るく元気に4年間で強くなりたいです。



## 亞細亞大学硬式庭球部

1年生

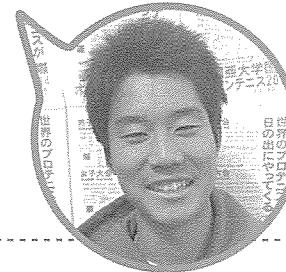
## 橋本大貴の1日

授業日 編

1:00

## 起床

もう少し寝たい所頑張って起きます!



9:00

## 学校到着&amp;授業開始

苦手な英語を駆使し、フレッシュマンイングリッシュに必死に取り組みます。  
1年生はフレマンが必修です。

10:40~12:10

## 授業(2限)

2限も頑張ります。

12:10~12:50

## 昼休み&amp;昼食

お腹が空いて倒れそうな体に栄養補給。

12:50~14:20

## 授業(3限)

お腹いっぱいいで眠いけど頑張ります。

授業が終わり次第、部活の為、引田に直行!



15:30

## 日の出グラウンド到着

まずは練習環境の準備。

みんなで協力してやっています。

16:15

## 部活動開始

自分の中でのメインイベント!全力で練習します!

19:00

## トレーニング

体幹、筋トレ、ダッシュ!!

20:30

## 部活終了

一年生で最後の片付け!

立川に住んでいるので電車で帰ります。

電車の中で空腹と葛藤中…

24:00

明日も1限から授業なのでしっかり睡眠をとります。学校行って単位取るぞー!!

他大学よりも部活も勉強もしっかり出来ます。

自分のやる気次第でどんな事も達成できます。

亞細亞大学で待ってます!



# 入学案内

## スポーツ推薦のご案内

(平成27年度)

**亞** 細亞大学のスポーツ推薦は「経営学部経営学科」「経済学部経済学科」「法学部法律学科」「国際関係学部国際関係学科」と「国際関係学部多文化コミュニケーション学科」の4学部5学科があります。

テニス部は本年度、「経済学部」「法学部」「国際関係国際関係学科」「国際関係学部多文化コミュニケーション学科」の4つから選択することができます。

(平成24年度) テニス部には「経済学部」「法学部」「国際関係学部」のほか、「経営学部」「短期大学部」の学生が在籍しています。

私たちの中には、スポーツ推薦入試だけではなく一般入試やAO入試、指定校推薦などで入部した学生もあります。みんなテニスが大好きな学生ばかりです。部員一同、みなさんの入部をお待ちしています。

亞細亞大学が求める学生像  
募集するスポーツの技能に優れた将来性のある者

### 出願資格

- (1) 原則として、平成25年度3月に高等学校(中等教育学校卒業を含む)卒業見込みの者。ただし、高等学校に相当する課程を卒業見込みの者については、出願資格を審査の上、受験を認めることがある。
- (2) 本学への入学を第1希望とする者。
- (3) 調査書の全体の評定平均が2.7以上の者。
- (4) 高校総体、国体などの全国規模の大会に出場した選手および将来性のある優秀な選手。

### 出願期間

- ▼ I期 平成26年10月28日(火)～11月5日(水)
  - ▼ II期 平成27年1月5日(月)～1月16日(金)
- ※ I期・II期とも郵送出願(締切日消印有効)

### 試験日

- ▼ I期 平成26年11月23日(日・祝)
- ▼ II期 平成27年2月7日(土)

### 試験会場

本学

### 選抜方法

- 第1次 実技・面接(I期は7月下旬から10月下旬、II期は11月下旬。ただし、II期については、募集しない種目もある)
- 第2次 (第1次合格者を対象)小論文・面接・書類審査の総合評価により、合否を判定する

### 合格発表

- [I期]平成26年12月1日(月) 電話・webによる合否発表  
[II期]平成27年2月13日(金) 電話・webによる合否発表

### 入学手続き期間

- I期 [第1次手続] 平成26年12月3日(水)～12月12日(金)  
[第2次手続] 平成27年1月5日(月)～1月26日(月)  
II期 [一括手続] 平成27年2月16日(月)～2月20日(金)

〒180-8629 東京都武蔵野市境5-24-10

入試課直通 TEL0422-36-3273

<http://www.asia-u.ac.jp/> e-mail:nyushi@asia-u.ac.jp



亞細亞大学  
亞細亞大学短期大学部

# 高校生のみんなへ いつしょに テニス しようよ!

40-0!

I'm waiting  
for you

神宮で  
野球応援!

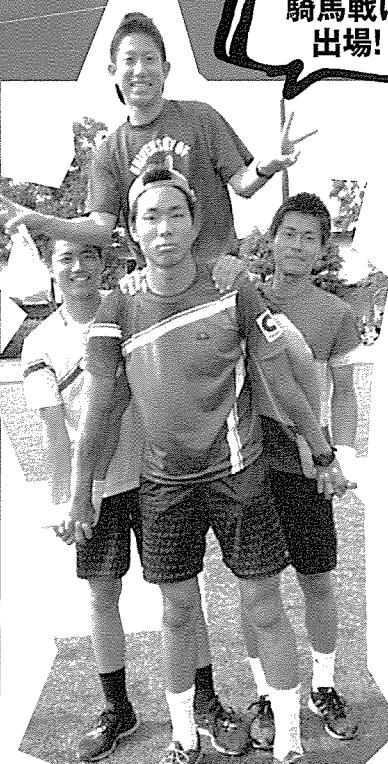
同じ亞細亜の  
学生の応援!  
頑張れ!

恋愛  
おみくじ  
引いたよ!

みんなで  
高尾山!

体育祭☆  
騎馬戦に  
出場!

亞細亜大学  
テニス部最高!



リーグ戦で  
出し切るよォ!

Don't think  
feel!!

亞細亞大学

横浜中華街、  
最高!!

みんなで  
協力!

仲間で食べる  
中華は、  
おいしい~

集中・集中う!!

亞細亞大学で  
最高の思い出を  
作ろう!

Asia University

tennis

# 両立を目指す。学生は、部活と授業の両立を目標とする。

**面** 白いもので、テニスの本当に強かった卒業生を顧みると、学業優秀とまではいかなくとも、単位をいつのまにか取っていた選手ばかりでした。岡田岳二、森稔詞、山崎史子、赤堀奈緒、宮地弘太郎、岡本聖子、駒田政史、佐藤博康、宮崎靖雄、宮崎優実など、多くの卒業生の中でも特にレギュラーでタイトルを獲った選手ほどその傾向は強く、目標が明確であり、そのため好き嫌いにかわらず、何事においても判断と行動は積極的でした。

競技成績だけではなく、プロとして活躍できた選手以外にも、企業で活躍できる卒業生も含め、明確なことは「部活」と「授業」との両立ができることが、すべての成長に繋がっているということです。

成長する選手とそうでない選手の違いは、「必要なこと」と「好きなこと」の区別ができるかできないかです。「将来」に必要なことと「いま」に必要なことを明確に理解して行動できる選手こそ、成長する選手です。

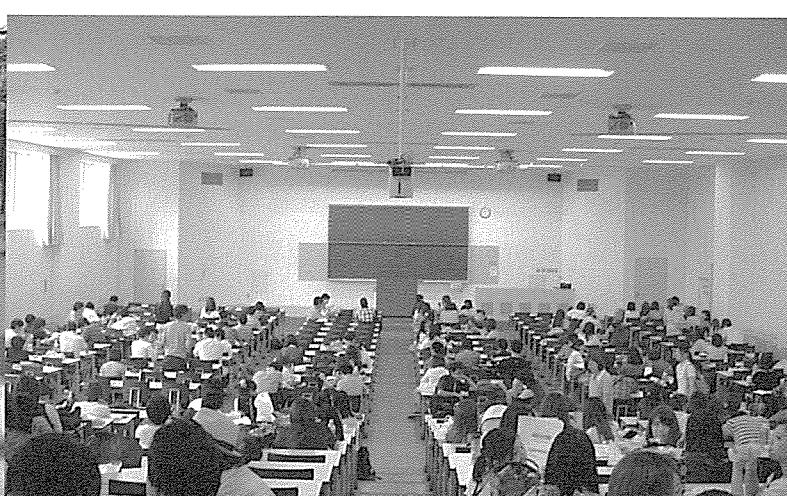
部活ではまず、新1年生に対して、11月の入試後にオリエンテーションをし、12月までに「4年間」と「今年」の目標を16ページにわたる「自己発見ノート」に書かせることにしています。自分のテニスや将来を確認させ、自分を気づかせる第一歩です。次に年末の合宿に参加し、そこで「今の自分」と「今後の自分」に必要な体力、技術、精神力の確認を、私たちといっしょに行ないます。

そして2月～3月の2ヵ月合宿を通じて、1年間の準備を徹底的に行なうこととしています。肝心なのは“自己の選択”ですから、練習環境や指導者がどんなに指導しても、最終的に判断し、実行するのは学生本人です。流されず自分の将来を見据えて選択できたものが勝利をつかみます。

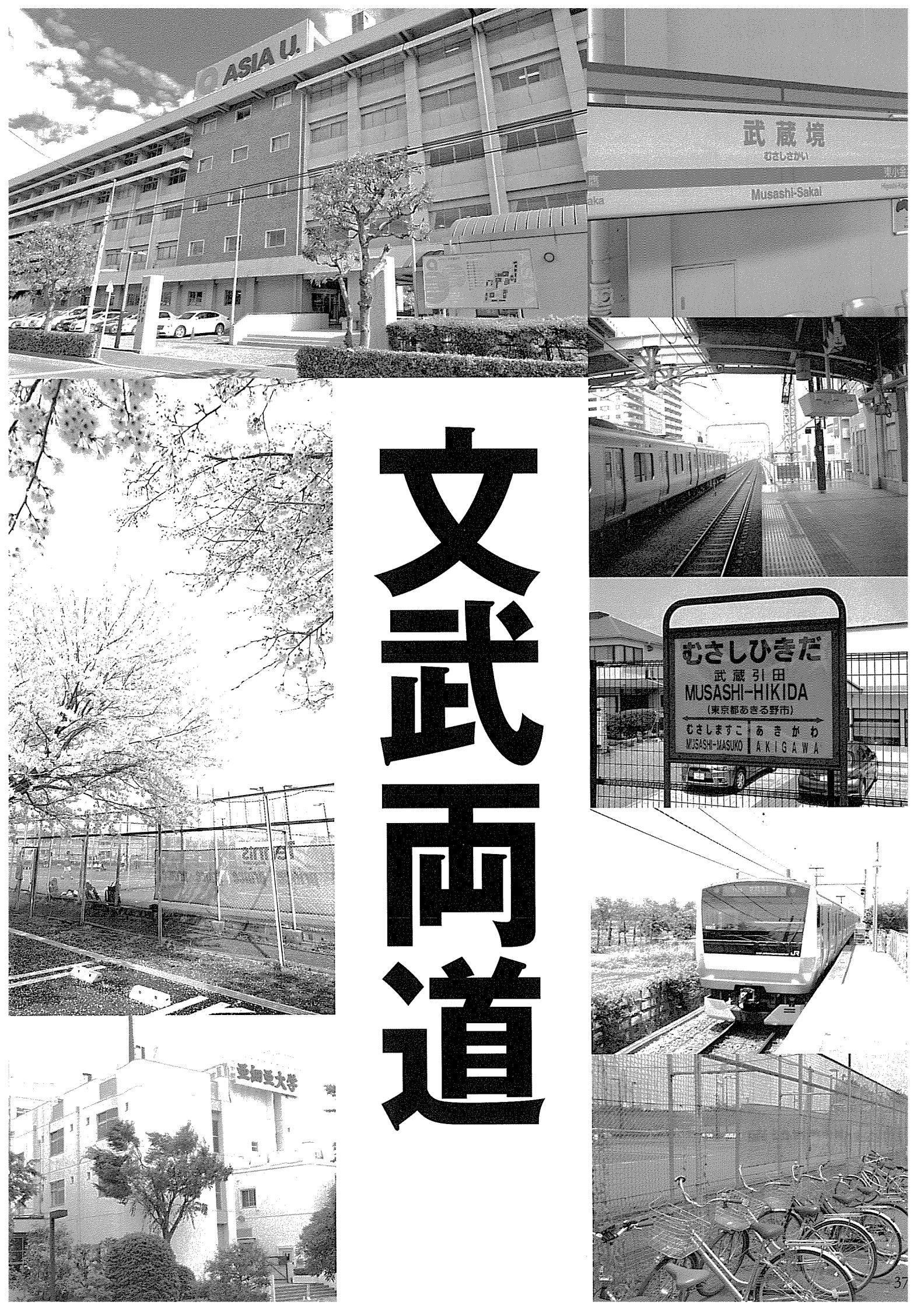
そのときに必ずといっていいほど“教養”が大切になります。テニスはミスのゲームであって、自分本位の試合は、レベルが上がれば上がるほど、相手との駆け引きの中で“無理”や“無駄”が通用しなくなります。効率性や確率が大きな勝利のウエイトを占めてきます。そこでミスをどのように修正するかの能力が試されるわけです。

部活と授業の両立ができない選手はバランスを失い、「相手を知ること」も「自分も知ること」も「テニスやゲーム状況を知ること」も、そしてそれらを「説明すること」もできず、修正を失い自滅していくことになります。

テニスは実に正直で、バランス感覚をもたない選手には勝利をプレゼントすることはありません。ですからテニスの競技力に、まさしく部活と教養はプラスに働くのです。文◎堀内昌一



# 文 武 高 尙



# 法学部 Law

全学部生 ● 1,708人 男女比 ● 男1,355人(79.3%):女353人(20.7%)



糸井 栄(3年)の場合

## 「法学を通じて、思考する大切さを学ぶ」

私は法学部では2つ魅力的な事があると思います。1つ目は「多彩な選択肢から自分で選択することができる」です。法学部には、4つのコースがあります。法科大学院、公務員、企業、現代法文科。どのコースでも法律を学ぶことはでき、その中で自分の興味があるものを専攻し、より深く学ぶことができます。2つ目は「物事を論理的に考える力を育む」です。法学部では1、2年で法学の基礎を学び、3年では基礎を活かして少人数でのゼミ形式で学ぶことができます。その勉強の中で人に自分の

考えを論理的に説明する難しさを感じました。最初は頭ではわかっていても、ディベートする時に相手に上手く伝えられないもどかしさがありました。しかし回数を重ねるごとに徐々に思考力がつき、正しく物事を判断する力がついてきました。正直、法律の勉強は難しいですが、法律を通じて「物事を論理的に考える力」を育むことができます。

この広い法律の知識と物事を論理的に思考する力は将来社会に出て、生活していく上で必ず役に立つと思います。

### 週間スケジュール

	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT	SUN
1限目	オフ						
2限目		手形・小切手法			演習		
3限目		少年法		手形・小切手法		練習&トレーニング	練習&トレーニング
4限目		少年法		経済史概論I			
5限目		西洋史I					
16:00 ~ 19:00		練習& トレーニング	練習& トレーニング	練習& トレーニング	練習& トレーニング	フリー	フリー
20:30							

#### 資格試験を全面サポート

各種資格取得のほか、公務員を目指す学生を重点的にサポートします。国家・地方公務員試験に対応する科目を配置するとともに、課外講座「公務員試験講座」との連携も図っています。

#### キャリア養成を重視

法学部では、全学生がキャリア養成教育を受けます。「基礎数理」を必修科目とするほか、選択科目として「公務員教養」を配置し、各種就職試験に対応します。

#### 4年間を通したゼミナール教育

1年次の「オリエンテーションゼミ」から、3、4年次の2年間に及ぶ「演習」まで、4年間にわたりてゼミナール教育を展開します。演習では卒業論文の作成にも取り組み、4年間の学習成果を形にします。

#### 特徴

#### 法科大学院コース

法科大学院への進学だけでなく、司法書士や行政書士など法律の専門家や法律関連の資格取得を目指します。

#### 公務員コース

公務員試験科目を中心としながら、国家・地方の公務員試験合格を目指します。

#### 企業コース

一般企業に就職する学生を想定し、法律の基本科目に加え、企業の組織や企業取引に関する専門科目を配置しています。

#### 現代法文化コース

現代社会の多種多様な問題に対して、法的なものの見方、考え方からアプローチできる能力の取得を目指します。

#### カリキュラム紹介

主な勤務先 積水ハウス／大日本塗料／LIXIL／中国電力／全日本空輸／東日本旅客鉄道(JR東日本)／ニトリ／みずほ銀行／ゆうちょ銀行／明治安田生命保険／大和証券／京王プラザホテル／東京地方検察庁／新宿区役所／警視庁／入国警備官

# 経済学部

Economics

全学部生 ● 1,285人 男女比 ● 男子1,032人(80.3%):女子253人(19.7%)

## 小林浩貴(3年)の場合

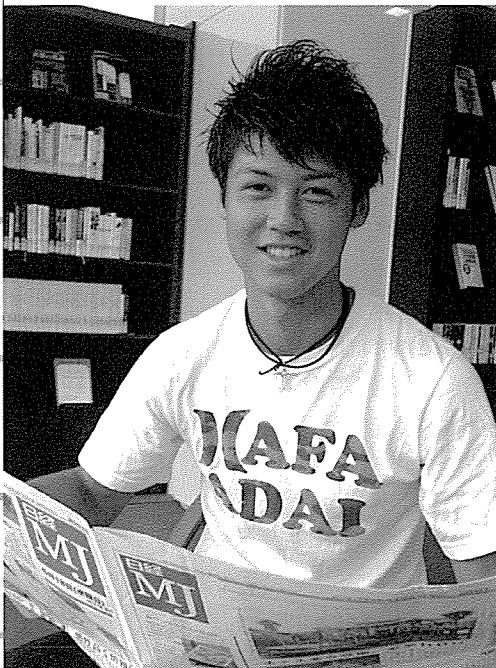
### 「経済学を学んで、世の中を知る」

経済学部は、数学等を使用して基礎理論を構築するミクロ経済学やマクロ経済学等の理論を勉強していきます。また基礎数理という科目の授業では、一般常識問題を解くといった就職活動に必要な授業もあります。

私が経済学部に入ってより世の中の経済の流れ、お金の流れを学ぶ事ができています。このように経済学は世の中を知るといった面で他学部に比べ突出していると思います。

経済学部は毎学年時に修得単位数が制限されています。年間最高40単位と決められており、計画的に履修する事が出来ます。取れなかった単位数は翌年時に加算して単位修得に励みます。

経済学部は経済、財政の多くの事を学べて普段のニュースで放送されている事柄の基礎知識を学べる学部となっています。



#### 週間スケジュール

	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT	SUN
1限目		経済法					
2限目	ファイナンス	各国経済論	現代マクロ 経済学I	経済外国語 文献講読I			
3限目	経済統計論		経済学 基礎数学I	経済政策論			
4限目							
5限目							
16:00 ~ 19:00	オフ	練習& トレーニング	練習& トレーニング	練習& トレーニング	練習& トレーニング	フリー	フリー
20:30							

#### → 経済学の基礎から応用まで体系的に学習

1年次から2年次前期まで「入門経済学」「ミクロ経済学」「マクロ経済学」などで経済学の基礎をしっかりと身につけ、2年次後期からは経済学の重要な3部門〔理論部門〕、〔応用・政策部門〕〔アジア・歴史部門〕で本格的に勉強。

#### → 将来の志望に合わせて豊富な専門科目から選択

進路に合わせた科目選択が可能です。また、将来の職業に生かすための〔経済専門キャリア部門〕は1年次から学修できます。

#### → 少人数クラスで“数字”と“IT”に強い実践型人材へと成長

「経済学基礎」「経済分析基礎」など、1・2年次に経済データに親しみ、少人数で学ぶ授業を開設します。経済に関する数字の深い理解とパソコンを活用した分析ツールの修得を目指します。

#### → 政策科学コース

主に国際経済を学び、幅広い視野と的確な判断力を身につけ、国際企業人や国際公務員など、世界で活躍できる人材になるために必要な知識を養います。

#### → 経済情報分析コース

紛争解決や平和構築の問題を政治と法の側面から学ぶことで、海外で活躍するために必要な広い視野と深い洞察力を持った人材を育てます。

#### → 都市経済コミュニティコース

このコースでは、主に開発問題と開発援助についてさまざまな角度から学び、問題解決に必要な知識と、知識を現場で活用するための実践力を同時に養います。

主な勤務先

みずほ銀行／三井住友銀行／住友信託銀行／清水ハウス／住友林業／飛鳥建設／TKC／ソフトバンク／ソニー・ミュージックエンタテインメント／帝国ホテル／富士通／ワコール／ブルボン／全約工業／国分／セブン-イレブン・ジャパン／東急ストア／ユニデックス／みずほインターベース証券／ワタベウェディング／郵便局

# 国際関係学部

International Relations

全学部生 ● 1,344人 男女比 ● 男子528人(39.3%):女子816人(60.7%)

## 山浦はる香(3年)の場合

### 「留学経験を活かして」

国際関係学部には2つの学科があります。1つは国際法、国際政治などを中心として学ぶ国際関係学科です。又、国際関係学科は5ヶ月間の留学プログラムを持っており、実際に世界を体験することができます。

2つ目は多文化コミュニケーション学科です。この学部は異文化交流、言語学などを主に学びます。

私は国際関係学科に在籍しており、実際に留学プログラムに参加しました。異文化に触れ、語学力や

コミュニケーション能力を身に付ける事ができました。これらの体験は、日本に帰国後も亜細亜大学で開催されるフューチャーズなど、外国人選手と触れ合う際に活かす事ができます。国際関係学部には、他学部には無い経験が沢山できる学部です。

英語や留学、異文化に興味のある方は国際関係学部をお勧めします。



#### 週間スケジュール

	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT	SUN
1限目				国際関係 英語応用	国際金融論		
2限目		現代アジアの 人と社会	中国経済論		国際経済学		
3限目	日本経済と世界	国際報道論	観光資源論	経済政策論	中南米の 政治と外交		
4限目					政治学概論		
5限目							
16:00 ~ 19:00	オフ	練習& トレーニング	練習& トレーニング	練習& トレーニング	練習& トレーニング	フリー	フリー
20:30							

#### → 海外留学プログラムが必修

2年次後期に全員が必修で5ヵ月間アメリカの各大学(ワシントン州またはアリゾナ州)で学びます。見知らぬ土地で語学力を磨き、さらに自立心を育てます。留学は新しい自分を見つけるチャンスであり、将来へのステップとなります。

#### 特徴

#### → 国際社会で通用する英語力を習得

TOEIC600点以上を目指し、英語のみで授業を行なうところもあります。海外留学や専門研究、ビジネスシーンで役立つ英語力を身につけます。

#### → 1年次からゼミの授業と三つのコースの学習

1年次から少人数のゼミで発表や討論を通じ、より深く専門的な学習をします。3年次からは自分が興味を持つ分野の先生のゼミを履修することができます。授業は大きく分けて3つのコースがあり、選択して学んでいきます。

#### → 経済・ビジネスコース

このコースでは主に国際経済を学び、幅広い視野と的確な判断力を身につけ、国際企業人や国際公務員など、世界で活躍できる人材になるために必要な知識を養います。

#### カリキュラム紹介

#### → 平和政策コース

このコースでは、紛争解決や平和構築の問題を政治と法の側面から学ぶことで、海外で活躍するために必要な広い視野と深い洞察力を持った人材を育てます。

#### → 国際協力コース

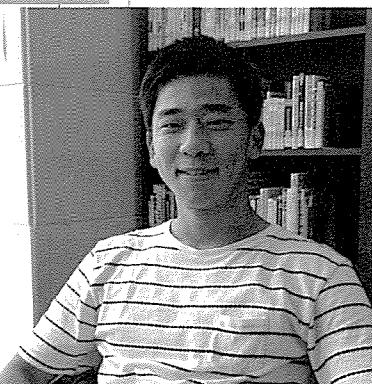
このコースでは、主に国際開発問題と開発援助についてさまざまな角度から学び、問題解決に必要な知識と、知識を現場で活用するための実践力を同時に養います。

主な勤務先

積水ハウス／ワコール／花王／資生堂／東芝／NHK／JR東日本／全日本空輸／ユニクロ／三井住友カード／ヒルトン東京／第一生命保険／セコム／外務省／警視庁／防衛省／ディスコ／ツツミ／明治安田生命保険／近畿日本ツーリスト／トランクス・コスモス／郵便局

# 経営学部 Business

全学部生 2,153人 男女比 男1,147人(53.3%) 女1,106人(46.7%)



## イクヨン(2年)の場合

## 「夢を叶えるために」

私は2年前にテニスと日本についての知識を得る為韓国から来ました。経営学部は経営学科とホスピタリティ学科の2つあります。私は経営学科に通っていますが、経営学科では主に会社を起業する為に必要な事をたくさん学ぶことができます。例えば「企業と市場」という授業ではマーケティングについて学べ、会社が物を売り続ける為にどのような工夫をすればいいかを勉強します。

ホスピタリティ学科では、実際にホテルに行って様々な職業体験をする事ができます。もし会社を起業することや経営することに興味があるのであればぜひ経営学部に入学することをお勧めします。

私には今、経営者になるという夢があります。いつか母国に帰った時も、日本で学んだ経営の知識を生かしていきたいです。

### 週間スケジュール

	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT	SUN
1限目	英語I	英語I	英語I				
2限目		企業と市場	財務会計論	ビジネスリテラシー	英語I		
3限目							
4限目	データ解析入門		財務会計論				
5限目	経営情報処理I	日本語VII	日本語V	数学入門I	日本語VIII		
16:00 ~ 19:00	オフ	練習& トレーニング	練習& トレーニング	練習& トレーニング	練習& トレーニング	フリー	フリー
20:30							

#### 企業経営と社会の関係性を理解し「実戦力」を修得

市場・人間・技術という企業経営に関わる3つの側面から、企業経営と社会の関係性を理解する教育プログラムを開設。あらゆるビジネスパーソンに求められる「実戦力」を身につけます。

#### 目標に合わせて選択できる科目群「モジュール」

テーマ別に学ぶ「専門選択モジュール」と実務力を養成する「スキル関係モジュール」のほか、多彩な科目で構成されたモジュールで、経営学の専門分野を効率よく学習します。

#### 少人数制のゼミナールでの実践的教育

1クラス約15人の少人数制ゼミナールでは、産業界で活躍する企業人への「インタビュー実践」を導入。自らプロジェクトに取り組み、問題を発見し、解決に導く、実践力を養います。

主な勤務先

東急建設／東芝／パナソニック／タニタ／JR西日本／ユニクロ／みずほ銀行／三井住友銀行／日本郵便／警視庁／ワコール／みずほフィナンシャルグループ／三井住友銀行

#### 経営学科

経営4大資源「ヒト」「モノ」「カネ」「情報」について総合的に学び、現代の企業活動をグローバルに把握していきます。

#### カリキュラム紹介

#### ホスピタリティ・マネジメント学科

「ホテル＆ブライダル」「フードサービス」「トラベル」「パッセンジャーサービス」「クラブ」という5つの領域について、「理論実務融合型教育」を開設し、未来のホスピタリティ業界をリードし得るような人材を養成していきます。

# 短期大学部

Junior College

全学部生 464人 男女比 男子84人(18.1%) 女子380人(81.9%)

#### 各種資格取得を力強くサポート

日商簿記、日商販売士をはじめ、さまざまな検定の取得を、授業を通してサポートしています。

#### 特徴 異文化への理解を深める留学制度と外国語科目

世界11地域11大学への留学が選択可能な海外留学プログラム「亜細亜大学グローバルプログラム(AUGP)」に加え、語学力アップを図る6か国語の授業を開講しています。

#### 特徴 短期大学部経営学科の学生を対象とした編入学制度

経営学科の成績上位者は亜細亜大学の各学部への編入学も可能です。短期大学部で取得した単位は編入学する学部の単位として認定されます。

# 大学に入つて、変わりました! こんなに変わりました!

CASE 1

白井卓也(4年)の場合

森 稔詞  
コーチ

から見た 白井卓也

彼は、おとなしく性格が良いというのが第一印象でした。しかし、いつたん試合になると喜怒哀楽がはっきりと/or>していたので、そのギャップにビックリしました。ランニングをすると、大にでも追いかけられているような猛ダッシュ…。ゾーンに入ったときは、インターハイチャンピオンも破るという強さを持ち合わせています。後はその力をコンスタントに発揮する力を身につけるだけ…。これがなかなか難しく、リードしたかと思えば1球の軽率なミスから「ド・ツ・ボ」にはまってしまう。これを何とかするのがコーチングということで、非常に勉強させてくれる存在です。今年は学生最後の年。結果を残して本物になってくれることを期待しています。

## 「大学生最後の年、必ずインカレを獲ります」

私が亜細亜大学テニス部に入部した理由はテニスと勉強を両立できると考えたからです。入部1年目にレギュラーになることはできましたが1年生の仕事と練習はとても大変で、一時期は本当にやつていけるかと不安になることもあります。しかし先輩、同学年、両親の支えがあり乗り越えることができました。テニス面では、1年目に戦績を残したかったのですが、絶対に勝たなければならないプレッシャーに押しつぶされていまい、思うような結果を出すことはできませんでした。やはり学生大会の緊張感は特別なものがありました。なぜなら学生大会では、2年目以降よりも1年目の方が多いポイントを獲得できるからです。高校生の頃は自分の好きなプレーをしていて、他のことはあまり考えていました。また当時は、大学生よりも高校生の方が勢いもあり、プロ意識も高いのではないかと感じこともありました。しかし自分が大学生となり、実際に学生大会を戦ってみると、試合の流れや相手の状況を考えながら泥臭いプレーをしてくる大学生に対して、自分のプレーはなかなか通用せず、大学テニスの奥深さや勝ちにこだわる姿勢など、学ぶことがとても多かったと感じます。

しかし、大学でテニス選手として強くなるために重要な点の一つとして、まず自己管理を徹底することが挙げられると思います。大学生活になると一人暮らしをする学生が多く、1日の生活プランを自分自身で決めなければならなくなります。自分の明確な目標と強い意志がなければ、入部した当時の夢や目標を達成するチャンスを逃してしまうことになります。それは私が2年生になった時から強く感じていました。

また、もう一つ重要な点は、学生大会だけにとらわれることなく、JOP大会やITFの大会に積極的に出場しレベルの高いステージでプレーすることが必要だと思います。亜細亜大学では3月にフューチャーズを開催しており、私は本戦WCをいただき出場しました。ATPを獲ることはできませんでしたが、プロ選手や外国人選手と対戦することで私にとってとても良い刺激を得ることができました。

最後に亜細亜大学はスタッフの方も沢山いて、素晴らしい環境です。その中で自ら、強くなる為に考え、行動することが大切だと思います。最後の1年、悔いの残らない結果を出したいです。

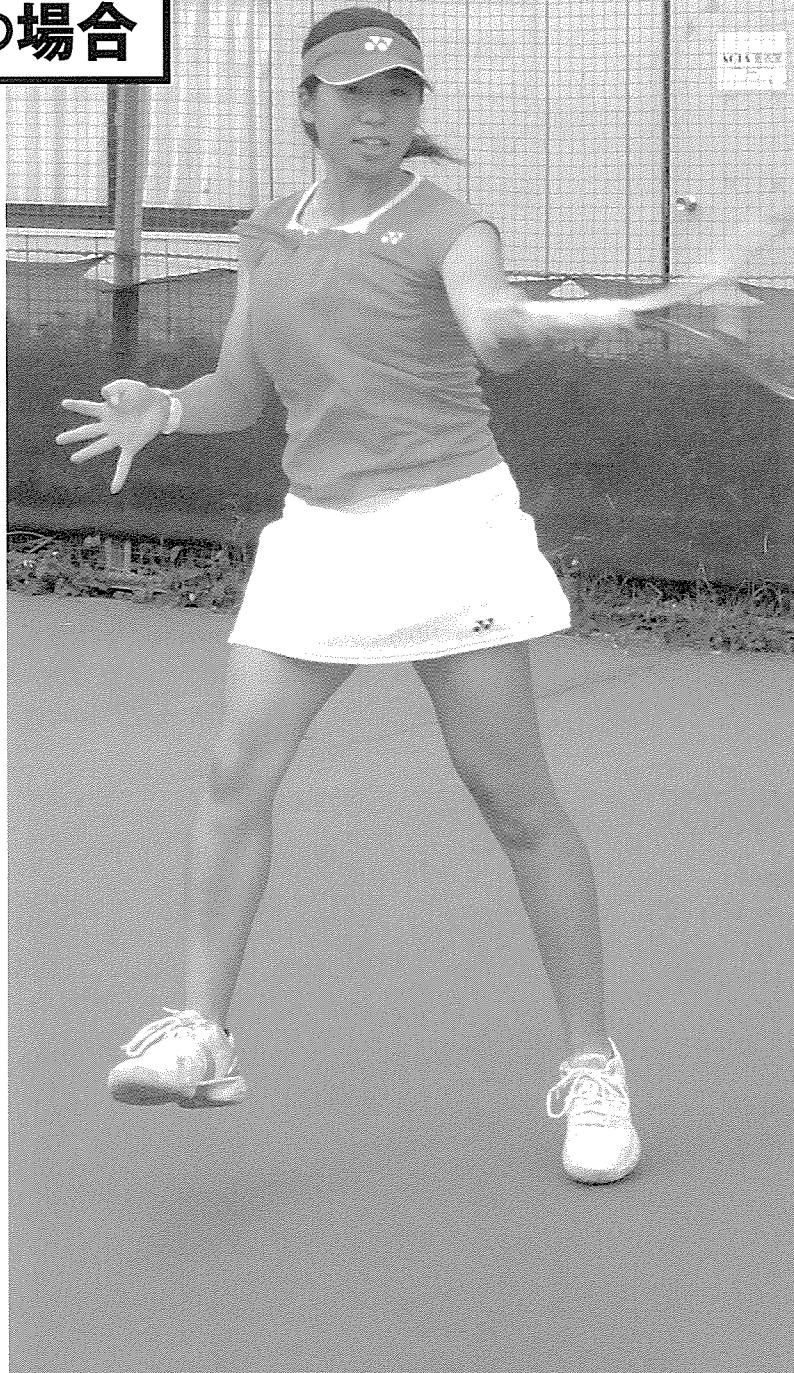
## CASE 2 松本千広(3年)の場合

「次は私がチームを引っ張っていく存在になれるようになりたいです」

私は亜細亜大学に進学して本当に良かったと思っています。監督や、コーチには大学に入って沢山の事を教えていただきテニスに対する考え方方が大きく変わりました。練習環境も良く、テニスの練習だけで無くてトレーニングもしっかりと出来ます。正直、私はトレーニングは余り好きでなかったのですが強くなる為、勝つ為にはトレーニングが必要だと感じ、今では学生トレーナーという役職に就いてチームのトレーニングメニューを専属のトレーナーの方と考えるようになりました。

亜細亜大学に入學して、戦績も徐々に伸びてきました。私は高校3年生の時は全日本ジュニアでも単複1回戦で負けてしまいインターハイには出場もできませんでした。しかし、今では高校生の時には雲の上の存在だと思っていた人に勝てる様になりました。高校生の頃は相手のことは関係なく、自分の好きなようにプレーしていましたが大学生になり相手のことをしっかりと見て、考えてプレーすることができるようになってきました。1、2年生の頃、先輩に少しでも近づきたいと思って先輩の背中を見てただ必死に毎日練習をしていました。試合を見て学ぶことや、アドバイスを聞くことで先輩から色々なことを吸収して成長できました。今は、上級生となり私が後輩に背中を見せる立場になりました。上級生になって責任感が強くなり、自分のことだけではなく周りが見えるようになったと思います。仕事も増えましたが、テニスと両立し期限までに目標を達成することで人間的にも成長できていると思います。

毎年行われる大学の関東リーグでは2年連続4位となり、目標の王座出場には届きませんでした。正直、今は去年と比べると総合的な戦力は落ちてしまいました。それでも王座出場という目標を全員で掲げ、チーム全員が強くなる部活を目指しています。個人的な最終目標はインカレベスト8以上と全日本選手権出場です。監督のおっしゃる「プロに勝てる学生」を目指してあと2年で結果を出したいです。亜細亜大学なら、自分次第でどこまでも強くなれると思います。こんなに最高の環境はどこの大学を探してもなかなかないと思います。大学でテニスを頑張りたい人はぜひ、亜細亜大学に一度、練習に来てください。



岡本聖子  
コーチ

から見た  
松本千広

彼女は典型的な『頑張り屋さん』。大学に入り誰よりも成長している学生ではないでしょうか。リーグでは1年生の頃から単複共に出場し、何勝も貢献してくれました。

彼女自身が強くなりたいと貪欲に思っている事が全てですが、入学当初から不器用ながらに先輩に必死について行く姿がとても印象に残っています。真面目過ぎて余裕がなくなる弱点を持ち合わせていましたが、今年、3年生になり、エース、そして、副将を任されるようになり、以前より冷静に、客観視出来る様になってきました。部を引っ張っていく立場から責任感が生まれ、より彼女を成長させています。

技術的には、フォームやフットワークなど改善点が多く、伸びしろはまだありますし、何より本人がこれまでの戦績ではまだまだ満足していないはずです。大学での終盤戦での大爆発にとても期待しています。

# 大学に入って、 こんなに変わりました!

## CASE 3 秋山和潤(3年)の場合

### 「インカレラストチャンス、 絶対モノにします」

私が亜細亜大学を選んだ理由は、厳しいところに身をおいて練習したかったからです。また、レベルの高い関東でどれだけ自分のテニスが通用するかチャレンジしたいと思い、亜細亜大学を選択しました。亜細亜大学にはテニスコートが10面に陸上トラック、トレーニングセンターがあり、テニスをする上で最高の環境が整っています。

また、たくさんのスタッフの方々が毎日練習を見てくださり、いろいろなヒントをくださいます。コーチングスタッフの方々が毎日練習を見てくれる大学は多くないと思います。さらに、亜細亜大学では毎年、国際大会を学生主体で開催し、運営や試合に出場するなど他

では得られないような経験が積める大学だと思います。

私のテニスのレベルはまだまだ低いですが、高校生の頃から比べると強くなっていると思います。私は高校時代、地方でテニスをしていました。テニスのレベルも高いとは言えず、亜細亜大学に入学できるレベルに達していなかったと思います。しかし、亜細亜大学に入学できたことで「絶対結果を残したい。」と思う気持ちがもの凄く湧いてきました。その気持ちを活かすに最適な環境があった分、練習に打ち込んだ結果だんだんテニスが成長し、1年生の夏闘で関東学生になることができました。亜細亜大学の練習は、基礎練習が多いですが、この基礎練習で球数を打つことで、それが自然と自信に変わってきます。試合の2週間前になるとマッチ練習が多くなり、自分自身でまとめ作業に入っていきます。

トレーニングの面では、専属のトレーナーが時期に応じてメニューを考えてくれて、それを元にトレーニングしています。

また、亜細亜大学ではテニスだけでなく「人間性」の成長も望める場でもあります。スタッフの方々から礼儀・礼節はもちろんのこと、社会に出たときに恥ずかしくないよう基本的なマナーから教えていただいている。人間性はテニスに関係ない」と思う人もいるかもしれませんのが大学4年間の後、社会に出た時のためにも「人間性」を磨くことは大切なことだと思います。人間性を磨くことで謙虚に誰からも学ぼうと精進ていき、より強い選手になれると思います。

高校生のみなさん、小さな成功に満足せず亜細亜大学でさらなる成功を掴みましょう。亜細亜大学の4年間で強くなれます！



佐藤武文  
コーチ



秋山和潤

彼が高校時代に偶然に練習試合を見た事があった様なのですが、私の中では印象があまりなかったのです(笑)。チームの中で無駄に元気で(笑)、雰囲気を良くしてくれる学生です。厳しい練習だからと亜細亜大を選んでくれました。

夏の関東学生では勝ち上がり、リーグ戦のメンバーにも選ばれています。彼のストロングポイントは身体能力の高さと団体戦を楽しむ事の出来る気持ちの強さです。ストローク力は関東学生の中でも平均的。関東学生からインカレに絶対になるという気持ちが伝わってこないのが残念です。もっと高い目標を設定出来る強固な気持ちを持ってば更に上を目指せる身体能力があるのでこれから彼に期待しています。

## CASE 4 山藤彩香(2年)の場合

### 亜細亜大学の環境を活かして結果を残したいです

私が亜細亜大学を選んだ理由は、テニスに集中するにあたって抜群の環境であると感じたからです。私は高校生の時からこの大学の練習に何度も参加させてもらっていたのですが、亜細亜大学は関東大学テニスリーグにおいて1部校ということもあり、中途半端な練習をするのではなく、部員全員が日々の部活に真剣に取り組んでいる姿に魅力を感じていました。そして同じ野田学園高校出身の2人の先輩とコーチの勧めもあり、この大学で頑張っていこうと入学を決めました。

亜細亜大学にはハードコート8面とオムニコートで2面があり、その他にも陸上トラックやトレーニングセンターなどテニスが強くなるための環境が整っています。ただテニスをする時間と場所が確保されているだけでなく、トレーニングをするための設備がここまで整っている大学は他にはあまりないと思います。私も毎日の部活で、あるいは自主練習としてこのフィールドやトレーニングセンターを活用しトレーニングに励んでいます。大学生になってからの毎日の部活を通して、自

分のテニスに足りないものがより明確になりました。テニスの技術だけでは勝てないと感じ、トレーニングにも時間をかけるようになりました。高校時代にはここまで自分のテニスと真剣に向き合うことはなかったので、トレーニングに取り組むようになったりアドバイスを聞き入れるようになったりするようになった点は、入学して1年経った今、一回り成長できたのではないかと思っています。また、亜細亜大学にはたくさんのスタッフがコーチやトレーナーとして関与してくださっているので、多くのアドバイスを頂く事ができ、それにより自分のテニスのレベルも上がったと思います。今までのハードヒットしかできなかったプレーにも、緩急を織り交ぜるという変化を出せるようになりました。昨年度末の新進大会からも勝つ回数が確実に増え始めてきたので、このまま夏闘でも上位に進出し、今年のリーグでは活躍したいと思っています。



私の目標は大学4年間の内にインカレベスト8に入ることです。王座にも出場したいです。この目標を達成する為に練習やトレーニングはもちろんの事、日々の努力を惜しまずに行生活面や勉強面で頑張っていきたいと思います。



彼女の長身から放たれるストロークはパワーとコントロール性を兼ね備えており、とても魅力的です。ネガティブ思考が強かった彼女ですが、1年生の後半の試合で何度か競り勝ってからは、ネガティブな発言が減りました。元々センスのある子ですから、更にテニスに素直に向き合い、私生活から感謝する気持ちを忘れず、爆発的に強くなると思います。

## CASE 5 田中亮寛(1年)の場合

### 日々進化できるよう、4年間努力します

これが自分の限界を感じていたので、大学に進学し、勉強に重きを置きながらテニスも続けようと思っていました。

しかし亜細亜大学の練習に参加し、大勢の熱意ある一流コーチ陣から実際に指導を受け、テニスコート10面、400mトラック、トレーニングセンター等の施設環境に接し、私もこの部活に入って努力すれば、さらに高いレベルを目指せるのではないかと思いました。

入部して亜細亜大学国際オープンの運営に携わり、本戦出場のチャンスを頂き、今までと比べ物にならないほどの緊張感を経験し、ファーチャーズでプロと接しないと気がつかなかった今後の課題が明確になりました。

入学してまだ数ヶ月ですが、この経験によってテニスが良い方向に変わっていて、今まで1度も勝ったことのなかった選手や、レベルが違うと思っていた選手にも勝つことができて、自分でも驚いています。

私の大学での目標は、チームの1部昇格、王座奪還に貢献することと、インカレで優勝することです。そのためには、この恵まれた環境を最大限に活かし、自分の頭で考

え、誰よりも練習することが必要なので、毎日の練習でそれを実行したいと思います。

大学の授業は多種多様で、興味がある科目が沢山あります。学業との両立は大変ですが、学校生活は楽しく貴重な経験です。亜細亜大学はオープン大会を中心に沢山の試合に出ることができます。試合はコーチが引率してくれて、分析、評価してもらえるので、常に先に進む事を自分で考えることができます。

亜細亜大学に入学し、テニス部に入部して、思っていた以上にテニスに打ち込むことができ、自分がどこまで進化できるか楽しみです。



彼は、全てのポイントに対して、強い精神力・意志を持ちプレーすることができる選手です。テニスも一流、人間力も一流に成り得る資質を兼ね備えた学生ですので、人間としての目標・テニスの目標等、複数の目標を掲げ、テニスを通じた人間的成长に邁進し、大学テニス界を代表する選手になることを期待しています。そのためには、強い精神力を持っているが故に起こる気性の起伏のコントロールを恒常的に行えることです。グローバル規模での多種多様な経験・価値観を体験し、自らの価値観・視野を広げ、グローバルな目標・幅広い知見・感性を養うことで、必ず日本テニス界を代表する素晴らしい選手になるでしょう。

私が亜細亜大学に入学した理由は、より高いレベルのテニスにチャレンジしたいと思ったからです。

私が高校に入学した時には、全国大会に1度も出場したことありませんでした。

3年間、湘南工科大学付属高校で強豪の友人と切磋琢磨した結果、全日本ジュニア、インターハイ、国体等を経験し高校テニスを引退した時には一種の達成感を感じました。



2003 Australian Open Review

## 亞細亞大学、メルボルンへ行く。

# 「大学に行ったら世界に行けないなんて言わせない」

2003年1月、賑わうオーストラリアン・オープンの会場内をウロウロする日本人学生のグループがいた。全国でもトップクラスを誇る亞細亞大学テニス部のメンバー6人。彼らは世界最高峰グランドスラムを「観る」という「意味」を持ってそこにいた。

文◎吉松忠弘 写真◎高野 徹  
記事提供◎テニスマガジン(2003年5月号)

## 学校教育とクラブスポーツ、大学テニスの共存

学校教育とスポーツは、それほど切り離さなくてはいけないものだろうか。昨今の論調は「地域に根ざすクラブスポーツ」を題目に、学校体育を批判し、「学校など」という形容詞で、短絡的にスポーツ強化のためには学校（日本的な記憶・暗記教育のことではある）は「害」であると指摘する。

しかし、現実主義者から見ると、そう簡単にことは運ばない。落伍者は「失格」という価値観を共有したい大多数が、あと戻りできない社会を形成している以上、その中で「安定」や「慎重」を求ることは決して責められない（好き嫌いは別として）。

国際通とか海外志向の高い指導者や関係者はその現実を無視し、「もっと海外に」やら「学校なんか」と宣う。ならば世界でも高水準にある約97%の高校進学率、約50%の大学進学率（平成15年度文部科学省の教育指標の国際比較から）は無意味なのだろうか。その率が減り、学校体育がなくなり、義務教育が終了すれば、スポーツにかける人が増えることが得意の「文化の創造」ということだろうか。そして日本国民は本当にそれを望んでいるのだろうか。

壮大なテーマになり、それを解説することがこの本道ではないので割愛する

が、現時点で中等教育以上（義務教育以降をこう呼ぶ）の学校を無視はできない。クラブスポーツも裾野を広げることが重要であり、つまり共存するしか日本の将来は見えてこないだろう。

その中にあってテニスも同じ悩みを抱える。特に究極の個人スポーツであるテニスは、若年層からの強化が重要視されており、それは学校教育となかなか相容れない。高校までなら18歳以下というジュニア枠に入り、まだ救いはあるだろう。しかし大学のテニスは、日本でもっとも忘れ去られた存在である。日本のテニスには、ジュニア、社会人、プロという構図しかないようにも思える。

ただ、この先、クラブスポーツや学校体育の共存を考えるなら、大学テニスを無視するわけにはいかない。そして大学テニス自身も、自ら動き出す必要性がある。今年のオーストラリアン・オープンで、亞細亞大学テニス部がとった「観戦」という行動は、文字にしてみると他愛のないことだ。しかし、少なくとも共存への小さな一步だったことだけは確かである。

## 選手とコーチに必要な目標に対する逆算の理論

音頭取りは、OBで昨年（2002年）の4月からコーチに就任した森稔詞だった。森はグランドスラム本戦出場を経験して

いないが、予選には数回チャレンジしている。その自分より才能がありそうないまの大学生が、手をこまねいているのが歯がゆかった。

「本気でチャレンジすればできないことはない。できないと決める方がおかしい。だったら行ってみよう。僕自身もいまのグランドスラムを見ていなかったから、学生全員にメールを出して、自費だけ行こうと誘った」

自費の有志なので遠征ではない。集まったのは、男子で昨年インカレ・ベスト4の宮崎靖雄、同ベスト8の比嘉明人、01年関東学生新進戦ベスト4の平良和己、女子で01年インカレ・ベスト4の北崎悦子の4人である。

しかし、この4人に森、堀内昌一総監督を加えた6人がオーストラリアン・オープンに来て、観戦して帰ったというだけなら、残ることは稀薄に違いない。

「驚き」や「感嘆」が彼らを揺さぶるに違いないが、それだけだ。時間が経てば、少なからずとも消滅する。まして20歳代は、精神よりも実体験だ。物理的な接触に優るモノはない。森は、その体験を学生たちにさせた。宮崎、北崎を予選出場に挑戦させ、宮崎は予選のサインアップまでたどり着いた。

「運営の人たちが、何でおまえなんて来ているんだって、冷たい視線なんですよ。このランキングでよくここまで来たなって。あー、ここは実力世界なんだなと、ランクを上げないとダメなんだなと思いましたね」

宮崎の世界ランキングは1116位。もちろん出場には、通例なら箸にも棒にもかからない。しかし今年の予選は欠場者が続出し、出場者の最低ランキングは904位にまで下がった。チャンスは本当に目の前に転がっていたのである。しかし、そこに選手がいなければ出場できないのは自明の理だ。

北崎はエントリーをしていなかったため、予選のサインアップはできなかったが、予選初日にラッキールーザーのサインアップができた。

「初めは自分なんかがサインアップしていいかなって思ったんです。引き気味でしたね。でも、試合を見ていたら、何倍も努力しないとダメだけど、私でも何とかなると。それに、ここに自分が立っていたらと思いながら、試合を見ることができたのは大きかったんです」



比嘉と平良は、先のふたりのような体験はできなかったが、会場で練習を決行する。もちろん厳密に言えば、選手でもない人間がコートを使用するのは違反だ。予選の最終日に、朝7時半から空いているコートを見つけて4人で練習をした。そのぐらいの厚かましさがなければ、世界のテニス界ではやっていけない。

「心構えからして、ここで戦っている選手は違う。勝つ意識や執念がすごい。技術とかいう以前の問題で、気持ちから入れ替えるないと」

比嘉は話す。平良も同様だ。

「僕と同じくらいの身長の選手もいて、できないことはないと。でも、彼らは勝たなきゃ食えないんだという意識がすごい。日本ではありえないですから」

彼らは帰国する前の日、念願だったセンターコートに初めて入り観戦した。

「ここに立てるようにならないとダメなんですね」

北崎は、こうつぶやいた。

堀内監督はもっと早くこれを見ていたら、少し悔やんだ。堀内監督は世界を知らないわけではない。テニスでアメリカの大学に留学し、また日本のジュニアの監督としてもワインブルドンに遠征したりしている。しかし大学の教員、監督という枠は多くのしがらみを生み、実質的に世界から遠ざかっていたことも確かだ。

「実際にそこにいないと逆算できないんですね。カレッジに行ったら世界に行けないなんて言わせたくない。そのためには選手もコーチも逆算じゃないとダメなんです。関東学生取ったらインカレ。インカレ取ったら全日本というプラスじゃなくて、グランドスラムがあって、そこに行くにはインカレや全日本があるという逆算じゃないと。そのためには、グランドスラムを実感していないと言えないし、選手も実感できないんですよ」

わずか10日ほどの滞豪だった。しかし6人が感じ、肌で触った日々は誰にも教えられないことである。そして問題はここからなのだ。この10日間が実を結ばなければ何も意味はない。

杉山愛は、27歳にしてテニス人生最高の瞬間を、ティアⅡのステートファーム女子クラシックの単複優勝で飾った。遅いということはない。そして、それはステップを踏み出さなければ、いつまで経ってもやってこない。

### 堀内昌一総監督

「僕が監督になったのは大学王座やインカレを最終目標にするためじゃない。大学は自分の力を伸ばすことが目標。そのためにはもう一回、自分がいろいろなことを見てみないとダメになる。原点に返ってみるとそこには夢があったはず。だから選手にはカレッジに夢を持って来てほしい。その夢を与えるのが僕ら自身の挑戦でもある」

### 北崎悦子(2年)

「雑誌とか見ていて夢の舞台だったのが、現実に観て気持ちの面では変わりがないと感じた。(グランドスラムは)日本とテニスを盛り上げる環境が全然違う」

### 森 稔詞コーチ

「大学3年のときにJOP大会で貯めたお金でオーストラリアとアメリカのサテライトに初めて行った。そのときに感じたことを同じいまの大学生に味わってもらいたいと思っている。頂点を見ていれば、この先リアルに映像として残るはずだから」

### 平良和己(2年)

「周りの雰囲気が違って、観客もすごいし、圧倒された。選手たちのボールを打つタイミングも全然違うし、ミスで決まらない」

### 宮崎靖雄(3年)

「(オーストラリアに来て)テニスに対する考え方方が変わった。特に本村(剛一)さんに勝ったエスクデは、ショットは同じなのに体力や展開が違う。すごく印象的だった。みんな宿舎ではラケットに鉛を貼ったりして、"これで外国選手の重い球に負けないかな"などと言ったりしていた」

### 比嘉明人(2年)

「ジャパンオープンくらいしか見たことがなくて、そのジャパンオープンでもすごいと思ったのに、こっちはそれ以上だった。もっと体とか強くないと戦えない」



# 卒業生、それぞれの道

→ プロへ — To a Professional

テニスを始めた頃からの夢、  
グランドスラム出場を叶えることができました

**岡本聖子**



私は小学校高学年でテニスを始め、夙川学院中等部へ進学、同高校を卒業するまでの6年間、(高校では3年間の寮生活) 亜細亜大学での4年間、部活動でテニスを学びました。中学、高校ではテニスの上達を考えるよりも、顧問の先生や先輩方に怒られないことを一番に考え、休日はなし、「根性論」でひたすら走るという過酷な毎日を送っていました。先輩に理不尽に怒られては泣いて、同級生以外はすべて敵だと思いながらテニスをしていたくらいです(笑)。いま思い返せば、一生の友達と、誰にも負けない根性を身につけた6年間でした。

その後、「プロに負けない学生」という堀内監督の言葉に惹かれ、亜細亜大学に進学し、完璧な練習環境の中、全国から集まるレベルの高い仲間たちと出会い、そして恩師である堀内監督、OB・OGコーチからの温かい指導を受ける事ができました。

東京という私にとって未知な場所でありながらも、中高6年間の部活経験と新しいテニス環境が合致し、大学3年生のときにインカレで単複優勝、全日本選手権大会で単準優勝、

複ベスト4という結果を残すことができました。そして、私はこの結果をきっかけに、世界でプレーするプロたちを意識し始め、卒業を待ってプロ転向をしたのです。

高校時代の私には『部活』というと、「自由が奪われ、個性が出しにくい場」というイメージがありました。でも、亜細亜大学に入って部活でテニスをすることで、工夫や努力が身につき、本当に大切な物を見つけ、自分の個性が確立されたように思います。

テニスを始めた頃からの夢だったグランドスラム出場を叶えることができたのも、亜細亜大学をはじめ、支えてくださったみなさまのお陰だと思います。

この亜細亜大学のテニスコートに、可能性を秘めた若い選手たちが来てくれることを、願っています。

おかもと・せいこ ©1978年3月14日生まれ。大阪府出身。夙川学院高校卒。95年インターハイ団体ベスト4、単ベスト8、複ベスト4。96年亜細亜大学へ入学。97、98年大学王座優勝、98年インカレ単複優勝。全日本準優勝。卒業後にプロ転向し、グランドスラムはダブルスで全豪2年連続、シングルスはすべての予選に出場した。全日本複8勝、WTAツアーディレクター(浅越しのぶ)。WTA単最高位は178位(2006年1月)。2010年現役を引退し、現在は後輩の指導、プロ選手のサポート、テニスウェアの開発を行なっている

私は高校時代に目立った戦績もなく、無我夢中でテニスを続けていました。そんな私に堀内監督が声をかけてくださったことがきっかけで亜細亜大学に入学しました。

学生時代は、それまでに経験したことない「部活動」で周りにたくさん迷惑をかけました。ただ、部活という中で私はテニスを一番に考え、群れるわけではなく、その中で自分の意志をはっきりと持っていたことは良かった部分だと思います。問題にぶつかったときにはみんなで試行錯誤しながらも真剣に考え、自分たちで結論を出すことによって、責任感も身につきました。

高校時代には個人競技として考えていたテニスが、大学に入ってから団体戦を経験し、ひとりで闘っているのではないという感覚は新しかったです。応援してもらえる喜び、みんなのために頑張る、チームのために必死で応援する、というサイクルは、団体競技でおかつ日頃生活をともにしていなければ、心からできるものではなく、私は大学テニスでその経験ができることが本当に良かったと思っています。

実のところ、つらかったことや苦しかったことはあったと思うのですが、いまはそれが全然

思い出せません。卒業して3年が経ちますが、いまこうしてテニスを続けていられることは、ひとりでできることではなく、たくさんの方々に支えていただいているおかげだと本当に感謝しています。

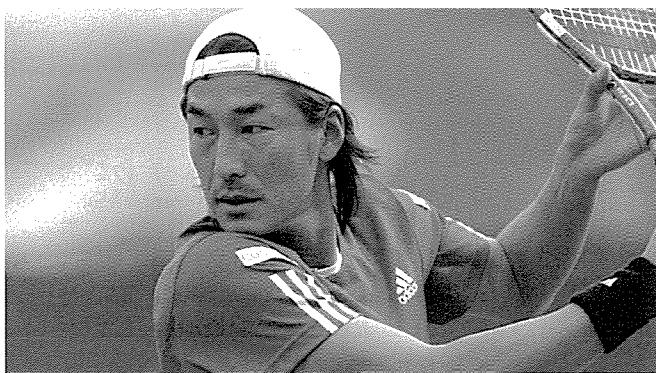
現在、大学からプロテニスプレーヤーを目指す選手が減っています。私はそういう目指し方をしたひとりとして、大学テニスで培った経験をどこまで生かせるか、そのトライをする選手が増えてくれる事を期待しています。

スポーツは、人々に感動を与えたり与えてもらったりできる素敵なコミュニケーションの一つです。これから入学する高校生には、大学4年間でテニスというスポーツを通じて、新しい自分を発見し、社会の一員としての自覚を深めるとともに、一度きりの大学生活を楽しんでもらいたいです。頑張った分だけ自分に返ってきます。自分を信じて思いっきり——これが私の原点です。

みやざき・ゆうみ ©1986年10月31日生まれ。熊本県出身。ルーテル学院高卒。04年インターハイ3回戦。05年亜細亜大入学。08年春季関東学生優勝、インカレ・ベスト4、インカレ室内・準優勝、大学王座ベスト4。09年大学を卒業し、プロ転向。これまでのWTA最高位は540位(2011年12月)、現在654位(2012年6月25日付)

ASIA  
PARTNERSHIP  
**宮崎優実**  
FUND





そしてプロへ  
インターハイ1回戦負けから、  
全日本複チャンピオンへ

**佐藤博康**

(プロテニスプレイヤー)

自分にとっての学生生活4年間はとても充実したものでした。高校時代にはインターハイ1回戦負けだった私ですが、同期に全日本ジュニア・チャンピオンがいて、先輩にインカレ・チャンピオンがいるという環境は、とても刺激的でした。

大学入学当時の私は、同期の中でも下から数えたほうが早いランキングにいたので、みんなに何とか追いつき、追い越そうと、日々の練習やトレーニングを全力で頑張りました。堀内監督の指導はとても厳しかったのですが、その中には上達するためのヒントがたくさんあり、自分の性格を見抜いた上での指導に、監督の凄さを感じました。

大学生活では、テニスを中心としますが、学生として勉強をすることや、友達や先輩とのコミュニケーション、チームの一員として活動することによる責任感など、本当にたくさんのことが学べます。

最近、大会などで、高校を卒業し大学に進学せずに試合に出て、トップを目指して頑張っている選手がいます。自分の可能性に賭けて頑張っている姿はとても素晴らしいことで応援もしたい気持ちでいます。しかし、選手生活で学べることもたくさんありますが学生として色々なことを勉強しながら人間として成長し、それと同時にテニスによって精神的に成長していくことで、よりバランスのとれた選択肢の多い人間になれるのではないかと自分では考えています。

インターハイの1回戦負けだった私を4年間で全日本テニス選手権のダブルスチャンピオンにまで育てられる指導者は今も変わらず、この亞細亞大学で指導してくれています。

これからも高い志を持った選手が新たな亞細亞大学テニス部の歴史をつくっていってくれることを亞細亞大学OBとして祈っていますし、微力ながらこれからもチームを応援していきたいと思っています。

さとう・ひろやす◎1972年10月2日生まれ、東京都出身。浦和学院高校卒、89年インターハイ1回戦。90年亞細亞大学へ入学。90-93年夏季関東学生複3連覇、94年単優勝、94年インカレ単ベスト4、複準優勝、全日本テニス選手権複優勝(／駒田政史)。97年プロ転向し、現在に至る。全日本複タイトルは合計「5」、男子フェューチャーズ複タイトルは合計「7」獲得。ATP最高位865位(05年11月)、複413位(07年10月)

---指導者へ―― To a Leader

平成3年度卒業の我々は堀内監督が亞細亞大学に入り、強化を始めた最初の学生です。私は他の大学の推薦もいたしましたが、夢をもった監督のもと、そして同期の素晴らしい選手と亞細亞でいっしょに活動がしたいという強い思いで、堀内監督にお願いして受験させていただきました。

大学生活では、学業、テニス、部活動と充実した時間を過ごし、社会に出る前の準備をすることもできました。当時の衛藤学長からもテニスが強いだけではなく、人間力を高めるという考え方のもと、大学4年間教育を受けられたことは、現在の私にとって大きな財産となっています。

沖縄出身の私にとっては2、3月のセミナー春合宿はかなり寒く、たいへん厳しいものでした。夕方からの10kmランニングなどは、正直逃げ出したくなることもありましたが、それを乗りきることにより自信をもつことができたのも事実です。

大学リーグの団体戦では7部で（ひとりだけ）敗戦するという屈辱も、そしてチーム全員で成し遂げる喜びも味わうこともできました。自分の夢、目標に「チャレンジ」することを常に掲げて活動し、高校時代に戦績のほとんどな

い私が、全日本選手権で優勝し、グランドスラムも経験できたことは、亞細亞大学で経験した4年間、そして堀内監督から言われてきた「自分を信じ続けること」ができたからだと確信しています。

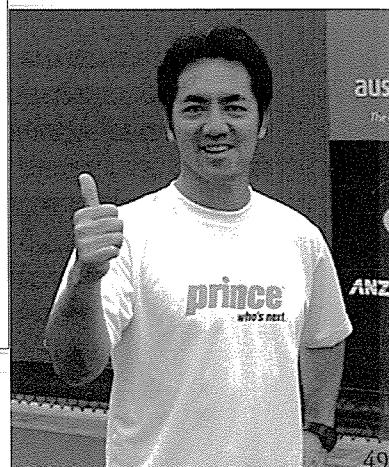
高校生の皆さんには、自分の可能性を信じ、目標をもって努力を継続する——言葉でいうのは簡単ですが、それに向かって「チャレンジ」する4年間であってほしいと願っています。それを実現できる環境はここにあります。

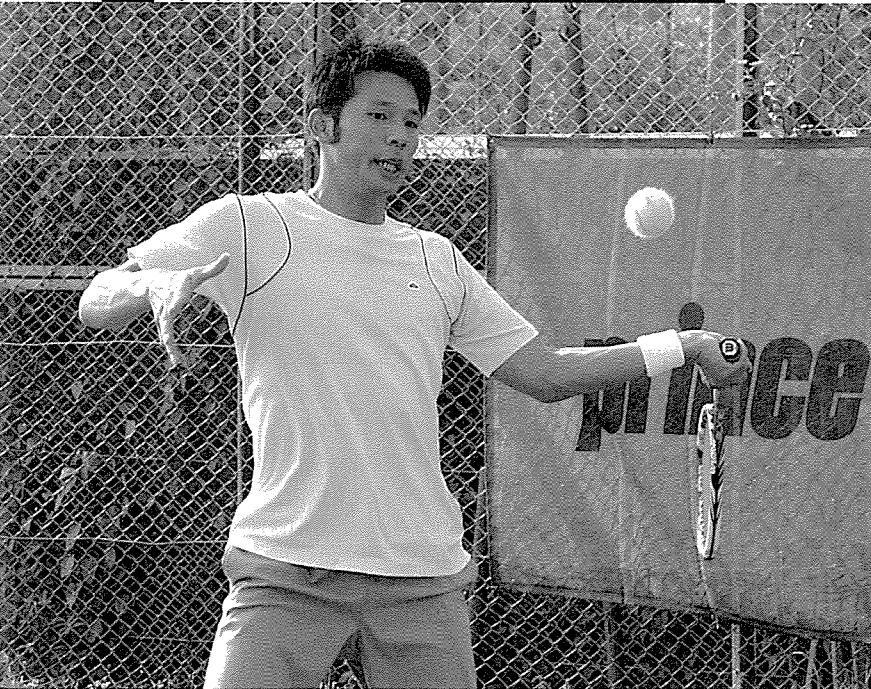
私は現在、ナショナルコーチとして活動しています。ナショナル選手のツアーに帯同して、常に強化を図り、レベルアップすることを心がけています。

デビスカップでは29年ぶりにワールドグループ入りを果たし、世界ランキング100位以内に3名が入るという目標も達成しました。今後も堀内監督に言われてきた、「自分を信じ続けること」を選手たちに伝え、世界に「チャレンジ」していきたいと思っています。

たかだ・みつる◎1969年9月26日、沖縄県生まれ、亞細亞大学出身。朝日生命退社後、2000、02年全日本選手権複優勝。03年岩渕聰プロのツアー同行、03~06年杉山愛プロのツアー同行。03、04、07、08年とフェド杯日本代表チームのコーチ。11年からデビスカップコーチ、男子ナショナルチームの指導にあたる。(公財)JOCアシスタントナショナルコーチ、(公財)JTAナショナルチーム、ナショナルコーチ(男子担当)。S級エリートコーチ

**高田充**  
(JTAナショナルチーム・ナショナルコーチ)  
監督に言われてきた「自分を信じ続けること」を選手たちに伝えながら、世界にチャレンジしていきたい





# 宮崎 靖雄

（筑波大学大学院在学中／亞細亞大学テニス部コーチ）

「自分に限界をつくるな」  
監督の言葉は、いまでは私の一部となっています

私の亞細亞大学との出会いは中学3年のとき。堀内監督が私の出身地である熊本に、テニスの指導に来てくれたことがきっかけでした。当時、熊本県テニス協会は私が高校3年のときに行なわれる予定だった『熊本国体』に向けて、強化を図っていました。その中で協会が亞細亞大学に少年少女の競技力向上の要請をし、協力していただくこととなったのです。

当時の熊本県のテニスは“全国レベル”とは言い難く、当然、私自身のテニスも全国レベルではありませんでした。全国大会に出場するためのエントリー方法さえ知らないという状況です。そんな環境の中で育ってきて、堀内監督の指導を受けたのですから、見るもの聞くものすべてが新しく、「亞細亞大へ練習に行きたい」「堀内監督の指導を受けてうまくなりたい」と思うのに時間はかかりませんでした。

中学3年の冬に東京に行き、亞細亞大の合宿に参加。およそ2ヶ月弱、大学生と同じ練習をさせていただきました。当時の亞細亞大は男女とも全国1位でしたから、先輩方にとっては私の存在は迷惑だったと思います。しかし私にとっては毎日が刺激的で楽しく、そのときの光景は昨日のことのように思い出されます。

高校生になると、休みのたびに練習に参加させていただくようになり、一方で堀内監督が熊本に出向いてくださり、指導していただくこともあります。そのような状況が続く中で、堀内監督の熱意が私の視野を世界へと向けさせてくれました。

熊本国体が終わっても、私の心中では「世界を目指したい。そのためには日本一の指導力を誇る亞細亞大に行きたい」という想いが募つていきました。進学を決めたのです。

振り返れば、私の学生時代はテニスに没頭した日々でした。さまざまな成功もありましたが、たくさんの失敗もありました。そのようなとき

## ---指導者&大学院へ---

To a Leader & Graduate school

は監督の指導に救われています。指導者の言葉はときに人生を変える力をも�니다。私は堀内監督の言葉をいまでも憶えています。

「どんなときでもさらに上のステージを目指せ」「自分に限界をつくるな」「何事にもチャレンジしろ」「テニスが強いだけでは意味がない」——これらの言葉は私の人間形成に大きく影響し、もはやそれは私の一部となりました。世間では『教育』に関するさまざまな問題がもちあがっています。私が考える教育問題において一番大事なことは、“尊敬できる教育者”に出会うことだと思います。私は、堀内監督は間違いなくそれに値する人だと思いますし、心から尊敬しています。

私は亞細亞大を卒業したあと、プロテニスプレイヤーとして活動し、世界を目指してきました。海外転戦する生活の中で、あるときプレイヤーとしての自分ではなく、別の自分がこんなことを考え始めたのです。「海外と日本のスポーツ観の違い」「スポーツ生活者のスポーツを享受する能力の違い」「スポーツの価値に対する認識の違い」「なぜ日本のスポーツは多くの国民にとって身近な存在となり得ていないのか」「スポーツをさらに多くの人に余暇のひとつとして気軽に、平等に行なわれるものとするにはどのような経営がなされるべきか」などです。そのような疑問がやがて好奇心へと変わり、研究することを始めました。いまは、これまでとは違う形でテニス界に貢献していきたい——そう思うようになり、『体育経営学研究』の道を歩んでいます。

現在は筑波大学大学院を修了し、亞細亞大のコーチをしています。学生たちに対する技術指導はもちろんのこと、私がこれまで経験してきたことを彼らに伝え、活かしてもらえるように、それによってたくさんの可能性を秘めた社会人になってもらえるように日々指導にあたっています。

大学という場所は、社会人になる前の最後の教育の場です。現在、私が周りを見渡す限り、勉強とテニスの両面で、本気で取り組んでいる組織は数少ないと思っています。亞細亞大は、学生が本気でチャレンジできる場所です。この素晴らしい環境を活用して、有意義な学生時代を歩んでみたいと考えている高校生の入部を待っています。

みやざき・やすお◎1981年8月29日生まれ。熊本県出身。熊本マリスト学園高校卒。98年全国選抜室内ジュニア選手権優勝。99年ウインブルドンジュニア出場、全日本ジュニア複優勝。00年亞細亞大学入学。02年全日本学生室内単優勝、複優勝。03・05年ユニアーチアード代表(05年トルコで複ベスト8)。JTA最高位単17位、複16位、ATP最高位単790位(05年)、複829位(05年)。04年に大学を卒業、プロ転向し選手活動を続ける。現在は筑波大学大学院の体育経営学を修了し、亞細亞大で更新の指導にあたっている

私が亜細亜大学進学を決めたのは、堀内監督からの1本の電話でした。高校2年生の夏に父親を亡くした私は、その後、糸の切れた凧のように、自分がどこに向かっているのかさえ理解しておらず、正直、自分の将来について真剣に考えていませんでした。

ただ、“なんとなくテニスが好きだからテニス活動がしたい”と漠然な思いをもっていた私に対して、堀内監督の「テニスが強くなりたかったら亜細亜大学に来い」という電話越しからの情熱的な言葉。私に亜細亜大学入りを決意させるのに時間はいりませんでした。

実際、大学に入学すると、同じ学年にいた多くのライバルたちといっしょに過ごす刺激は、私に大きなモチベーションを与えてくれました。今でもよく憶えているのが、合宿での朝から夕方まで練習をして疲れきったはずなのに、夕食後にナイターのフリー練習を欠かさず行なっていたことや、部活が休みの日に学校の近くのコートをみんなで借りてお金を出してまで練習していたことです。

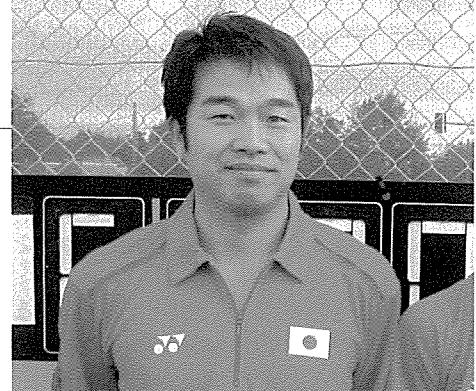
また、いま考えると当時嫌だった、先輩後輩の上下関係を経験したことは、その後の活動において、コミュニケーション能力や忍耐力とい

った、社会に出てからの重要な能力をつける修行期間であり、大きな財産となっています。

私は運よく大学4年のとき全日本選手権で複優勝（／佐藤博康）という結果を出し、ミキプレーンに就職きました。ミキプレーンではプロのような活動を8年間送ることができました。その後はナショナルコーチとして日本代表選手の強化に携わり、10年目になります。

人生は“自分の決断”でどんなことでもできると思っています。しかし、多くの選択肢を自分だけでは探し出すことができません。もし、この文章を読んでくれた高校生、ならびに両親、コーチがおりましたら、亜細亜大学を選択肢のひとつに入れて、真剣に自分の人生を考えていただければと思います。

こまだ・まさふみ◎1973年3月30日生まれ。愛知県出身。名古屋高卒。90年U18全日本ジュニア複優勝。91年亜細亜大学入学。94年大学王座優勝。全日本選手権複優勝。95年ミキプレーン就職。ミキプレーンで選手活動を8年間行ない、JOP（現JTA）最高単9位。その後はコーチへ転身、現在は竹内庭球研究所をベースに指導者の道を歩む。日本テニス協会ナショナルコーチ、16歳以下女子日本代表監督。S級エリートコーチ



**駒田政史**  
自らの決断で選んだ亜細亜大学、間違つていませんでした  
(竹内庭球研究所)

## 中村聰利

偏差値よりも個性値を大切にする  
大学で、「個」を磨くことができました  
(浦和学院高等学校)



10歳でラケットを初めて握ってから現在までの26年間で、テニスを通じてさまざまなことを学んできました。「感謝すること」「あきらめないこと」「勝つために最善を尽くすこと」「相手を尊重すること」「チームの一員として役割を果たすこと」など。そして何よりもかけがえのないことは、「テニスを通じて多くの人と出会い、国内に限らず海外の友人もでき自分の視野が広がったこと」です。そんな経験をすることができた場所のひとつに、亜細亜大学があります。

当時は同世代のトップたちとともに、学生時代の大半をテニスコートで過ごしました。好きなテニスに夢中になり、その楽しさを感じ、ときに勝てない自分に悩み苦しんだりもしましたが、そんな日々と向き合いながら過ごせたのも「テニスが大好き」という思いと、堀内監督をはじめとした仲間が亜細亜という環境にいたからだと思います。

印象深いのは、日本一を決める大学王座決定試合に、4年次で挑んだ「王座奪回」。結果、優勝することはできませんでしたが、部員が同じ方向を向き、本気で戦い抜いた準

優勝には清々しいものを感じました。

現在は高校教師として教壇に立つと同時に、亜細亜で培った経験を生かし、テニス部顧問として務めています。私の指導の心得の中には、孔子の言葉「水は方圓の器にしたがう」があります。これは「人は環境や交友関係によって善くも悪くも変わる」という意味です。お互いが信頼し、尊重し合える仲間をつくり上げることこそが、私たちにとっての「師」であり「テニス」なのだと思います。だから、指導者は自らを高め、その環境づくりにエネルギーを注がなければいけないと感じています。

最後に、これから社会を生き抜くためには「個」が問われることでしょう。偏差値よりも個性値を大切にする大学で、自身も「個」を磨くことのできた亜細亜は、誇りのもてる私の母校です。亜細亜の門を突き破り、挑戦し続ける高校生の入学を期待します。私も生徒とともに、挑戦を続けています。

なかむら・あきとし◎1975年12月13日生まれ。山形県出身。日本大学山形高等学校卒。93年全日本Jr.18歳以下単ベスト32。94年亜細亜大学入学。97年インカレ複ベスト32。98年に卒業し、98~04年までJAMプランニングにテニスコーチとして務め、ジュニア育成に携わる。04年4月から学校法人明星学園浦和学院高等学校に教師として就任し、現在に至る

私が亜細亜大学に進学した理由は、テニスに本気で打ち込みたいと思ったことと、自分を大きく変えることのできる環境があると思ったからです。

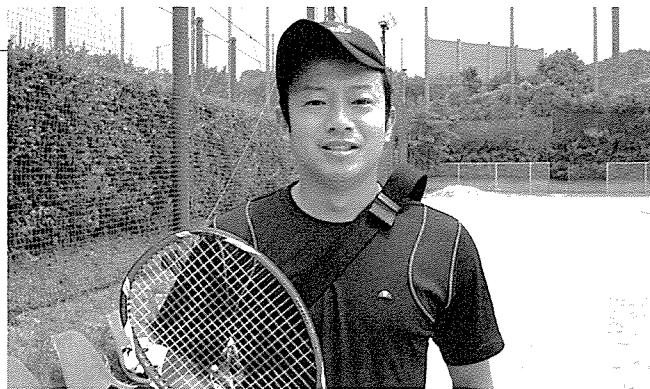
学生時代は1、2年となかなか思うような結果が出せず苦しい思いをしましたが、3、4年になると試合経験と練習量が増加し、海外遠征（ポルトガル）によって自信がつき、インカレに出場して勝つことができました。なおかつレギュラーとしてリーグ戦に出場することもできました。また4年次には主将となり、同期の皆さんに支えられて乗り越えることができました。

“責任”という大きなものを背負いながら日々を過ごせたことが、自分を成長させてくれたように思います。

私自身は高校まで、テニスクラブで練習をしていたので、大学からの部活生活は本当に新鮮でした。今まで自分でうまくなるとか強くなると思っていましたが、部活でやることによってチームで強くなると思えるようになり、

“協調する”ことの大切さを知りました。

現在、私は教師として、またテニス部顧問として活動しています。最初から教師を目指していたわけではありませんでしたが、教育実習を経験し、教師のたいへんさを知るとともに、人を変えることのできる仕事というところに非常



に魅力を感じました。自分が指導している子供たちが日々成長している姿を見たり、自分の伝えたことを実践して変わろうと努力している姿を見ると、まさにやりがいを感じます。

高校生のみなさん、亜細亜には本気になる環境があります。いつかは現役を退き、本気でコートを走り回ることもなくなります。しかし、そうなる前に大好きなテニスと納得いくまで本気で向き合い、本気で生きることを感じてください。最高の人生を送るために最高のプロセスを送ること。そのためには日々何事にも全力で取り組むこと。頑張れ高校生!!

しんや・あきら◎1985年3月7日生まれ。大阪府出身。大阪産業大学附属高等学校卒。03年亜細亜大学入学。06年春季関東学生単&複ベスト32、インカレ単ベスト64、複ベスト32。07年に卒業し、現在は母校である大阪産業大学附属高等学校に社会科教員として務めるかたわら、テニス部顧問としても活動している

**新谷 啓**  
(大阪産業大学附属高等学校教師)

## 平良和己

（沖縄尚学高等学校）

6歳でテニスを始めて、高校まで地元・沖縄で活動しました。高校時代はインターハイで団体ベスト8に入るも、個人戦は1、2回戦負け——どうしてももっと強くなりたかった——。関東1部リーグではない、偏差値の高い名門の大学にも誘われましたがまったく興味がなく、全国のトップ選手が集まり、10面のテニスコートとグラウンド、トレーニングセンターなどの素晴らしい環境、そして堀内先生の指導に「ここだ！」と感じて亜細亜の門を叩きました。

4年間の学生時代は、大半をテニスに費やしたと言っても過言ではありません。沖縄にはない素晴らしい環境の中、全力プレーできることに、今までにない充実感を覚え、毎日テニスコートを走り回り、自分なりに限界を目指していました。そんな中で高校時代にはまったく歯

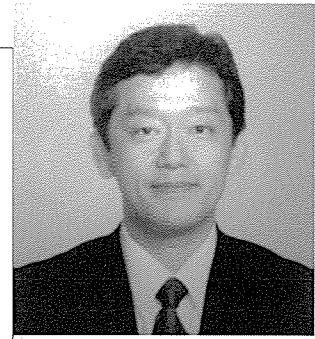
が立たなかった選手に関東学生で勝ったとき、亜細亜を選んで間違ひなかったと感じました。リーグ戦、大学王座という今まで味わったことのないプレッシャーの中での試合は、いまとなればとても良い経験だったと思います。人生であれほどのプレッシャーはなかなか味わえるものではありませんから。

現在は高校の教師として教壇に立ち、放課後は部活を指導しています。もともと教師になるとは思っていませんでした。何となく4年間で免許が取れるならと思い、3年次から教職授業を受け、社会科の教員免許を取得しました。亜細亜のテニスクリニックで人にテニスを教える楽しさを感じ、今までの経験を地元で伝えられたらと思うようになったのです。堀内先生、森コーチの指導は、いまの私の部活指導の基本になっています。亜細亜での経験が、教師となつたいまの私を支えています。

大学4年間で目標を達成するために、誠実にテニスと向き合い努力することで、人として成長し、社会で認められる人間になる——亜細亜はそれができる場所です。目標があるなら、私は亜細亜を選んでほしいといいます。

たいら・かずみ◎1982年6月29日生まれ。沖縄県出身。沖縄工業高校卒。インターハイ団体ベスト8。01年亜細亜大学入学。04年新進ベスト4、春関単ベスト8。04年大学を卒業。05年日本体育大学で体育教員免許取得。06年沖縄尚学高等学校体育教員に就任、現在に至る





## 山名均

(京葉銀行)

亞細亞大学テニス部は、世界基準のレベルを持っています。そこで身につけた目線を持った人材は、日本のテニス界の成長と発展に貢献しています。私は、少し前の話になりますが、亞細亞大学経営学部の授業で学び、ゼミで研究し、そしてまさにこのテニス部で堀内監督・宇田川先輩・故衛藤学長他皆さんの教えをいただき、亞細亞大学のイメージアップ戦略の一幕を体験させていただきました。この貴重な経験は、後に銀行に就職して、実業団テニス部を創部する、発起人の一人となるばかりか、現在も監督を務めさせていただいている原動力となっています。実業団の戦いの場は、日本リーグの下部の組織になりますが関東大会や全国大会で亞細亞OB・OGに会う事が出来ます。大学生の体育会の運営は、企業という組織の縮図です。勝つための方法を一所懸命に考え、体力の限り実行し、負けたら反省し弱点を見つけて改善する。まさにPDCAサイクルの体得は、ビジネスの基本であり社会に出るまえに身につけておくべき事なのです。大好きなテニスを通じ社会人としての基本を身につける事ができる。それが亞細亞大学のテニス部です。いまも昔も、上記のような理由により一芸秀でた人材は、企業にとって必要なのです。負けた事も、失敗した事も次の自分を強くするためのエネルギーに換える為のメンタルシステムを身につける事ができるように精一杯頑張ってください。亞細亞大学のテニス部のプライドを持ったOB・OGが全国に拡がっています。企業にとっても強さを継続する事が経営の最大目標であり、そのノウハウを身につけた人材がこれからも増え続ける事を期待します。尚、当銀行テニス部に入部したい選手がいらっしゃったら是非連絡ください。お待ちしております。最後になりましたが26年前、九州へスカウトに行く際に貧乏学生であった私の飛行機代や宿泊代金を堀内監督が私財を提供して捻出して連れていって下さった事や当時サポートしていただいていたロシニョールジャパンへ連れていって下されたこと等々大変活きたご指導をいただいたことは今でも私の財産のひとつです。この場をお借りしてあらためて御礼申しあげます。結びに、乱筆にお付き合い頂いた皆様に感謝申しあげますとともに、亞細亞大学テニス部の益々の盛況を祈念します。ありがとうございました。

やまな・ひとし◎1966年3月30日生まれ。千葉県出身。八千代松陰高卒。1988年卒、現在は京葉銀行テニス部監督を務める

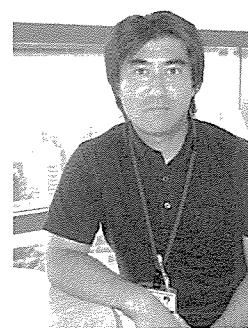
## 須藤陽史

(東日本電信電話株式会社)

亞細亞大学を卒業して早いもので19年。今でも数多くの事を鮮明に思い出すことができます。中でも思い出深いのは4年時に大学王座で初優勝することができたことです。団体戦日本一決める舞台で優勝できたこと。自分もその試合に出場できた事は大変貴重な経験になりました。今こうして社会人として生活していると、大学時代の様々な経験は今の人生に多く活かされているのではないかと感じる事があります。例を挙げると王座優勝を目指し多くの練習をしたことや、団体戦などの試合経験からは強靭な体力・精神力を、体育会独特の文化からは上下関係や規律・協調性などの大切さを。成功した素晴らしい経験やより多くの失敗した(笑)苦い経験が卒業後の自分を創ってくれているのだと思います。ときには会社での仕事の忙しさに追いつめられ、人間関係や納得できないような困難に直面し思い悩むことがあります。しかし大学での経験で得たものがこれらの困難をいつも簡単にクリアさせてくれます。「あの時の

練習のキツさに比べれば」「試合で経験した緊張感に比べれば」などとすると困難にも正面から取り組む勇気が湧いてくるのです。亞細亞大学に入らなければこのような貴重な経験はできなかっただかもしれません。大学への進学を希望されている皆様、大学での学業や部活動などから得られる経験はこれからの人生を歩む上で大変貴重なものとなります。テニス部には堀内監督を始めとする素晴らしい指導者と素晴らしいテニス部の仲間たちがいます。ひとつ事に思う存分打ち込めるのは今しかありません。ぜひご自身の可能性に挑戦してみてはいかがでしょうか。

すどう たかし◎1972年4月29日生まれ。東京都出身。八千代松陰高等学校卒。89年はまなす国体少年の部準優勝。90年とびうめ国体少年の部3位。91年、93年全日本学生ダブルスベスト4。94年夏季関東学生ダブルス優勝。95年に卒業しNTT入社、フルタイムの仕事を傍ら10年間日本リーグでプレーし、現在はNTT東日本資材調達センターで法人系システム商品などの調達を担当。テニスでも東京実業団1部リーグで奮闘中



### 亞細亞大学テニス部◎主な就職先一覧

大正製薬 / バイオニア / 松下電工 / NEC / 三井海上火災保険 / パナソニック / 豊田自動織機 / 朝日生命保険 / 大沢商会 / セコム / 伊藤忠商事 / ゼネラル石油 / ヤナセ / ワールド / 東芝 / 島津製作所 / NTT東京 / 日本鋪道NIPPO / 北日本物産 / NTT北海道 / 福岡銀行 / 日本生命 / 平和堂貿易 / 東急百貨店 / 松下通信工業 / 大東銀行 / アイン精機 / 山陽新聞 / ディスク / 野村証券 / ヨネックス / みずほ銀行 / レオパレス21 / 常盤薬品 / ANA / プリンスホテル / 警視庁 / 神奈川県警察 / JR北海道 / トヨタ自動車 / ブリヂストンスポーツ / アメア スポーツ ジャパン / イカイ / KONAMI / JA山梨 / 明治安田生命保険 / 三井住友海上火災保険 / アドヴァン

# 亞細亞大学 OBOG対談

PART 1

今回、初企画の亞細亞大学OBOG対談です。

参加者は、森稔詞コーチ(平成4年度卒)、佐藤武文コーチ(平成5年度卒)、

山本幸治さん(平成5年度卒)、赤堀奈緒コーチ(平成6年度卒)と、

司会はアジア女子ローンテニス部3年の松本が担当しました。



松本：本日は、お集まりいただきありがとうございます。まず、リーグ戦の思い出から聞かせていただけますか。森さんが入った年は7部と伺っています。

佐藤：森さんが1年生の年から7部⇒6部⇒5部⇒4部⇒3部まで、僕らが6部から2部までのリーグ戦に関わりました。

森：7部はトーナメント形式で、6部校以上がリーグ戦形式でした。最後の3部との入れ替え戦は、実は出場していません、同学3人と海外遠征に行っていました。それでも戦える強さがあったと思います。

佐藤：僕らがプレーしていた頃のリーグ戦は圧倒的な強さでした。

松本：負けた人はいませんでしたか？

佐藤：いましたよ(笑)。

森：7部での1回戦上武大学との対戦は、54で競り勝って。2、3試合がファイナルタイブレークでした。負けていたかもしれない試合です。

松本：赤堀さんの思い出はいかがですか？

赤堀：オーダーミスで試合が没収されて負けた年がありました(たしかオーダー表記に誤りがあり、訂正印を押さなかつた？などの理由で)。

松本：当時は、何を目標に練習していましたか？

佐藤：僕は、関東ジュニアにも出たことがありませんでしたが、関東学生に出場したくて練習に明け暮れたのを憶えています。結果的に1年生の時に出場できました。そして、2年生でインカレ予選に出場、予選も通過してついにインカレ選手になりました。僕の1つ上の先輩に森さんや岡田岳二さん、高田充さんと強い選手が3人いました。部内戦をすると僕が負けたことのないペアがインカレも出場して結果を残していましたから「彼らに勝てばインカレでベスト4に入れる」と。わかりやすかったですね。だから、“部内戦”にはすごく意味がありました。3年生になったとき、弟(佐藤博康)が入部してきてダブルスを組みましたが、あえなく予選で敗退。でも、部内で揉まれていくことで、夏闘のダブルスで優勝、全日本選手権ではワ

イルドカードをいただいたいて出場することもできました。

松本：赤堀さんはいかがでしたか？

赤堀：同期にいたインターハイ、ベスト8の人のうち6人

はプロにいく時代でとにかく強かったです。私は大学1年生のときはそれなりにやっていた感じだったのですが、あるとき先輩に負けて意識が変わりました。それをきっかけに学生大会をすべて優勝する練習計画を立てたんです。3年目に計画通り学生タイトルを全部獲りました。その後は、より上的一般大会に目を向きました。

佐藤：2年生のときに年間計画を立てて、それを忠実に実行したのは凄いことですね。

赤堀：大明(森さんの弟)とよく練習していましたよ。

佐藤：男女関係なく、みんなでよく練習しましたよね。

赤堀：男子とやっても本気でしたよ。でも仲はすごくよかったです。

森：そうそう、何でも本気。本気で文句も言っていた記憶があります。

佐藤：サボっている仲間には絶対負けたくないと思っていましたね。

赤堀：私は高校までテニスクラブでプレーしていたから、大学で部活に入って、いい意味でプライドを粉々にされました(笑)。かっこつける必要なんてないなって。

佐藤：目標が学生の大会だけでなく、外に向いていて、学生でもプロに勝っていました。森さんや岡田さんは、実際に勝っていましたしね。

山本：部内でトップに立ったらプロにも勝てるっていう感じでしたね。

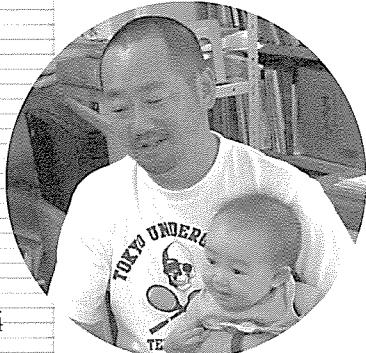
森：僕も、赤堀と同じで外に目が向いていました。過去のアジア(同書)に掲載されているJOPランキングをみるとトップ100に6人の亞大生が入っていましたね。

赤堀：部内で勝つと周りから認められる。一方で努力して結果が出なかったらどうしようかと、みんなが考えていたことがよかったのかもしれません。

佐藤：ベクトルが「強くなろう、上手くなろう」という方向を向いていました。

赤堀：遊ぶけどテニスが一番！

森：JOP大会でどう勝つか、ATPポイントをどうやって取るかと真剣に考えていました。3年生から4年生にかけて、一般トーナメントに勝って、日当を50万円貯めて海外遠征の費用にしました。オーストラリアに1か月、アメリカに2か月の遠征に出て、はじめに岡田がATPポイントを取ったときはとてもうらやましかったです。僕は、遠征の最後に出場した大会で予選を5、6回勝って、本戦に上がって2回勝って、やっと



1点が取れました。あのときは本当にうれしかった。だって世界ランカーですから。

佐藤：それは価値ありますね。

森：この遠征は、3年生のとき春闘に優勝したあと、インカレ以外は出場しなくていいように学連にお願いして、それでチャレンジできた貴重な体験でした。

松本：今の学生と昔の学生の違いは何だと思いますか？

佐藤：昔の方がテニスに集中していたと思います。

赤堀：私はもっとハンガリーだったと思います。昔は勝てないと認めてもらえませんでしたから。

赤堀：ナイターのあるコートは確か4面で、トップ選手以外は、冬に練習できるのは土日だけでした。Aチームや試合の近い人が優先的に練習コートを使っていたので、それ以外の人は暗闇でサーブを打っていましたね。

山本：僕はサーブを打っていたなあ。

赤堀：だから私は土日に、遅くまで残って練習していました。練習時間がほしかったからコートを奪い合って練習する感じでした。コートが空いているなんてことがなかったです。Aチームの人は、優先的に練習させてもらっていることに対する感謝の気持ちがすごくありました。だから私はチーム戦のときには絶対に勝つんだっていう気持ちが常にあったのだと思います。

山本：僕は…練習ができた記憶がないです（笑）

佐藤：僕はBチームだった。だから、とにかく練習から本気でしたよ。

森：僕はトレーニングでも負けたくなかったことを思い出します。

赤堀：私は本気でぶつかってほしい。“本気”って大事だってことをもって伝えたいですね。そして本音でぶつかってほしい。ダメをダメと言ってあげるのも優しさだと思うので。

松本：亜細亜大学に入学してよかったと思うことを教えてください。

佐藤：部員のみんなが強くて、そんなみんなに僕は引き上げてもらったりし、互いに切磋琢磨することができた。それがなによりの財産です。

赤堀：私は自由にやらせてもらったことです。堀内監督が「好きなテニスを思う存分やればいい」って、のびのびやらせてくれました。先輩にも引き上げてもらったりし、同学年ともケンカしているこんな意味で鍛えてもらいました。いいことしかなかったですね。

森：僕も、リミッターをかけないでテニスさせてもらいました。どんどん上に挑戦したし、ここが僕らを日本一にしてくれたと思っています。本当に亜細亜でよかったと思っています。

赤堀：入学当初は無名の大学だったから「何かやってやろう！」と思っていました。野心があふれている人ばかりだった気がします。

森：部活の雰囲気が“可能性”に溢れていた。今は昔よりも



はるかに環境が整備されてチャンスは広がっていると思うので、今の学生ももっと“本気”になればさらに強くなると僕は思う。僕らコーチがたくさんいて、国際大会やJOP大会が部活内にあるのだからそれを生かすことで最高の環境になると思う。

赤堀：堀内監督はよく「コーチいらずのコーチになる」というのが口癖でした。

コーチいらずの選手を育てるというポリシーがありました。今もそう。

森：僕が堀内監督に教えてもらったことで印象に残っていることは「前に出ろ」かな（笑）。それが後々、僕が全日本室内で優勝できた大きな要因でした。たったひと言。でも、それが僕を変えた。

山本：監督は教えないっていう教えをするんですよね。

佐藤：それが究極だと思います。

松本：今の学生に必要だと思うことは何ですか？

赤堀：夢と希望。もっと目標を明確に持ってほしい。もちろんテニス以外にも。時間はあっという間に過ぎていくから。大学4年間しかできないこと、それがテニスならとことんやってほしいです。

森：満足しないで常に外を見て、努力し続けてほしい。

佐藤：試合で勝てなかったとしても、そこまで本当に努力してきたか、そこが重要だと思います。関東学生に出場できなかったらダメというわけではなく、そこまで本気の努力をしていたのなら、僕はそれでいいと思います。

赤堀：亜細亜に入学したら強くしてもらえる、などと1ミリでも思っていたらダメ。自分でなんとかすることです。

佐藤：僕もそう思います。僕らが教えてくれると思わず、貪欲にテニスに向き合ってほしい、盗んでほしい。

森：教えてほしいと待っているのではなく、呼び込むことが必要です。監督やコーチが見てくれるまで練習したらいい。そうすることで、普段見えない部分が見えるようになってくる。「量の質転換」という言葉を聞いたことがあります、まずは、とことんやってみることをお勧めしたいですね。みんなには明るい未来があるんですから。僕たちコーチ陣もしっかりとサポートしていきたいと思います。



森さん、佐藤さん、山本さん、赤堀さん、貴重なお話ありがとうございました。

## 亞細亞大学

## OBOG対談

PART 2

前のページに続いて、次は岡本聖子コーチ(平成12年卒)、田口景子さん(平成13年卒)、北崎悦子コーチ(平成17年卒)に対談していただきました。今回の司会も松本が務めさせていただきました。



松本：みなさんがリーグ戦を戦った頃の思い出について教えてください。

岡本：私たちの頃は、1部でした。リーグ戦が4月にあったので1年生の頃は何が何だかわからない状態。でも、まずは「勝たないといけない」と思っていました。

北崎：私たちの頃は、1年生の時に関東リーグ9連覇がかかっていましたが、結果は優勝どころか4位。過去のリーグ戦の歴史の重みと責任を感じました。2年目からは、リーグ戦のことを先輩方からたくさん聞いて、より身が引き締まる想いでした。

岡本：実際その重みと責任を理解するのには時間がかかると思う。特に1年生の春には。

北崎：当時は、入学後にある大学行事の「出会いの広場(新入生の交流会)」にも行けなくて…

岡本：そうだったね。当時、リーグ戦の試合が週に2日だったので、試合と練習の繰り返し。3週間も続けていたから学校にもなかなか行けなくて。やっと学校へ行けたのが4月の終わりだった。周りは、みんな友達ができていて…羨ましかったな。

松本：ああ…、それはきついですね…。

岡本：リーグ戦のメンバーに選ばれると、嬉しい半面責任も感じました。みんなの代表なんだって思いがありました。厳しい練習だったけれど…でも、明るいうちに家へ帰っていたから、楽なように思えていたかな(笑)。

北崎：私、すごく疲れた記憶があります。でも、厳しい練習でしたが、優勝することすべてが報われますね。

松本：学生の頃は、何を目標に練習をしていましたか？

田口：全日本テニス選手権や一般の試合でポイントを取って日本ランキングの上位を目指すこともありましたけど、まずは、関東リーグで優勝して、大学王座で優勝することが大きな目標。個人戦では、インカレやインカレンドアのタイトルを獲りたいと思っていました。

岡本：当時はそれが当たり前でした。海外の試合や全日本など一般大会にチャレンジすることが、

学生大会でチャンピオンになることにつながると思っていた。一般的の大会では、なかなか優勝することはできなかっただけど、それでもトライし続けてあちこちの大会に出場していました。私は子供の頃からプロになりたかったけれど戦績も実力もなくて。だから、大学でテニスを続ける道を選びまし

た。先にプロになった同期に追いつきたくて。高校3年生の当時、堀内監督に「プロに負けない学生になれ」って声をかけてもらってからは、それが自分の中での目標になりました。そこには、樂しみっていうかやりがいがありました。

北崎：私も高校生まで一般大会にほとんど出場しなかったので、大会の存在自体を知りませんでした。どういった大会が全日本に繋がっているのか知らなかったので「こういう大会がいいよ」とか「こういう大会がポイント取れるよ」と大学に入って先輩から教えてもらいました。

岡本：私は実際に全日本でプレーしている人がすぐ近くにいたので、それが当たり前だと思っていました。私も先輩にいろいろ教えてもらっていました。

北崎：私もそうですね。質問もよくしていました。先輩や、試合が終わったあとには対戦相手にアドバイスを聞いたりしました。私もプロになりたかったので、周り方など先輩の行動を盗んだりしていました。

岡本：部内には「あの人がベスト4だから、あの人に勝ったら決勝へいける」というようなものさしがたくさんあったから、とてもわかりやすかったです。実力は離れていて遠い存在なのに、でも近いものに感じてしまうような…。しかも一緒に練習もできるから「絶対に先にミスをしないようにしよう」などと思いながら練習でも出来ていたのもとても良かったと思います。

松本：今の学生と昔の学生は何が違うと思いますか？

田口：私は貪欲さが違うと思います。もっと食らいついてほしいです。コーチに対して「はい！」の返事で終わるのではなく、もっと会話のキャッチボールがあつていいと思います。今の学生は、なんなくっていうのが多くて、それが「はい」と返事しておこう、になると思うのです。私は、堀内監督に「緻密に考えるように」とよく言われました。だから自分でよく考えなきゃいけないといつも思っていました。監督はちょっとしたアドバイス、ヒントをくれるだけ。肝心の答えは、いつも自分で試行錯誤して考えていました。「監督が言っていたことはどういうことなのだろうか？」「こういうことだろうか？」と。今は、もしかするといろいろ教わっていて自分で考えていないのかもしれない。そうだとしても、私はもっと自分の意見や意思を持ってコーチたちにドンドン投げかけていったほうが、コーチたちもやりがいがあるだろうし「グッ」とくると思います。

岡本：私も教えている中で同じことを感じています。

田口：実力やレベルなどはそれぞれ違うかもしれないけれど、そんなことは関係なくて、自分がそこから這い上がるために、どのくらい貪欲になれるかがすごく大事。そのために必要なものをもっと自分で情報を集めてほしい。そうしたらもっともっと早く上達できるはずだから。

岡本：どれだけハングリーになれるかでしょう。コーチを活かすも活かさないも自分次第ってこと。

北崎：テニス以外でもそうですよね。テニスで受け身だったら、社会でも受け身になってしまふと私は思います。大学の部活で、真剣にテニスに取り組んだら、もっと能動的に動いたらいろいろなものが変わってくると思います。

松本：亜細亜大学に入って良かったと思うことはなんですか？

田口：私は毎日テニスを思いきりやりたかったので、それを満たしてくれる最高の環境でした。全日本優勝者やインカレタイトルを獲っている人などが周りにいつもいて、コーチも遠征について来てくれて、学生だけれどプロのようで、いや、プロ以上かもしれません。選手は、自分のプレーをなかなか客観的にとらえられないので、試合後にコーチがいてくれてアドバイスをもらえることは本当にありがたいことでした。特に試合後はアドバイスによって課題を明確に、すぐに練習ができたのは実力を上げるために重要なことでした。私のテニス人生において大学が一番伸びた時期だと思います。結果的に私も、インカレのタイトルを獲れるまでになりました。

松本：赤堀さんも同じことを言っていました。

岡本：赤堀さんの世代は、私たちによくアドバイスをくれました。堀内監督が問題解決のきっかけになるアドバイスをくれるのですが、答えがなかなか見つけられなかったのです。そんな私たちに、与えられた問題をかみ砕いて説明してくれて、答えを導き出す手助けをしてくれたのです。思い起こしてみると、大学に入るまではあまり考えることをしていなかったように思います。大学で「考える大切さ」を教わりました。

北崎：私も大学に入って

テニス漬けの生活を求めていました。高校ではあまり強くなくて、学校とテニススクールに普通に通う生活でした。でも、もっとテニスがしたかったし、強くなりたかったんです。亜細亜大学には、テ

ニスコートがたくさんあり、トレーニングセンターも完備していて、強い先輩もたくさんいました。その中で練習しているといつも一日があつという間に過ぎていきました。そんな毎日を送っていると、目標を立ててそこに向かっていければ、私も周りの先輩みたいに強くなれるのかなと、思うようになり、行動も自然に変っていったんです。亜細亜でダメだったら私はテニスをやめようと思っていたくらいの覚悟を決めていました。最終的に世界ランキング516位までなることができて、イ

ンカレイングランドのダブルスのタイトルも獲ることができました。

岡本：私は卒業後、WTAツアーを回れるまでの選手になれました。ダブルスでは、全豪オープンの本戦に出場して、マルチナ・ナバラ・チロワと対戦することもできました。すべてはそこにつながっていたんです。堀内先生や亜細亜の仲間に出会っていなかったら、それはどうなっていたかわかりません。

松本：今の学生に必要なことは何だと思いますか？

北崎：よく納得していなくても「はい！」って言っている学生がいますね。

岡本：納得していないのに返事をすることについても考えないといけないのだけれど、納得していないなら、それを主張することも、「どうして？」と考えることもできるわけで、それをしないと前に進めないでしょう。

個性はそこからつくられていくものです。「私はこう考えます」とならないから、だからみんなが一緒になってしまう。

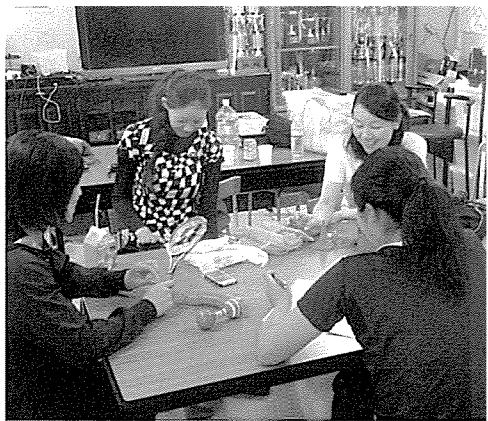
田口：「はい」と言ったときに「本当にわかっている？」と聞くと「なんとなく」という返事が多いのは、私たちにとっての課題だし取り組まなければいけない点だと思います。

岡本：まず考えることをしないと。真剣に考えて、考えて、でもそこに疑問がわいてきたら「なぜですか？」「どうしてですか？」と考えるって大切なこと。

北崎：そうですね。もっと自分を持ってほしいですね。

岡本：大人になって失敗すると問題は大きくなってしまうかもしれないけれど、今は大学生。失敗してもいいと思う。失敗を恐れないで、もっと行動してほしいと思う。社会人になたらその行動に責任が伴う訳で、そこへの課程なわけだから。

岡本さん、田口さん、北崎さんありがとうございました。



今回、初めて先輩方の対談を試みましたが心に残る良いお話を聞きました。PART①、PART②とともに、共通して感じたことは、「テニスに対する貪欲さ」「強くなりたい気持ちを持つ」ということでした。亜細亜大学の環境を最大限に利用して、もっともっと上のステージを目指したいと私は思いました。なぜならこんなにもたくさんのスタッフの方々がいて、コートが10面もある、トレーニングセンターもある大学は他にないと思うからです。自分次第でどこまでも強くなれるはずです。まずは私が努力して、結果を残して、みんなにそれを証明したいです！(松本)

# 就職ガイダンス

## 卒業・就職までのスケジュール

**1年** 働く意味を知り、なりたい自分を見つける

**2年** 自分の強み、興味、関心を仕事に向ける

### キャリアガイダンス

キャリア形成の取り組みをサポートする説明会で、ワークシートなどを用いてキャリアに関するレクチャーを実施します。

#### ● キャリアフィールドワーク

「働くこと」をリアルに捉え、職業観をより明確にすることを目的としている。大学生版「社会見学」のようなもので、就職をより強く意識する絶好のチャンスです。

#### ● 就職準備講座

夏季集中講座。就職活動の3大要素、「自己分析」「企業訪問」「模擬面接」を学びます。

#### ● キャリア講演会

社会で活躍する著名人や卒業生を招いての講演会を行ない、学生時代に「何をすべきか」を知り、その後の「生き方」を考えていきます。

#### ● 職業興味検査

進路の方向性を客観的に理解するための機会。「職業と自分」を考えていきます。

### キャリア・就職支援プログラム

#### ● 個人面談

「学生一人と徹底的に向き合い、同じ目線で将来を見つける」キャリアセンターは常に学生とひとつになり、各自の興味・関心や個性を見据え「進路」を模索します。

#### ● グッドカンパニーフェア

2月、3月、5月に企業の人事担当者の方に来ていただき「学内企業説明会」が行われます。約200社を招き、業務内容などを細かく説明してもらいます。

#### ● キャリアデザイン

なりたい自分への道を描くスキルを身につける。

#### ● 卒業生との語らい

亞細亞大学の卒業生をキャンパスに招き、就職活動体験や業界・企業に関する情報を教えてもらうことができ、年齢が近く適切なアドバイスをもらうことができる。

#### ● 業界研究セミナー

「業界」の概念を学び、志望企業をイメージする。日本を代表する企業約20社の人事担当者を招き、企業の動向や採用情報、求める人材像などを詳しく解説してもらいます。このセミナーをきっかけに進路を決定する学生も多数います。

### 資格取得支援および各種講座も多数あり

公務員試験講座  
[1講座6コース]

民間企業就職試験講座  
[1講座2コース]

資格取得講座  
[10講座15コース]

TOEICテスト対策講座  
[1講座16コース]

語学会話講座  
[3講座15コース]

福祉関係講座  
[3講座6コース]

### 専門課程

#### 教職課程

① 「社会科、英語科 (国際関係学部のみ)

中学校、高校の一種教員免許状の取得を目指します。取得できる教科は、高等学校の公民・商業・英語高等学校の商業は、経営学部経営学科のみ。中学校の社会・英語中学校・高等学校の英語は国際関係学科のみ。学校図書館に配置される司書教諭の資格も取得できます。幅広いプログラムで実力のある教員を養成しています。

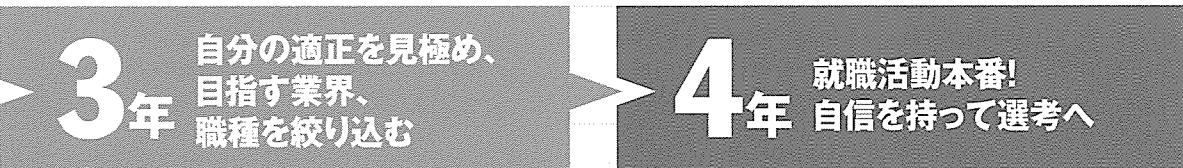
② 図書館学課程

図書館法によって定められている図書館司書の資格を取得できます。同時に、情報システムを駆使できる専門職を育成します。

③ 社会教育主事課程

生涯学習の企画・立案を行なう専門職を目指します。本課程修了で社会主事の講習を履修したことになります。

亞細亞大学では、入学時から多彩なキャリア・就活支援プログラムを展開。  
自分に合った職業に就けるように全学年を通し、個別面談を中心に細かなサポートを行なっています。



### 就職支援ガイダンス

#### ●自分を知る

自己理解、自己分析、履歴書作成を支援します。



キャリア・就職支援に関するセミナーや目的別講座を実施します。3年次には介護体験、4年次には教育実習が行われます。

#### ●業界・企業を知る

「人事担当による模擬面接」に「ビジネスマナー講座」「文献情報入手講座」「内定者に聞く“就活の基礎”」「卒業生との語らい」「業界研究セミナー」などの実施。

#### ●いざ就活!

「グッドカンパニーフェア」「学内企業説明会」「専任職員による個別面談」の実施。

**インターンシップ体験** 2、3年次の夏休みに「インターンシップ体験(就業体験)」に参加するのが一般的。1年次にも参加できます。

## →「教育実習に行ってきました」

教育実習前は、「教育実習に行きたくない」という気持ちがありました。しかし、教育実習を終えて、振り返ると、楽しい思い出しか浮かんでこず、もっと生徒たちとともに過ごしたいという思いが強くあります。

私は、政治・経済を担当させていただきました。さまざまな先生方の授業を参観させていただきましたが、同じ単元であっても同じ授業は1つもありませんでした。そして、似たような授業すらもありませんでした。しかし、指導する教師の知識を存分に発揮して、わかりやすく丁寧に指導していることはすべての先生方に共通して言えることだと思いました。わたしの研究授業では「基本的人権の尊重」の単元を指導しました。何度も何度も練習を重ねましたが、その練習の中であいまいな情報や、理解しにくい表現を使用してしまうことがあります。とても苦戦しました。今まで私が受けってきた授業は、先生方がこんなにも時間をかけて、教材研究をして作り上げられたものだったのかと、身をもって感じ、感謝の気持ちでいっぱいになりました。研究授業では、自分の出せる能力はすべて発揮することができ、「先生の授業本当にわかりやすかった!」と生徒に言ってもらうことができ本当にうれしくなりました。

政治・経済だけでなく、総合の時間も担当させていただき、進路指導ということで、自分自身の経験を教卓で、話しました。このことをきっかけに、生徒から進路やさまざまなことに関しての相談をしてもらえるようになり、実体験や思いを話すことで、生徒も心を開いてくれたような気がしました。

また、私が実習を行った学校は、1学期に文化祭があり、

各クラスで出し物をします。担当クラスの出し物は、「フラッシュモブ」という、さまざまな場所から集まり、ダンスをするというものでした。最初は、クラス全体が文化祭について全く行動せず、ダンスの振り付けすらも



**宇佐川沙耶** (経済学部4年)

わからない状態で、心配になりました。しかし、数名の女子生徒がダンスの振り付けを覚え、クラスの皆に教え始めました。演出等もなかなか決まらなかったのですが、担任の先生のフォローがあり、そこからはスムーズに進みました。生徒から「先生と一緒に踊ろう」と何度も誘ってもらい、本番も参加させてもらうことになりました。とてもいい思い出ができました。最終日の別れはとても辛かったです。最高の経験をすることができました。

教師の仕事は勉強を教えることだけではなく、クラス運営を円滑に進めること、生徒の気持ちに寄り添って相談に乗ることなど様々な役目があると思いました。教育実習を通じて多くの知識を得ることができ、普通ではできない経験をすることができました。このことを教育実習だけで終わらず、今後の部活や日頃の生活でも活かしていきたいです。教育実習に参加できて、本当に良かったです。

私たち亞細亞大学が“国際大会”を開催するには意味がある

レポート◎佐藤俊介  
(国際関係学部国際関係学科4年)

# 2014年国際大会開催レポート

## 男子 亞細亞大学 国際オープンテニス

予選○3月8-10日、本戦○3月11-16日／  
本学日の出校地テニスコート／賞金総額1万ドル

## 女子 亞細亞大学 国際女子オープンテニス

予選○3月22-24日、本戦○3月25-30日／  
本学日の出校地テニスコート／賞金総額1万ドル

## はじめに

本学主催の男子国際大会は、8回目を数えます。女子の国際大会も3回目を迎えることができ、本当にうれしい限りです。3年前、東日本大震災の影響により、予選をスタートしたものの途中で中止を決断、開催を見送ることとなりましたが、今年は昨年同様、たくさんの方々のご協力を得て、無事に全日程を終了することができました。

私たちはこの大会を——『若い選手にチャンスを』——という思いで開催しています。このような国際大会を国内で開催する利点、継続が必要な理由、そして私たち大学生が開催する意義などをここに記し、読んでくださったみなさまに、少しでもご理解いただければ幸いです。



図1

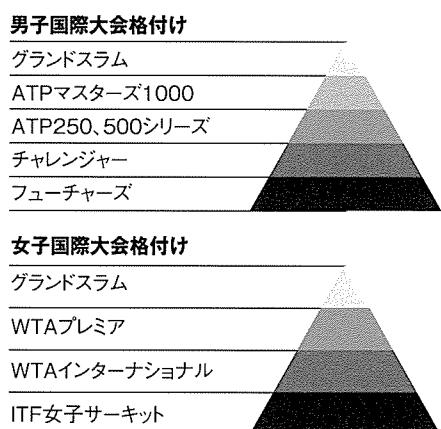


表1 2013年男子  
フューチャーズ大会数上位国

順位	国	大会数
1	トルコ	51
2	スペイン	42
3	エジプト	36
4	アメリカ	31
5	イタリア	30
6	イギリス	23
7	フランス	21
7	ブラジル	21
9	メキシコ	20
9	ギリシャ	20
9	ドイツ	20
9	アルゼンチン	20
(26位)	日本	8

\*東日本大震災の影響により、大会数が大幅減少

表2 2013年男子  
世界ランカー数上位国

順位	国	ランカー数
1	フランス	137
2	アメリカ	132
3	ドイツ	114
4	イタリア	108
5	スペイン	100
5	アルゼンチン	100
7	ロシア	92
8	ブラジル	81
9	イギリス	74
10	オーストラリア	72
(12位)	日本	54

## 国内で国際大会を開催する意味

私たちが開催する「男子フューチャーズ」「女子サーキット」と呼ばれる大会は、国際大会です。図1をご覧ください。両大会は、世界各国で開催されている数ある国際大会の中で、一番底辺に位置するものです。テニスプレーヤーが世界をめざし、世界の頂点へと羽ばたくための第一歩、または、登竜門となる大会です。現在、活躍する多くのトッププレーヤーたちは、まさにこの大会を経て、成長してきました。

次に、この大会がどれだけ重要であるかを知りたいと思います。表1と表2をご覧ください。表1は2013年に開催された男子フューチャーズを数え、もっとも多く大会を開催した順に並べた表です。次に表2は、男子世界ランカー数を国別に数えたものです。

両者を比べるとよくわかりますが、上から順に見ていくと多少の順序の前後こそあれ、出てくる国名がほぼ同じであることがわかります。つまり、男子フューチャーズの大会数が多い国ほど、世界ランカー数も多いということがわかります。大会数が多い国は、選手が自国にいながら多くの大会に参戦することができ、世界ポイントを獲得できるチャンスがたくさんあるということです。ポイントを獲得したのちに次のステージ（チャレンジャー大会）へと進む、ステップアップがしやすくなります。

## 男女国内国際大会数ランカー

ここ数年のランカー数と大会数に大きな変動はありませんが、変わってきたのはランカーに大学生とジュニアの名前が並んできたということでしょう。その反対に大会数は男女ともに減少気味にあります。これには主催者側が大会を開くことの難しさが見受けられます。フューチャーズなどの小さな大会であればあるほど、スポンサーのメリットや世間の注目度というものは低くなってしまいます。資金などの面をみるとだけで1つの大会を開催するの大変さがわかります。フューチャーズを1つ開くために約400万円という資金が必要とされています。大会の数の多さはそのままその国の世界ランカーの数を表すと言っても過言ではなく、減少傾向にある日本の大会を増やすことが、日本のテニス界にとって重要なこととなります。チャンスを日本のテニスプレーヤーのみならず、外国人プレーヤーに与え全体の底上げを図るとともに誰でも世界を目指すことができる環境を作ることが必要です。大学は国際大会を開き続け、機会を提供し、そこからトッププレーヤーを排出していく流れを作ることができるところです。日本では8つの国際大会が開かれていますが、これを今の2倍にしてさらなる機会の提供、テニスへの注目度の向上を目指していくことが大切ではないかと考えます。

表3  
国内男子フューチャーズ8年間の推移

年	国内大会数	ATPランカー数
2006	12	39
2007	11	38
2008	11	41
2009	9	39
2010	10	45
2011	4	42
2012	9	48
2013	8	54

※注:2013年12月現在。

表4  
2013年女子サーキット大会数上位国

順位	国	大会数
1	トルコ	42
2	アメリカ	40
3	スペイン	37
4	イタリア	31
5	フランス	24
5	ブラジル	24
7	日本	17
7	イギリス	17
9	オーストラリア	14
10	アルゼンチン	13

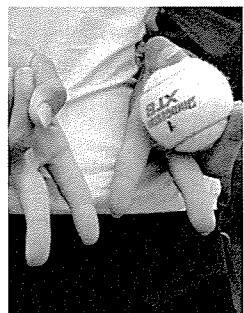


表5  
2013年女子世界ランカー数上位国

順位	国	ランカー数
1	アメリカ	116
2	ロシア	102
3	イタリア	81
4	フランス	70
5	日本	67
6	ドイツ	54
7	中国	49
8	スペイン	43
9	チェコ	40
9	オーストラリア	40

## なぜ大会が増えないのか

この表を見て、お分かりになるように予選出場者、本戦出場者の日本人数が圧倒的に多いです。これは、日本で大会を行われているメリットです。日本人選手のほかに中国、韓国出身の選手も多いです。8つの大会の中で大学が主催しているものが4つを占めています。日本のプロ選手たちが出やすいことはもちろんのこと、ジュニアや大学生といった若者たちに世界を経験する機会とチャンスを与えていることとなり



ます。また、優勝者を見てみても、日本人選手の名前が多く並ぶようになりました。嬉しいことに若い世代の名前が多く、優勝者以外でも大会の中で、若い世代が活躍し大会を盛り上げてくれています。これは国内国際大会があり、選手に挑戦する機会があるためであると考えます。国際大会の数を増やし、誰にでも挑戦できるようにすることが先決であると思います。大学がフューチャーズを開催することはテニス界全体を盛り上げる一つの役割となっておりこれからも継続し、大会数を増やすことが大事となってきます。

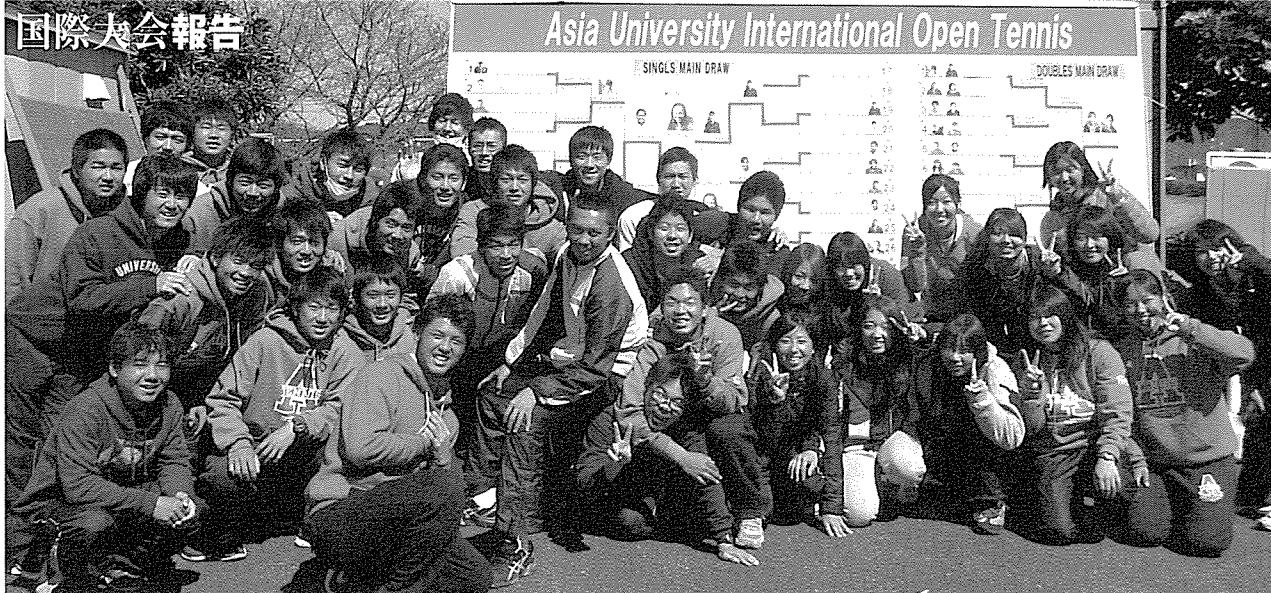
## 大学は少ない資金で大会が開催できる

その中で私たち亞細亞大学が大会を開催できる理由は、いくつかあります。まず、大学で大会を開催すると、テニスコート代がかかりません。それから、部員たちが大会運営を行うので人件費もかかりません。つまり少ない資金で大会が開催できます。大学が主催する国際大会というものは、今後、国内に国際大会を増設する際の大きな鍵になってくると思います。

男子フューチャーズに対して、女子サーキットはどうでしょうか。

前述したように（表4、5参照）、日本は大会数、世界ランカー数ともに世界にひけをとらない数を誇っています。しかし、今度は表6をご覧ください。これは日本で行われた女子サーキットの大会数と世界ランカー数を示したものです。





女子は男子に比べて国内大会数が約2倍あります。その一方で、世界ランカー数の推移を見ていくと、06年には世界ランカーが80人いたのに対して、07年には53人まで減少。その後も、06年の数字には届いていません。これはいったいなぜなのでしょうか。

これは、06年以降、WTA（世界女子テニス連盟）でルール改正があり、賞金総額2.5万ドル大会は、予選に出場しても勝ち上がらなければポイントが得られなくなったことが原因と考えられます。そのため国内では2.5万ドル大会を増設して、継続的にポイントが獲得できるような仕組みをつくっているのですが、その一方で、登竜門である1万ドル大会の増設、あるいはよりグレードの高い大会の増設が後回しになっています。1万ドル大会（女子サーキット）がなければ、その上の2.5万ドル大会に出場することも難しくなってしまいます。だからこそ、私たちが1万ドル大会を開催することには大きな意義があると考えます。

**表6  
国内女子サーキット9年間の推移**

年	国内大会数	10万ドル	7.5万ドル	5万ドル	2.5万ドル	1万ドル	WTAランカー数
2006	18			3	10	5	80
2007	19			3	10	6	53
2008	18		1	4	8	5	54
2009	21		1	1	3	8	54
2010	20	1	1	3	6	9	58
2011	16		1	3	7	5	65
2012	14	—	1	3	4	6	67
2013	14	—	—	2	2	5	68

※注:2013年12月現在。

**表7  
男子フェューチャーズ  
本戦出場選手平均年齢比較**

年度	日本人	外国人
2007	23.9歳	23歳
2008	25.8歳	21.5歳
2009	23.2歳	23.2歳
2010	23.4歳	21.6歳
2011	23.2歳	21.1歳
2012	21.5歳	21.1歳
2013	23.8歳	24.1歳

※注:日本人は  
F1亞細亞大学国際オープンで調査。

## 国内で国際大会を開催する メリットとデメリット

国内で国際大会を開催するという意義はおわかりいただけたと思います。次に解説したいのは、国際大会を開催するにあたって生じる、メリットとデメリットについてです。

まずメリットは、日本人選手にとって普段の慣れた環境の中で試合を行うことにより、最高のコンディションをつくりやすいということです。また、遠征活動において、もっとも大きな問題のひとつとなる資金問題も、国内であればそれほど心配する必要がなくなります。それから、今まで海外に行かないとエントリーできなかった試合が、国内で開催されることにより、たいへん身近に感じることができます。海外の選手が日本にやって来くれます。これは日本人選手のテニスの向上と活躍の可能性を大きくする効果があります。

それから、もうひとつメリットを挙げたいと思います。それは地域の活性化です。国際大会開催とともにさまざまなイベントを開催することにより、地域内外から観客を集め、交流の場をつくるとともに、大会会場の近隣施設へと観客を誘導することもでき、地域活性化へ繋げることができます。

では反対に、国内で国際大会を開催するデメリットは何でしょうか。それは国際大会の「身近化」です。これはメリットでもあり、デメリットでもあります。なぜなら、国際大会が日本で行われると、選手がわざわざ海外に行く必要がないと考え、海外遠征が減ってしまう可能性があるからです。確かに国内であれば費用もそれほどかかりずに試合を行なえます。しかし、新しい環境での刺激や不慣れな場所への適応能力など、海外遠征でしか得られない貴重な経験があることも事実です。

このことから、国内での国際大会を増やすと同時に、国内でポイントを獲得した後は、積極的に海外へ挑戦していくことが大切であると考えます。また、海外へ行くことの重要性を選手だけが理解するのではなく、周囲の方々が理解することも、大切であると考えます。

私たちは若い選手たちに、国内でポイントを獲得した後は、ぜひ海外の大会にチャレンジして、「また一歩、ステップアップして欲しい！」、そう望んでいます。



## 亜細亜大学国際大会——8年目の変化

亜細亜大学国際オープンも2007年の第1回大会を筆頭に、8年目を迎えるました。私たちも回数を重ねるごとに、先輩方から引き継いだ仕事、自分たちで新たに挑戦した企画を取り入れ、「もっと外国人の選手に来てもらおう。そして選手が万全な状態で試合に集中できるように。選手たちがまた来年もこの日の出町から世界を目指したい。」そう思ってもらえるように準備をし、運営に励んで来ました。

そんな中、今大会の選手のデータを調べていて、ある1つのおもしろい発見がありました。それは、昨年の国際大会レポートにも掲載された、選手の「年齢層」に関するデータです。前ページの表7をご覧下さい。これは、今年の亜細亜大学国際オープンの本戦出場選手の年齢を外国人と日本人に分け、平均年齢を比較したもの。ご覧の通り、年々狭まりつつあったそれらの数値に、新たな変化が現れました。そうです——日本人の平均年齢が外国人の平均年齢をついに下回ったのです！2009年に1度、これらの2つの数値が並んだことがありましたが、日本が下回るという結果が出たのは今年が初めてでした。全体的に見ると、例年より年齢層はどちらの数値も少し高くなっているものの、本戦で戦った選手の40%を現役の学生が占めたというデータから考えると、堀内監督が当テニス部に就任した時から掲げている「日の出から世界へ」というフレーズが、グランドスラムを目指す多くのテニスプレーヤーたちに着々と浸透してきているように思われます。また、ATPポイントの獲得に向けて、あるいはこれから世界にトライするための第一歩として必死にコートを駆け回っている選手たちの姿を見ると、大会を運営する側の私たちとしても非常に嬉しく思います。

今大会の上位進出者の中には30歳代の選手が4人出場していました。ダナイ・ウドムチョク選手、鈴木貴男選手、松井俊英選手、そして近藤大生選手。ダブルスでは37歳の鈴木選手と36歳の松井選手が決勝の舞台で顔合わせをする結果となり、またウドムチョク選手のシングルスは惜しくもベスト8に終わってしまったものの、ベスト4という結果を残した近

藤選手らと共に安定したベテランのプレーで他の若手選手を圧倒し、観衆を沸かせてくれました。

女子大会では第2シードの井上雅選手が、第5シードのベテラン、ヌニダ・ルワンナム選手をファイナルセットで下し見事優勝。井上選手は、昨年の亜細亜大学国際女子オープンに第1シードで出場し1回戦敗退しましたが、今年はその雪辱を晴らすことになりました。ルワンナム選手は、フェド杯タイ代表選手で、過去に全仏や全英の予選に出場した経験もある選手です。そのような選手に勝利し掴んだ優勝。亜細亜の学生も数名チャレンジをしましたが、やはりその壁はまだ厚く、課題が多く残りました。

女子がグランドスラムや世界の大舞台で戦うには、様々な点で道のりが長く容易なことではありません。もちろんそれは男子にも同じことが言えます。錦織圭選手やクルム伊達公子選手のような世界のトップと堂々と戦える選手が、そして伊藤竜馬選手・杉田祐一選手のように、この亜細亜大学国際テニス大会から旅立った選手達の活躍が、私たちに大きな力と樂しみを与えてくれます。その選手達の活躍が現実となっている今、届かない目標ではなく当たり前のようにクリアしていく目標として、若い選手や学生達が夢を持つこと。これこそが亜細亜フューチャーズとして存在する大きな意味を果たしていくこととなるでしょう。

### まとめ

日本のジュニアは世界レベルで戦えるだけの実力を持っています。しかし、そこからテニスが伸び悩む原因とて日本の大学テニスのシステムに問題があると考えられます。もっと視野を広く持ち、世界の舞台に挑戦する必要があるのです。私たちはその第一歩になる大会を開催しています。日本テニス界発展のためにも世界を目指している選手のためにも、世界大会の登竜門となるこの大会は継続させる必要があります。海外の選手と日本で試合することで、世界を身近に感じもらいたいです。そして自分の可能性を信じ、さらに外の大会に挑戦してもらえば幸いです。

私たち学生も大会を通じ、人間的にもテニス面でも成長できたと思います。しかし、自分たちが開催している大会で亜細亜の学生が優勝したことはないので、さらに努力をして優勝したときに大会を開催している本当の意味を遂げることができます。だと思います。

大会を支えてくださる、多くのスポンサーの皆様、サポーターの皆様、そして地域の皆様には、温かいご支援、ご声援をいただき本当にありがとうございます。この場を借りて心より御礼申し上げます。今後とも「亜細亜大学国際オープンテニス」ならびに亜細亜大学テニス部をどうぞよろしくお願ひいたします。



2014亞細亞大學國際オープンテニス 男子シングルス本戦 SINGLES

Japan F1 Men's Futures

MAIN DRAW



Week of	City, Country		Prize Money US\$	Tourn. ID	ITF Supervisor/Referee			
2014/3/11	日本 東京-西多摩		10000	M-FU-JPN-01A-2014				
St.	Rank	Seed	Name	Nationality	2nd Round	Quarterfinals	Semifinals	Final
1	215	1	ディ・ウ	中国	ディ・ウ			
2	906		ワン・チーフ	台湾	6-4,6-2	ディ・ウ		
3	680		小ノ澤 新	北日本物産	小ノ澤 新	6-3,6-0		
4	WC		長船 雅喜	亞細亞大学	4-6,6-1,6-3			
5	WC		仲村 元希	亞細亞大学			ディ・ウ	
6	Q	1622	ロンギ 正幸	たちかわジュニアテニスアカデミー	ロンギ 正幸	6-7(5),6-4,6-2	ダナイ・ウドムチョク	
7	660		片山 翔	イカイ	ダナイ・ウドムチョク	6-3,6-4		
8	382	6	ダナイ・ウドムチョク	タイ	7-5,6-4			ディ・ウ
9	290	3	近藤 大生	アイシン精機	近藤 大生	7-5,3-6,6-4		
10	LL	1301	奥 大賢	イカイ	7-5,6-3	近藤 大生		
11	758		吉備 雄也	ノア・インドアステージ	吉備 雄也	2-6,6-0,6-1		
12	Q		喜多 元明	エキスパートパワーシーズオカ	6-2,6-4			近藤 大生
13	440		松井 傑英	ライフ・エヌ・ピー	松井 傑英	6-2,6-4		
14	756		綿貫 裕介	ライフ・エヌ・ピー	7-5,6-3	今井 慎太郎		
15	Q	1405	今井 慎太郎	早稲田大学	今井 慎太郎	6-2,6-4		
16	390	8	ミチエル・シュミッド	チェコ	6-2,1-6,7-5			ディ・ウ
17	389	7	井藤 祐一	ライフ・エヌ・ピー	井藤 祐一			6-2,6-4
18	760		ジュイ・チェン・ファン	台湾	6-4,6-0	菊池 玄吾		
19	Q		大友 優馬	法政大学	菊池 玄吾	6-1,0-6,6-1		
20	Q	913	菊池 玄吾	イカイ	6-4,6-4			竹内 研人
21	Q	1415	竹島 駿朗	デブラック	竹島 駿朗	6-2,7-6()		
22	WC		田中 亮寛	Team YUKA	6-3,6-2	竹内 研人		
23	570		竹内 研人	北日本物産	竹内 研人	6-2,6-2		
24	294	4	関口 周一	三菱電機	6-3,2-1,Ret.			仁木 拓人
25	326	5	ジュリス・マリー	フランス	ジュリス・マリー			6-4,7-6(6)
26	WC		白井 卓也	亞細亞大学	7-5,6-3	仁木 拓人		
27	649		仁木 拓人	柴沼醤油販売	仁木 拓人	6-3,5-7,7-5		
28	691		佐藤 文平	ライフ・エヌ・ピー	6-0,4-6,6-3	仁木 拓人		
29	Q	1163	小野 陽平	明治大学	小野 陽平	6-2,6-1		
30	Q	1917	高田 航輝	慶應義塾大学	6-2,6-4	ハン・リヤン・チ		
31	875		志賀 正人	慶應義塾大学	ハン・リヤン・チ	6-2,4-6,6-0		
32	274	2	ハン・リヤン・チ	台湾	7-5,6-1			

[www.itftennis.com/mens](http://www.itftennis.com/mens)

Acc. ranking	#	Seeded players	#	Lucky Losers	Replacing	Draw date/time:	2014年3月12日14:43
Rkg Date	1	ディ・ウ				Last Direct Acceptance	
Top Acc	2	ハン・リヤン・チ				ワシ・チーフ	
Cut-off	3	近藤大生				Player representatives	
Seed ranking	4	関口周一				長船雅喜	
Rkg Date	5	ジュリス・マリー				関口周一	
Top seed	6	ダナイ・ウドムチョク				Signature	
Last seed	7	井藤祐一				小林あおい	
	8	ミチエル・スキヤミッド					

ご協賛いただきました皆様

以下に掲載いたしました企業、団体、個人の方々からご協賛を頂きました。皆様のご厚意に大変感謝しております。ありがとうございました。※敬称略させていただきました。

ブリヂストンスポーツセールスマジバーン株式会社 港区浜松町2-4-1世界貿易センタービル	株式会社NIPPO 中央区京橋1-19-11	グローブライド株式会社 東久留米市前沢3-14-16	橋本総業株式会社 中央区日本橋小伝馬町9-9	東急グループ 渋谷区南平台町5-6
株式会社大都 大阪市港区海岸通2-1-111	三洋紙業株式会社 足立区西伊興3-15-25	ヨネックス株式会社 文京区湯島3-23-13	株式会社ベースボール・マガジン社 千代田区三崎町3-10-10	エフ・テニスプランニング 上尾市堤崎337-1
株式会社テニスユニバース 府中市押立町2-15-18	東急建設株式会社 渋谷区渋谷1-16-14 渋谷地下鉄ビル	株式会社ロイヤラーゾ 目黒区青葉台2-16-11 3F	オーソ株式会社 磯村 肇 豊島区東池袋2丁目56-7	ダイドードリンコ株式会社 大阪市北区中之島二丁目2番7号
株式会社ゴールドワイン 渋谷区松濤2-20-6	一般財団法人GSチャレンジ財団 世田谷区代沢三丁目6番15号	日本テニス学会 杉並区永福1-9-1	株式会社クリヤマスポーツプロモーションズ 目黒区自由が丘3-17-1	
有限会社藤野企画 立川市泉町935-1	あきる野不動産株式会社 あきる野市秋川3丁目6-1	太公望 あきる野市秋川1丁目2-6	花 輪 西多摩郡日の出町平井1453-5	盛龍飯店 あきる野市秋川4-12-5
ACTAアジアチャリティーテニスアカデミー 日の出町平井1466	ハヤト商事株式会社 武蔵野市境5-24-10 亞細亞大学内	アオヤマスポーツ 浜松市中区肴町316-2	関東テニス協会 渋谷区幡ヶ谷1-1-2朝日生命幡ヶ谷ビル2階	
全日本学生テニス連盟 千代田区岩本町1-4-4	関東大学テニス連盟 千代田区岩本町1-4-4	名古屋高等学校 名古屋市東区砂田橋二丁目1-58	東海大学菅生高等学校 あきる野市菅生1817	

# 2014亞細亞大學國際オープンテニス 男子ダブルス本戦

Japan F1 Men's Futures

Week of

2014/3/11

City, Country

日本、東京・西多摩

## DOUBLES

### MAIN DRAW

Prize Money US\$

10000

Tourn. ID

M-FU-JPN-01A-2014



小林あおい

St.	Rank	Seed	Name	Nationality	2nd Round	Semifinals	Final	Winners
1		557	1 仁木 拓人 ダナイ・ウドムチョク	柴沼醤油販売 タイ		仁木 拓人 ダナイ・ウドムチョク		
2	WC		長船 雅喜 高山 和也	亞細亞大学 亞細亞大学	6-1,6-2		ワン・チー・フ ディ・ウ	
3		1289	ワン・チー・フ ディ・ウ	台灣 中国		ワン・チー・フ ディ・ウ	4-6,6-3,10-4	
4	WC		秋山 和潤 白井 韶也	亞細亞大学 亞細亞大学	6-1,6-3			今井 健太郎 鈴木 貴男
5		878	4 ハン・リヤン・チ 閻口 周一	台灣 三菱電機		片山 翔 佐藤 文平	6-4,6-2	
6			片山 翔 佐藤 文平	イカイ ライフ・エヌ・ビー	7-6(1),7-6(5)			今井 健太郎 鈴木 貴男
7		1395	ジュリス・マリー ミシェル・スキヤミッド	フランス チェコ		今井 健太郎 鈴木 貴男	7-6(2),5-7,10-8	
8			今井 健太郎 鈴木 貴男	早稻田大学 イカイ	6-3,3-6,10-6			松井 俊英 小ノ澤 新
9		2012	吉備 雄也 竹内 研人	ノア・インドアステージ 北日本物産		竹島 駿朗 錦貴 裕介	6-4,7-5	
10		2087	竹島 駿朗 錦貴 裕介	デブラック ライフ・エヌ・ビー	6-4,6-4			
11			近藤 大基 高田 航輝	慶應義塾大学 慶應義塾大学		井藤 祐一 近藤 大生	6-4,7-5	
12		614	3 井藤 祐一 近藤 大生	ライフ・エヌ・ビー アイシン精機	6-4,7-6(2)			松井 俊英 小ノ澤 新
13		1688	長尾 克己 奥 大賢	エキスパートパワーシズオカ イカイ		菊池 玄吾 ロンギ 正幸	6-2,6-4	
14			菊池 玄吾 ロンギ 正幸	イカイ たちかわジュニアテニスアカデミー	6-1,6-4			松井 俊英 小ノ澤 新
15	WC		橋本 大貴 仲村 元希	亞細亞大学 亞細亞大学		松井 俊英 小ノ澤 新	7-5,4-6,10-8	
16		601	2 松井 俊英 小ノ澤 新	ライフ・エヌ・ビー 北日本物産	6-2,6-3			

[www.itftennis.com/mens](http://www.itftennis.com/mens)

Acc. ranking	#	Seeded teams	#	Lucky/Losers	Replacing	Draw date/time:	2014年 3月10日 12:33
Rkg Date	1	仁木 拓人 ダナイ・ウドムチョク	1			Last Accepted team	
Top DA	2	松井 俊英 小ノ澤 新	2			近藤大基、高田航輝	
Last DA	3	井藤 祐一	3			Player representatives	
Seed ranking	4	近藤 大生 ハン・リヤン・チ 閻口 周一		# Protected Ranking: Name (Line)	橋本大貴 仲村元希	橋本大貴 仲村元希	
Rkg Date			1	2		Signature	
Top seed						小林あおい	
Last seed							

今津敏晃	小島宜明	酒巻昭浩	栃木県宇都宮Jr.	香川喜八朗	見方	井上	竹脇 茂	三浦 誠	毛塙欣治	塙野谷明	沖縄県テニス協会
日の出町長 橋本聖二	内海二郎	磐城高校テニス部	亞細亞学園学友会	亞細亞学園体育会							

亞細亞大学硬式庭球部/アジア女子ローンテニス部OB・OG会 緑衛会テニス俱楽部

林 健作	小西正美・恵子	一牛陽一	渡辺誠治	豊田昭彦	柴 廣一	宇田川裕	鈴木元彦	金子国彦	鵜沢彰仁	兼田正道	岡田真美
北野由美	山本幸治	三上英知	前田友子	中村光英	鈴木宏幸	白子嘉威	柳沢孝洋	斎藤正洋	村居誠悟	北崎悦子	太田祐也
谷出杏介	太田梨紗	緑衛会テニス俱楽部									

# PART 4 國際大会報告

## 2014亞細亞大學國際女子オープンテニス

### 女子シングルス本戦

ITF women's Circuit

### SINGLES

### MAIN DRAW



ITF Supervisor/Referee

小林 あおい

Week of		City, Country	Prize Money US\$	Tourn. ID	ITF Supervisor/Referee			
2014/3/24		日本、東京-西多摩	10000	W-C10-JPN-02A-2014	小林 あおい			
St.	Rank	Seed Family Name	First name	Nationality	2nd Round	Quarterfinals	Semifinals	Final
1	258	1 波形 純理	北日本物産	波形 純理				
2	997	森 友香	島津製作所	6-0-6-1	二宮真琴			
3	560	牟田口 恵美	橋本総業	二宮真琴	1-6,6-4,6-4			
4	571	二宮 真琴	橋本総業	6-7(1),7-5,6-3				
5	732	ホン・スンヨン	韓国	井上 明里	スニダ・ルアンサム	6-2,6-2		
6	635	井上 明里	イラコテニスカレッジ	6-1,6-3	スニダ・ルアンサム			
7	592	米村 明子	島津製作所	スニダ・ルアンサム	6-1,6-2			
8	454	5 ヌニダ・ルアンサム	タイ	6-3,6-1	スニダ・ルアンサム			
9	446	4 田中 優季	メディカルラボ	田中 優季	スニダ・ルアンサム	5-7,7-6(1),6-3		
10	Q	長谷川 茉美	早稲田大学	田中 優季	田中 優季	6-2,6-1		
11	618	美濃越 舞	YCA	美濃越 舞	田中 優季	6-0,6-2		
12	599	鮎川 真奈	橋本総業	7-5,6-3	田中 優季			
13	WC	下口 あみる	登戸サンライズTC	小関 みちか	田中 優季	6-0,6-3		
14	619	小関 みちか	VIP.TOPグループ	6-1,6-2	スニダ・ルアンサム			
15	Q	613 カン・ソギョン	韓国	スニダ・ルアンサム	スニダ・ルアンサム	7-5,6-3		
16	468	6 ヌニダ・ルアンサム	タイ	6-4,7-6(5)	スニダ・ルアンサム			
17	486	7 横口 由佳	日本体育施設	横口 由佳	井上 雅	1-6,7-5,6-1		
18	Q	1219 イ・セジン	韓国	横口 由佳	井上 雅	6-3,6-3		
19	533	澤柳 瑛子	ミキハウス	澤柳 瑛子	井上 雅	7-6(3),6-1		
20	Q	1013 牛島 里咲	高崎テニスクラブ	澤柳 �瑛子	井上 雅	6-2,6-0		
21		寺見 かりん	山梨学院大学	寺見 かりん	井上 雅	6-2,6-2		
22	WC	安野 聰美	亞細亞大学	寺見 かりん	井上 雅	6-1,6-1		
23	WC	松本 千広	亞細亞大学	寺見 かりん	井上 雅	6-1,6-1		
24	418	3 岡田上 千晶	エームサービス	寺見 かりん	井上 雅	7-5,7-5		
25	500	8 秋田 史帆	フリー	寺見 かりん	井上 雅	6-4,6-2		
26	667	越野 由梨奈	北日本物産	寺見 かりん	井上 雅	6-3,6-2		
27	Q	911 千村 夏実	吉田記念テニスセンター	寺見 かりん	井上 雅	6-1,6-4		
28	WC	山藤 彩香	亞細亞大学	寺見 かりん	井上 雅	6-0,6-4		
29	Q	吉富 愛子	早稲田大学	寺見 かりん	井上 雅	6-0,6-4		
30	617	チエ・ジヒ	韓国	寺見 かりん	井上 雅	6-3,6-4		
31	Q	816 布目 千尋	北日本物産	寺見 かりん	井上 雅	6-3,6-3		
32	360	2 井上 雅	テニスラウンジ	寺見 かりん	井上 雅	7-5,7-6(3)		

[www.itftennis.com](http://www.itftennis.com)

Acc. ranking	#	Seeded players	#	Lucky Losers	Replacing	Draw date/time:	2014/3/24 11:27
Rkg Date	1	波形 純理	1			Last Direct Acceptance	
Top Acc	2	井上 雅	2			ホン・スンヨン	
Cut-off	3	岡田上 千晶	3			Player representatives	
Seed ranking	4	田中優季	4			松本 千広	
Rkg Date	5	ヌニダ・ルアンサム	5			安野 聰美	
Top seed	6	ヌニダ・ルアンサム	6			Signature	
Last seed	7	横口 由佳	6	# Protected Ranking: Name (Line)	1	小林 あおい	
	8	秋田 史帆	7		2		

2014亞細亞大學國際女子オープンテニス  
女子ダブルス本戦

ITF Women's Circuit

Week of	City, Country			Prize Money US\$	Tourn. ID	ITF Supervisor/Referee		
2014/3/25	日本、東京-西多摩			10000	M-FU-JPN-02A-2014	小林あおい		
St.	Rank	Seed	Name	Nationality	2nd Round	Semifinals	Final	Winners
1	481	1	二宮真琴 澤柳瑞子	橋本総業 ミキハウス	二宮真琴 澤柳瑞子	6-3,6-2		
2	1050		秋田志帆 田中優季	フリー メディカルラボ				
3			華谷和生 酒井優理子	神戸学院大学TC 長崎県スポーツ専門員九州文化学園高校	華谷和生 酒井優理子	6-3,6-3		
4			川崎光美 小関みちか	テニスユニバース VIP・TOPグループ	川崎光美 小関みちか	6-2,6-1		
5	830	3	牟田口恵美 大前綾希子	橋本総業 島津製作所	牟田口恵美 大前綾希子	6-1,6-2		
6	WC		山藤彩香 辻本有佳里	亞細亞大学 亞細亞大学	山藤彩香 辻本有佳里	6-0,6-4		
7	1733		越野由梨奈 布目千尋	北日本物産 北日本物産	越野由梨奈 布目千尋	6-3,6-3		
8	1095		チエ・ジヒ 井上明里	韓国 イラコテニスカレッジ	チエ・ジヒ 井上明里	6-3,7-6(3)		
9	WC		下口あみる 田中文彩	登戸サンライズテニスTC 津島東高校	下口あみる 田中文彩	6-2,6-4		波形純理 米村明子
10	1251		ホン・ソンヨン カン・ソウギュン	韓国 韓国	ホン・ソンヨン カン・ソウギュン	6-2,6-2		
11	1122		井上雅 美濃越舞	テニスラウンジ YCA	井上雅 美濃越舞	6-2,7-6(4)		
12	902	4	森友香 ヌンナッチャ・ワナスック	島津製作所 タイ	森友香 ヌンナッチャ・ワナスック	6-4,6-1		
13	995		鈴川真奈 岡田上干晶	橋本総業 エムサービス	鈴川真奈 岡田上干晶	6-4,6-3		
14	1518		岡村恭香 渡辺廣乃	むさしの村ローランテニスクラブ サントピアテニスクラブ	岡村恭香 渡辺廣乃	6-4,6-3		
15	WC		足立菊華 松本千広	亞細亞大学 亞細亞大学	足立菊華 松本千広	6-1,6-3		
16	789	2	波形純理 米村明子	北日本物産 島津製作所	波形純理 米村明子	7-5,6-4		

[www.itftennis.com/mens](http://www.itftennis.com/mens)

Acc. ranking	#	Seeded teams	#	Lucky Losers	Replacing	Draw date/time:	2014年3月24日12:53
Rkg Date	1	二宮真琴	1			Last Accepted team	
Top DA		澤柳瑞子	2			Player representatives	
Last DA	2	波形純理				辻本有佳里	
Seed ranking	3	米村明子	3			山藤絢香	
Rkg Date	3	牟田口恵美				Signature	
Top seed		大前綾希子				小林あおい	
Last seed	4	森友香					
		ヌンナッチャ・ワナスック					
				# Protected Ranking: Name (Line)			
			1	2			

# Asia Univ.Int'l Tennis

Japan F1 Men's Futures

Week of

City, Country

## SINGLES QUALIFYING DRAW

Prize Money US\$ M-FU-JPN-01A-2014

\$10000



Nishi-Tama Tokyo, Japan

St.	Rank	Seed	Family Name	First name	Nationality	2nd Round	Finals	Qualifiers
1	913	1	菊池玄吾	イカイ	菊池玄吾			
2			村田道隆		亜細亜大学	6-2-6-0	菊池玄吾	
3			吉田元樹		専修大学	渡邊将司	6-1,6-3	
4			渡邊将司		慶應義塾大学	6-0-6-3		菊池玄吾
5			小野誠佳		TTC	小野誠佳		6-3,6-3
6			宮脇駿		亜細亜大学	6-3,7-5	小野誠佳	
7			小林浩貴		亜細亜大学	小林浩貴		6-0,6-0
8			佐々政洋		JITC	6-0,6-2		
9	958	2	長尾克己	エキスパートパワーシズオカ	長尾克己			
10			上原伊織		甲南大学	7-6(5),6-4	大和田秀俊	
11	wc		中村祐樹		上武大学	大和田秀俊		6-2,4-6,6-4
12			大和田秀俊		フミヤエース市川ITA	6-2,6-4		大友優馬
13			大塚陽平		亜細亜大学	大友優馬		6-1,6-2
14			大友優馬		法政大学	7-5,4-6,6-3	大友優馬	
15			小堺遠馬		亜細亜大学	小堺遠馬		6-0,6-1
16			鍛代悟		亜細亜大学	3-6,6-1,6-2		
17	960	3	岡村一成		早稲田大学	岡村一成		
18			松本亘		亜細亜大学	6-1,6-0	佐野紘一	
19			西岡靖雄		亜細亜大学	佐野紘一		4-6,7-5,6-3
20			佐野紘一		伊予銀行	6-2,6-1		高田航輝
21			綿貫敬介	ライフ・エヌ・ピー	綿貫敬介			6-4,4-6,6-0
22			諱五貴		明治大学	6-4,6-4	高田航輝	
23			細谷元基		荏原SSC	高田航輝		5-7,6-2,6-4
24	wc	1917	13	高田航輝	慶應義塾大学	6-3,6-4		
25		1163	4	小野陽平	明治大学	小野陽平		
26			太田悠介		浜松市立高校	6-2,7-5	小野陽平	
27			坂本龍也		亜細亜大学	笠原由真	w.o.	
28			笠原由麻		大磯テニスアカデミー	6-1,6-4		小野陽平
29	wc		栗林聰真		早稲田大学	栗林聰真		6-3,6-1
30			久松亮太		マサスポーツシステム	6-3,6-2	栗林聰真	
31			鶴飼元一		フリー	近藤大基		6-2,6-0
32	2000	14	近藤大基		慶應義塾大学	6-3,6-2		
33	1232	5	守谷総一郎		MTSテニスアリーナ三鷹	守谷総一郎		
34			井上裕貴		亜細亜大学	6-2,6-1	喜多元明	
35			喜多元明	エキスパートパワーシズオカ		喜多元明	w.o.	
36			掛川昂	シンズあざみ野テニスチーム		6-1,6-2		喜多元明
37			齊藤秀		荏原SSC	齊藤秀		6-2,6-0
38			恒松拓未		大成高校	6-2,6-3	齊藤秀	
39			古田剛司	ミヤムラテニスセンター		榎原健一		6-3,6-2
40	1809	12	榎原健一		M-style Tennis TrainingCenter	6-0,6-4		
41	1290	6	小山慶太		中央教育研究所	高山和也		
42			高山和也		亜細亜大学	6-7(2),7-6(5),7-5	橋本大貴	
43			橋本大貴		ウイング	橋本大貴		6-3,4-6,6-4
44			伊藤誠治		ルネサンス熊本	6-0,6-0		今井慎太郎
45	wc		伊藤陸		京王赤城テニスアカデミー	伊藤陸		6-2,6-1
46	wc		土居祐太		亜細亜大学	6-4,6-2	今井慎太郎	
47	wc		豊田魁		亜細亜大学	今井慎太郎		6-1,6-0
48	1405	9	今井慎太郎		早稲田大学	6-0,6-0		
49	1303	7	奥大賢	イカイ	奥大賢			
50			福岡勇成		荏原SSC	6-2,6-0	奥大賢	
51			谷口侑司	緑ヶ丘テニスガーデン		秋山和潤		6-0,6-0
52			秋山和潤		亜細亜大学	6-3,6-1		ロンギ正幸
53			湯原雅人	アルドールテニスステージ		湯原雅人		6-4,6-1
54	wc		李国淵		亜細亜大学	6-3,6-1	ロンギ正幸	
55			福垣剛ジームズ	石井真テニスアカデミー		ロンギ正幸		6-4,6-2
56	1622	11	ロンギ正幸	たちかわジュニアテニスアカデミー		6-1,6-0		
57	1316	8	笹井正樹		法政大学	笹井正樹		
58			田村和也	テニスユニバース		6-2,6-1	蜂谷翔希	
59			内海章紀	インシーテニスクラブ		蜂谷翔希		6-3,5-7,7-5
60			蜂谷翔希	フリー		6-4,7-6(5)		竹島駿朗
61			越田晃司		亜細亜大学	矢野洋		6-1,6-1
62			矢野洋	たちかわジュニアテニスアカデミー		6-2,6-1	竹島駿朗	
63	wc		梅岡優大		大阪産業大学付属高校	竹島駿朗		6-4,6-2
64	1415	10	竹島駿朗	デブラック		6-0,6-2		

[www.itftennis.com/mens](http://www.itftennis.com/mens)

Acc. ranking	#	Seeded players	#	Seeded players	#	Alternates	Replacing	Draw date/time:	2014年 3月10日 13:20
Rkg Date	1	菊池玄吾	9	今井慎太郎	1			Last Accepted player	
Top DA	2	長尾克己	10	竹島駿朗	2			橋本大貴	
Last DA	3	岡村一成	11	ロンギ正幸	3			Player representatives	
Seed ranking	4	小野陽平	12	榎原健一	4			高山和也	
Rkg Date	5	守谷総一郎	13	高田航輝	5			鍛代悟	
Top seed	6	小山慶太	14	近藤大基	6			Signature	
Last seed	7	奥大賢				# Protected Ranking: Name (Line)			
	8	笹井正樹				1	2		小林あおい

# Asia Univ.Int'l Women's Open Tenn SINGLES

ITF Women's Circuit



## QUALIFYING DRAW

Week of	City, Country			Prize Money US\$	Tourn. ID	ITF Supervisor/Referee		
2014/3/24	Nishi-Tama Tokyo, Japan			\$10000	W-C10-JPN-02A-2014	小林あおい		
St.	Rank	Seed	Family Name	First name	Nationality	2nd Round	Finals	Qualifiers
1	816	1	布目千尋	北日本物産	布目千尋			
2			Bye				布目千尋	
3			江代純菜	慶應義塾大学	小林夏実	1-6,6-3,6-0		
4	wc		小林夏実	慶應義塾大学	6-1,6-3			布目千尋
5			加藤茉弥	マサスポーツシステム	加藤茉弥			6-4,6-3
6			山浦はる香	亜細亜大学	6-0,6-2		久次米夏海	
7			橋梨子	橋ジュニアテニスアカデミー	久次米夏海	6-2,6-3		
8			久次米夏海	山梨学院大学	6-0,7-5			
9	880	2	渡邊廣乃	サントピアテニスクラブ	吉富愛子			
10			吉富愛子	早稲田大学	6-4,6-1		吉富愛子	
11			横田那津美	TeamYUKA	田中文彩	6-3,7-5		
12			田中文彩	津島東高校	6-4,6-2			吉富愛子
13			秋山みなみ	Fテニス	秋山みなみ			6-3,6-2
14			佐野春佳	ISHIITENNISACADEMY	日比沙織	6-2,6-4	日比沙織	
15			西本恵	慶應義塾大学	日比沙織	6-1,6-0		
16			日比沙織	早稲田大学	6-3,6-4			
17	886	3	細沼千紗	ビックK	寺見かりん			
18			寺見かりん	山梨学院大学	6-3,3-6,6-3		寺見かりん	
19			古川鈴夏	筑波大学	藤岡莉子	6-3,2-6,6-2		
20			藤岡莉子	慶應義塾大学	6-2,6-4			寺見かりん
21	wc		石井小夏	富士大学	石井小夏			6-2,6-2
22			園田彩乃	日本大学	6-1,6-1		西改由衣	
23			西改由衣	マサスポーツシステム	西改由衣	6-3,6-2		
24			菅梨花子	海の中道M&T	3-6,6-2,6-3			
25	892	4	辻佳奈美	日清紡ホールディングス	喜島瑞乃			
26			喜島瑞乃	AthleteGym	6-2,6-2		喜島瑞乃	
27			藤谷里美	K-TENNISTRAINNING	村瀬早香	6-7(3),6-3,6-3		イ・セジン
28			村瀬早香	パブリックテニス洛西	6-3,6-2			3-6,7-5,7-6(2)
29			足立菊華	柳川高校	足立菊華			
30			宇佐川沙耶	亜細亜大学	6-1,6-0		イ・セジン	
31			川崎光美	テニスユニバース	イ・セジン	6-1,6-1		
32	1219	13	イ・セジン	韓国	6-3,6-3			
33	911	5	千村夏実	吉田記念テニスセンター	千村夏実			
34			平田智子	亜細亜大学	6-1,6-0		千村夏実	
35	wc		藤原悠里	関西大学	藤原悠里	6-7(7),6-4,6-3		
36			佐々木遙	アウリンTC	6-2,6-2		千村夏実	
37			水沼茉子	法政大学	宮地真知香			6-4,6-3
38			宮地真知香	早稲田大学	6-1,7-5		久松志保	
39			宮原未穂希	自由が丘インターナショナルテニスカレッジ	久松志保	7-5,6-3		
40	1148	9	久松志保	鹿児島銀行	6-2,6-1			
41	992	6	山本ひかり	フリー	長谷川茉美			
42			長谷川茉美	早稲田大学	6-1,7-6(4)		長谷川茉美	
43			八島ちひろ	亜細亜大学	首藤みさき	6-0,6-7(3),6-3		
44			首藤みさき	城南学園	6-1,6-0		長谷川茉美	
45			岡村恭香	むさしの村ローンテニスクラブ	岡村恭香			6-3,6-2
46			富田悠衣	Fテニス	6-1,6-0		岡村恭香	
47			辻本有佳里	亜細亜大学	辻本有佳里	6-1,6-1		
48	1148	10	飯島久美子	北日本物産	6-7(4),6-1,6-2			
49	997	7	森友香	島津製作所	森友香			
50			馬場早莉	早稲田大学	6-2,6-0		森友香	
51			鈴木玲子	湘南平テニスクラブ	山本みどり	6-7(5),6-3,7-5		
52			山本みどり	関西学院大学	6-0,6-0		森友香	
53			安形玲耶	慶應義塾大学	安形玲耶			4-6,6-3,6-0
54			伊藤絵美子	テニスユニバース	安形玲耶			
55			守屋友里加	テニスユニバース	守屋友里加	6-4,6-3		
56	1178	11	酒井優理子	長崎県スポーツ専門員九州文化学園高	6-1,6-1			
57	1013	8	牛島里咲	高崎テニスクラブ	牛島里咲			
58			涌井真耶	フリー	6-2,0-6,6-1		牛島里咲	
59			山崎千鶴	テニスプロジェクト	山崎千鶴	3-6,6-2,6-4		
60	wc		林恵里奈	早稲田大学	6-3,4-6,7-6(7)		牛島里咲	
61			本郷未生	山梨学院大学	本郷美生			7-5,7-5
62			緒方葉台子	グラスコート佐賀テニスクラブ	華谷和生	6-4,6-7(3),6-3		
63			上吉原あい	アウリンTC	華谷和生	6-4,4-6,6-1		
64	1216	12	華谷和生	神戸学院大学TC	3-6,6-3,6-3			

[www.itftennis.com/mens](http://www.itftennis.com/mens)

Acc. ranking	#	Seeded players	# seeded players	# Alternates	Replacing	Draw date/time:	21MAR2014 18:29
Rkg Date	1	布目千尋	9 飯島久美子	1		Last Accepted player	
Top DA	2	渡邊廣乃	10 久松志保	2		Bye	
Last DA	3	細沼千紗	11 酒井優理子	3		Player representatives	
Seed ranking	4	辻佳奈美	12 華谷和生	4		山藤彩香	
Rkg Date	5	千村夏実	13 イ・セジン	5		足立菊華	
Top seed	6	山本ひかり	14	6		Signature	
Last seed	7	森友香	15			小林あおい	
	8	牛島里咲	16				
					# Protected Ranking: Name (Line)		
					1	2	



## 第1回『亞細亞大学国際オープンテニス2007』

## 国際大会開催までの全記録

2007年3月19-25日、私たち亞細亞大学テニス部は、日本初となる大学主催の男子フューチャーズ1万ドル大会

『F1亞細亞大学国際オープンテニストーナメント』を開催しました。

準備から運営にいたるまで、すべて学生が行なった手づくりの大会の全記録がここにあります。

記事協力◎テニスマガジン(2007年6月号掲載)

2006年9月  
大会まであと6ヶ月

### フューチャーズを開きたい!

堀内昌一監督が学生たちに「フューチャーズを開きたい」と言い始める。学生たちはまだ半信半疑で「無理ですよ」という雰囲気だった。

2006年10月  
大会まであと5ヶ月

### 開催決定

堀内監督が学生に「フューチャーズを開催する」と正式に伝える。さらに「すべて学生でやってもらいたい。お金の集め方から運営の仕方まで、お前たちが全部考えてイチからやってみろ」との指示が。学生たちは「え? 本当に?」という感じだったが、同時にこれはもう引き下がれないという状況になる。

### 川廷さんの視察

10月24日、ITF(国際テニス連盟)で世界的に活躍している川廷尚弘さんが視察に訪れる。亞細亞大的施設がフューチャーズに使用できるか、コートの幅、審判台の高さなど細かいところまでチェック。

準備や運営についての講義も受けた。徐々に大会のイメージが膨らんできて、「やるならちゃんとやろう」という空気が全体にできる。

後日、川廷さんが視察レポートを学生全員に配ってくれた

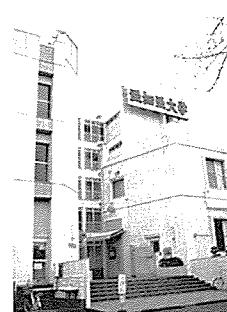
2007年1月  
大会まであと2ヶ月

### 強化期間開始

年が明け、東レPPOテニスのボーラーなどで忙しく、あまり準備が進まず。30日から、フューチャーズを最終目標とするテニス強化期間に入る。

2006年12月  
大会まであと3ヶ月

### 幹部ミーティングがさかんに

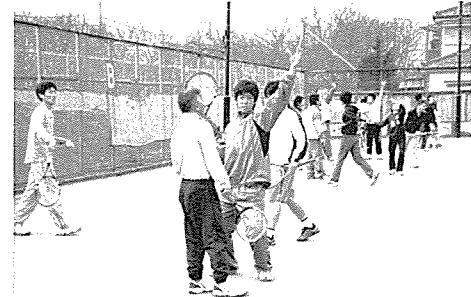
4年生の幹部が監督、コーチらとセミナーハウスに泊まり込んでミーティング。役割分担の項目を決めたり、協賛していた大企業や企業を探したり、何度も打ち合わせを行なう。

亞細亞大的セミナーハウス。フューチャーズの話し合いや準備で使用したほか、大会中は大会関係者の宿舎としても1泊3000円で貸し出した

2007年2月  
大会まであと1ヶ月

### 本格始動

フューチャーズ開催に向けて本格的に動き始めます。まずは、資金集めとフューチャーズの宣伝のため、一般の方やジュニアを対象としたクリニックを開催。1日クリニックは10~12時、13~16時でひとり5000円。1日30~40人、多いときで50人くらい集まる。このクリニックを計10回ほど開催したことでの、かなり資金が集まつた。



2006年11月  
大会まであと4ヶ月

### 第1回学生ミーティング

1回目のフューチャーズ・ミーティング。議題となったのは「資金集め」。最初の構想としては、毎年つくっている庭球部パンフレットで協賛してもらっている方、日の出町(コート所在地)、地元住民のみなさんや一般企業などに、フューチャーズの主旨を理解してもらおう、協力を仰ごうというもの。しかし、実際には厳しさを知り、資金集めは堀内監督、森コーチ、OB・OGが行なうことになった。学生はクリニックのスタッフとして携わることとなつた。

### 資金集めの主な方法

- ・日頃お世話になっているテニスメーカー、一般企業、団体からの協賛金
- ・学校からの補助金
- ・OB・OG会からの寄付金
- ・父兄、テニス関係者など個人からの協賛金
- ・日の出町からの協賛金
- ・サポートーズクラブの発足(応援してくれる一般の方を募集。クリニック受講、記念Tシャツ、「つるつる温泉」入浴券、ドリンクサービスなどを付けて3000円で販売)
- ・チャリティークリニックの開催(一般クリニックは5000円、ジュニアクリニックは500円で開催。大会前、大会中合わせて10回ほど行なう)

※資金面だけでなく、地元商工会やたくさんのボランティアに支えられた

### 部内WC選手権が突然の中止

2月9日からセミナーハウス(寮)にて合宿開始。ここで部内のワイルドカード(WC)／主催者推薦枠選手権を行なうはずが……「何も準備ができていないのに、予選会をやるなんてダメだ。そういうものは、全部決まってからやるべきだ」と堀内監督に言われ中止に。

### 国際大会について調査

森コーチと世界で行なわれている大会について話をしたとき、学生は何も答えられず、これでは国際大会の運営者として失格だと痛感。デ杯やグランドスラムなど国際大会をはじめ、選手、テニスの歴史について勉強する。



2007年3月1日

大会まであと16日

## 「簡単に大会に出るな。 大会をつくる苦労を知った上で、 大会に出ろ!」(堀内監督)

### フューチャーズ開催の意義

部員全員で「フューチャーズの意義」について意見交換。運営するにも、選手として出場するにも、意義を知った上で臨んだほうが頑張れる、と思ったため。「学生はフューチャーズに出てもすぐに負けてしまう。大会を開くことの苦労を知れば、試合にもっと執着心をもって臨めるんじゃないかな」と堀内監督。なぜ監督が学生に運営をさせるのか、その理由を皆が理解した。

### 私たちが考える “フューチャーズの意義”

#### ◎1年生の意見

- ・外国選手との交流
  - ・ATPポイントの獲得
  - ・プロ選手を見て勉強する
  - ・多文化の理解と受け入れ
  - ・選手のルーティンを学ぶ
  - ・運営することでマネジメントを学ぶ
- #### ◎2年生の意見
- ・社会勉強(運営、資金集め、マネジメント)
  - ・国際交流(コミュニケーション)
  - ・教養を身につける
  - ・国際大会を主観的に見られる
  - ・地域振興
  - ・大学での国際交流やスポーツ、地域振興への意欲の高さを示す
  - ・国内の他のスポーツに良い影響を与える
- #### ◎3年生の意見
- ・大会ができるまでの過程を知る
  - ・大会に対する思いを知る
  - ・日本選手の強化
  - ・運営に携わることで自分自身とテニスの関わりを見出すことができる
  - ・亞細亞大学の活性化
- #### ◎4年生の意見
- ・日本選手の強化
  - ・学生テニスのレベルアップ
  - ・学生の学習の場の提供
  - ・国際大会数が世界ランカー数と相関関係にあるため、日本の国際大会数を増やすなければならない
  - ・企業、団体、地域、マスコミなどのあらたな関わり
  - ・各企業、メーカーの宣伝
  - ・亞細亞大学テニス部と世界のつながりをつくる
  - ・大会運営の過程を学ぶ

3月2日

大会まであと15日

### 役割分担

誰がどんな仕事に就くのか、係を決定(項目は下記)。それぞれが部の役職や得意分野が生かせる係に就けるように話し合う。部のブログ担当はメディア係に、財務担当は賞金係に、機械関係に強い人はビデオ係に、英語が話せる人は通訳係に、など全員が能力を発揮できるように振り分け、各係でチーフを決めた。細かいところまで、考えられるすべて、全力でやろうということで意見が一致。この役割分担が、大会成功のカギだった。

係と主な仕事内容～運営の軸となる大会進行係

#### ◎幹部

ディレクター○堀内昌一監督

アシスタントディレクター○

森稔詞コーチ、小野塙弓乃

スーパーバイザー○川廷尚弘(国際テニス連盟)

事務局○宇田川裕(テニス部副部長)、

金子国彦(亞細亞大職員)

3月4日

大会まであと13日

### パンフレット作成開始

もともとつくる予定はなかったが、協賛してくれた方々へのお礼、記者発表への対応を考え、急遽作成することに。「パンフレットって何だ?」というところから始まつたので、マスコミ関係者につくり方を聞きにいったり、これまでの大会パンフレットを集めたり、一気に慌ただしくなる。監督、コーチ、大学事務局と話し合いながら、掲載内容やレイアウトを決定。同時にプレスリリースやボスターもつくり始める。



#### ◎運営係

全体への指示

#### ◎賞金係

選手、スタッフへのギャラントリーの計算と管理。大会サポーターからの寄付金受け取り

#### ◎会場・施設係

プレーヤーズルーム、コンピュータールーム、メディアルームの設営、学校の備品の持ち出し、管理、ドローボードの作成



3月7日

大会まであと10日

### 部内WC選手権開催

2月上旬に行なうはずだった部内ワイルドカード選手権をようやく開催する。「皆に機会を与える」というのが目的だったので、学生全員が参加。実力によって、上からABCDブロックに分け、8ゲームマッチの総当たり戦を行なう。下部で勝ち上がった2名が上のブロックへ移動、というのを繰り返し、最終的に本戦ワイルドカード4名(大塚、富田、篠川、井上)、予選ワイルドカード3名(古城、牛田、風早)を決定。また、この頃からストーブ、テント、パイプ椅子など学校から備品を運び出し、施設の設営準備が進む。



選手に戦いやすい環境を提供する係

#### ◎洗濯係

ランドリーサービス(セミナーハウスの洗濯機を使用、乾燥室用の部屋を借りて乾かす)



#### ◎インフォメーション係

会場の地図や案内板の作成と設置、自転車の貸し出し

今後の検証材料として、選手のデータを集める係

#### ◎アンケート係

選手へのアンケート調査(アンケート用紙を作製し、選手の実態を調査)

#### ◎ビデオ係

本戦の全試合をビデオ撮影(販売も行なう)



#### ◎スコアシート係

全試合のスコア記入(ワインブルドンの集計用紙と同じものを使用。確率やミスの種類まで細かくチェックし、試合後に渡す)

#### ◎体力測定係

プロの体力測定(握力、垂直跳びなど、プロの体力や筋力を測定)



#### ◎マニュアルづくり係

来年以降の資料として役立てるため、各役職の仕事内容などを記録

#### ◎Tシャツ係～記念Tシャツの作成、販売

「亞細亞大学硬式庭球部」「日の出」「未来」「一球入魂」「一期一会」と描かれた5種類の大会記念Tシャツを販売。文字は監督のお母さん(習字の先生)に描いてもらい、テニスショップ「テニスファクトリー」の八田修孝さんに協力してもらって作成。一般の方たちが着ることも考えて、落ち着いたカラーにした。



#### ◎レフェリー係

ワイルドカード選手権の運営

#### ◎チーフアンパイア係

ボーラー、ラインズマンの配置、チェック、指導

#### ◎物品係

マイク、パイプ椅子、メーカーのバナー、紙コップなど備品の小さい管理、ネームボードの作成



#### ◎通訳係

外国人選手の対応、表彰式でのスピーチ通訳

#### ◎写真係

ブログ用、記録用写真の撮影

#### ◎電話番係

選手、関係者からの電話対応



3月12日 |

大会まであと5日

## 泊まり込みのホチキス止め

パンフレットの中身がやっと完成。しかし、装丁に想以上時間かかる。コピー、ホチキス止めを泊まり込みで行ない、200部を作製(パンフは大会期間中に何度も足りなくなつて、そのたび追加し、結局300部くらいつくった)。このあたりが焦りのピークだった。



3月13日 |

大会まであと4日

## 学生ワイルドカード選手権

関東リーグ1部校からの各4名と学生連盟からの推薦8名で、大学生だけのワイルドカード選手権が始まる。ワイルドカード予選3大会は川廷さんが不在なので、レフェリー係を中心に大会を運営する。



3月14日 |

大会まであと3日

## 記者発表資料が完成

できあがった大会パンフレットとプレスリリースを、庭球部パンフレットと大学パンフレットといっしょにファイルにセットし。記者発表用の資料が完成。また、学生ワイルドカードが早稲田大学の佐藤文平、吉備雄也に決定。



3月15日 |

大会まであと2日

## 初めての記者発表

堀内監督、小野塚AD、メディア担当・蒲谷の3名で岸記念体育館へ。集まつた新聞記者、雑誌記者、スポーツライターなどにパンフレットの入ったファイルを手渡す。堀内監督が大会開催の主旨について発表する。



初めての記者発表に緊張気味の監督



## 一般WC予選サインアップ

一般ワイルドカード予選のラインアップが開始。海外選手も含め、107名がサインをしにきてくれた。部員も全員がサイン。そのうち出場できるのは64名。

3月18日 |

予選2日目

## ドローボード準備!

本戦ドロー抽選会の結果を受けて、ドローボードを作成。本戦1日目用のデイリーパンフレットもできあがる。



3月17日 |

予選1日目

## 予選開始!

役割分担でやるべきことは決めてあったが、実際に試合が始まるとわからないことだらけで慌てる。OPやドローに掲載している韓国人選手や中国人選手のアルファベット表記が見にくいうことで、漢字表記に直すことになり、選手個人に直接聞きにいく。スコアシート係は本戦から行なうということだったが、予選も準備期間として始めることに。

SUN, Peng [1]	孫 楊
OKI, Ryo	大木 良
FURUTA, Takeshi	古田 勝
CHANG, Kai-Lung	張 廉
DOERNER, Scott	ドーナー
TOYOTA, Selya	豊田 雪矢
KOGA, Kunio	小賀 公仁
SIMPSON, Matthew [13]	シンプソン
GONG, Mao-Xin [2]	孔 魔琴
LIN, Tzu-Yang	林 組
KOIWA, Tatsuo	小岩 辰夫
ASAKURA, Makoto	朝倉 雅人



3月16日 |

大会まであと1日

## 宿泊開始

一般ワイルドカードの予選が始まる。本戦選手がコートにやってきて、サイン&プラクティス。この日からセミナーハウスに宿泊開始。



セミナーハウスは8人部屋。大会終了まで全員が宿泊

3月19日 |

本戦1日目

## 本戦スタート!

いよいよ本戦開始。専門誌をはじめ、マスコミの方が多く集まり、プレスバスやパンフレットを渡して対応する。今日からラインズマンが入るので、朝から気合いを入れて練習。試合後、初の洗濯注文を受ける。夜中にプラクティスコード予約の電話がかかってきたり、デイリーパンフレットやブログの更新に追われたりと、慌しい雰囲気に。試合は篠川が1回戦を突破してATP1ポイントを獲得、学生として2人目のATPランカーに。



ラインズマンは毎朝、大声で練習



3月20日 |

本戦2日目

## 杉田選手が登場!!

シングルス1R、ダブルス1Rが行なわれる。デ杯の活躍もあって注目された杉田祐一選手が勝利し、盛り上がる。



ランドリーサービスは外国人選手がよく利用してくれた。最初500円だったがちょっと高いのではという話になり、300円にしたところ急に注文が増えた

デイリーパンフレットは夜原稿を書き、翌朝にコピー。学校も印刷所も開いていないので、近くの病院の売店でコピー機を使わせてもらう



ドローントークに本戦選手の顔写真を貼るというアイデアが出る。多くの選手が快く協力してくれた

JPN

N

JS



## 1日のスケジュール

06:30	起床
07:00	朝食 (食べ終わったら各自コートへ)
07:30	コート集合 掃除、準備
08:30	選手が来始める、サインアップ
09:00	プラクティス
10:00	試合開始 (各係が就く。時間があつたら試合観戦。 運営に慣れてきた大会後半は夕方から練習練習練習…)
18:30	試合終了後、片付け
19:00	夕食→入浴
21:00	ミーティング (係ごとに今日の報告、反省点、意見などをチーフが発表。こうしたらしいんじゃなかと思うことを毎日話し合う) ミーティング後は自由時間(自分の仕事が終わったら就寝)

3月21日 |

本戦3日目

### 祝日で大盛況

シングルス2R、ダブルス1Rが行なわれる。祝日だったので、地元の方やOBの方もたくさんきてくれた。小学生対象のクリニックも開催。また、鈴木貴男選手がきてくれたので、体力測定に参加してもらう。次週の早稲田大フューチャーズに参戦する韓国と中国のデ杯選手が練習しに来たので、どんなメニューを行なっているか調査する。



茶園鉄也選手(左)、寺地貴弘選手(右)がアンケートに答えてくれた

3月22日 |

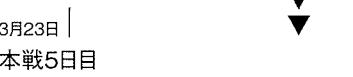
本戦4日目



選手のサインを集めたサインボードはすばらしい記念

### 折り返し地点

大会も折り返し地点。みんな気持ちに少し余裕が出てきて、細かいことにも気づくようになる。シングルスは2R、ダブルスは準決勝が行なわれる。注目の杉田選手はフルセットで惜敗。



3月23日 |

本戦5日目

### 強風が吹き荒れる

シングルスは準々決勝、ダブルスは準決勝に入。風が強く、本部の資料が飛んでしまったり、スコアボードが倒れそうになったり……。夜のミーティングでは、明日のダブルス表彰式に向けて会議を行なう。



OGでもある岡本聖子さんが会場を訪れ、体力測定に参加してくれた



杉田選手にサインをもらう

3月24日 |

本戦6日目

### ダブルス表彰式で感激

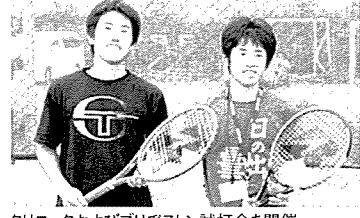
ダブルス決勝戦でOBの佐藤博康選手が登場。選手入場では、学生が花道をつくり、会場を盛り上げる。惜しくも準優勝だったが、「母校のフューチャーズに出られるとは思いませんでした。学生が本当にがんばってくれて、よい一週間を過ごせました。今後も継続して頑張ってください」と激励の言葉をもらった。最後に選手、スタッフ、そして観客の方もいっしょに写真撮影を行なう。



ダブルス表彰式



初めてボーラーが入る



クリニックおよびブリヂストン試打会を開催

### 最終ミーティング

決勝戦に向けての最終ミーティング。学生の疲れはピークに達するが、監督からは「明日、達成感を感じたとしても、それで終わりじゃない。この経験をどう生かすか、すぐに考えろ。『やりっぱなし』で終わるな!」と喝を入れられる。川延さんからは表彰式の改善点、雨天時の対処法など、細かいチェックに入る。



### サプライズパーティー

ミーティング後、4年生から再び招集がかかる。何が始まるのかと思いつかず、「これまでについてきてくれてありがとう」と特大ケーキのプレゼント!

体はきつかったが、「最終日、これまでの総決算として絶対に成功させよう!」という元気が湧いてくる。



3月25日 |

本戦最終日

### 初代チャンピオンに林(イム)選手

最終日の早朝は土砂降りの雨。午前中に止んで、素早くコート整備を行なうも、またすぐに降り出すというアンラッキーな事態に。しかし、雨天時の対処法は前日に確認できていたので、みんな慌てず臨機応変に対応。こうして14時に決勝が開始し、韓国のイム選手がベテラン茶園選手をフルセットで下して優勝した。表彰式は昨日の反省を生かしてスムーズに進む。



新聞紙やタオルを使い、大急ぎで乾かす



記念すべき初代チャンピオンは韓国のイム選手(左)、右は準優勝の茶園選手



### 感動のフィナーレ

表彰式後、花道をつくり選手を送り出す。すると、学生から「監督も通ってください!」との声が。コートの隅でひとり号泣していた監督を、学生が引っこ抜き、拍手喝采の花道を通す。「学生たちが日に日に成長していくんだよ。みんなエキサイトして一生懸命やっている姿がうれしくて。こいつら、すごいな。本当にやてくれたんだなと思ったら…感動しちゃったよ」(監督)。



学生たちに囲まれ、監督は大粒の涙



最後に皆で写真撮影

「世界の壁は厚い。  
でもそれを破っていくことが大事だ。  
そのエネルギーを感じたんだから、  
やるしかないだろう」(堀内監督)



## 『亞細亞大学国際オープン』過去の主な結果

■第1回大会(2007年)  
 ○シングルス  
 優勝 イム・キューテ(中国)  
 準優勝 茶圓鉄也(ミキブルーン)  
 ベスト4 ザン・シャオユアン(中国)  
 ペノ・ボッテロ(フランス)  
 ○ダブルス  
 優勝 ユ・シニュアン/ザン・シャオユアン(中国)  
 準優勝 佐藤博康/リーミン(フリー/中国)  
 ベスト4 ウォン・ハング・ティー/ナン・ヒュン・ウ(韓国)  
 イム・キューテ/ウォン・ホーテイ(韓国)

■第2回大会(2008年)  
 ○シングルス  
 優勝 伊藤竜馬(ミキブルーン)  
 準優勝 チェン・ティー(台湾)  
 ベスト4 岩見亮(北日本物産)  
 近藤大生(アイシン精機)  
 ○ダブルス  
 優勝 近藤大生/佐藤博康(アイシン精機/フリー)  
 準優勝 ゴング・マオシン/リー・ジー(中国)  
 ベスト4 ペン・シエン・イン/ヤング・チョン・ファ(台湾)  
 比嘉明人/篠川智大(テニスユニバース/亞細亞大学)

■第3回大会(2009年)  
 ○シングルス  
 優勝 イ・チュハン(台湾)  
 準優勝 杉田祐一(三菱電機)  
 ベスト4 アン・ジェソン(韓国)  
 フォーリー・アレクサン德拉(ベルギー)  
 ○ダブルス  
 優勝 佐藤博康/イ・チュハン(フリー/台湾)  
 準優勝 比嘉明人/篠川智大  
 (テニスユニバース/亞細亞大学)  
 ベスト4 ゴー・スティブン/レーク・ジェームス  
 (オーストラリア)

茶圓鉄也/近藤大生  
 (ミキブルーン/アイシン精機)

■第4回大会(2010年)  
 ○シングルス  
 優勝 井藤祐一(空旅ドットコム)  
 準優勝 守屋宏紀(北日本物産)  
 ベスト4 関口周一(ファーイーストジュニアTA  
 中央林間)  
 スカット・マーレック(アメリカ)  
 ○ダブルス  
 優勝 佐藤文平/イ・チュハン(橋本総業/台湾)  
 準優勝 岩見亮/近藤大生  
 (北日本物産/アイシン精機)  
 ベスト4 井藤祐一/佐藤博康(空旅ドットコム/フリー)  
 スターハム・マイケル/スカット・マーレック  
 (台湾/アメリカ)

■第5回大会(2011年)東日本大震災のため中止

■男子第6回大会、女子第1回大会(2012年)  
 男子  
 ○シングルス  
 優勝 内山靖崇(北日本物産)  
 準優勝 近藤大生(アイシン精機)  
 ベスト4 田川翔太(早稲田大学)  
 ハン・リヤン・チー(台湾)  
 ○ダブルス  
 優勝 近藤大生/イ・チュハン(アイシン精機/台湾)  
 準優勝 ガオ・ベン/ガオ・ツン(中国)  
 ベスト4 井藤祐一/ワラマノ・オウンド・キチボン  
 (ライフ・エヌ・ピー/タイ)  
 ハン・リヤン・チー/オウヤン・ボウェン(台湾/中国)  
 女子  
 ○シングルス  
 優勝 米村明子(島津製作所)  
 準優勝 飯島久美子(北日本物産)  
 ベスト4 山外涼月(志津テニスクラブ)

ボーヤン・ウォン(中国)  
 ○ダブルス  
 優勝 穂積楓莉/手塚玲美(フリー/ミキハウス)  
 準優勝 伊藤和沙/森友香(島津製作所)  
 ベスト4 北崎悦子/菅野知子(フリー/島津製作所)  
 荒木史織/長谷川梨紗(亞細亞大学)

■男子第7回大会、女子第2回大会(2013年)  
 男子  
 ○シングルス  
 優勝 近藤大生(アイシン精機)  
 準優勝 ハン・リヤン・チー(台湾)  
 ベスト4 松井俊英(ライフ・エヌ・ピー)  
 内山靖崇(北日本物産)

○ダブルス  
 優勝 関口周一/エイドリアン・シコラ  
 (三菱電機/スロバキア)  
 準優勝 吉備雄也/奥大賢(イカイ)  
 ベスト4 近藤大生/小澤澤新  
 (アイシン精機/北日本物産)  
 リー・シン・ハン/ウォン・チー・フ(台湾)

女子  
 ○シングルス  
 優勝 ユ・ミ(韓国)  
 準優勝 イ・ジン・ア(韓国)  
 ベスト4 岡田上千晶(エームサービス)  
 日比野菜緒(木曾川ローンテニスクラブ)

○ダブルス  
 優勝 ハン・ナレ/カン・ソ・ギヨン(韓国)  
 準優勝 穂積楓莉/二宮真琴  
 (フリー/西宮甲英高等学校)  
 ベスト4 荒木史織/中野佑美  
 (たちかわジュニアテニスアカデミー)  
 イ・ジン・ア/ユ・ミ(韓国)

■第8回大会(2014年)  
 64~69ページに記載

## JAPAN MEN'S FUTURES 2015亞細亞大学国際オープンテニス

### F1 Asia University International Open Tennis

#### 大会要項(予定)

予選	2015年3月7日(土)~9日(月)※ シングルス64名(DA56 WC8)
本戦	2015年3月10日(火)~15日(日)※ シングルス32名(DA20 QF8 WC4) ダブルス 16組(DA13 WC3)

※予選サインイン 2015年3月6日(金) 午後6時まで 大会会場にて

**賞金ブレークダウン  
US\$10,000**

	SINGLES(\$賞全ポイント)	DOUBLES(TEAM)(\$賞全ポイント)
WINNER	1440	18
FINALIST	848	10
SEMI-FINALIST	502	6
QUARTER-FINALIST	292	2
ROUND OF 16	272	1
ROUND OF 32	104	0

## ITF WOMEN'S CIRCUIT 2015亞細亞大学国際女子オープンテニス

### Asia University International Women's Open Tennis

#### 大会要項(予定)

予選	2015年3月21日(土)~23日(月)※ シングルス64名(DA56 WC8)
本戦	2015年3月24日(火)~29日(日)※ シングルス32名(DA20 QF8 WC4) ダブルス16組(DA13 WC3)

※予選サインイン 2015年3月20日(金) 午後6時まで 大会会場にて

**賞金ブレークダウン  
US\$10,000**

	SINGLES(\$賞全ポイント)	DOUBLES(TEAM)(\$賞全ポイント)
WINNER	1568	12
FINALIST	980	7
SEMI-FINALIST	490	4
QUARTER-FINALIST	245	2
ROUND OF 16	196	1
ROUND OF 32	98	0

ホテル	●東横イン福生駅前東口 〒197-0021 東京都福生市東町4-1 TEL042-553-1045
試合方法	●トーナメント方式(ベストオブ3セットマッチ6ゲームオール後タイブレーク採用)
参加料	●予選 US\$40 または4000円
会場	●亞細亞大学日の出キャンパス テニスコート(ハードコート8面) 〒190-0182 東京都西多摩郡日の出町平井1449-1 TEL042-588-5817 FAX 042-588-5817

詳細は…

国際テニス連盟(ITF)	<a href="http://www.itftennis.com/procircuit/">http://www.itftennis.com/procircuit/</a>
日本テニス協会(JTA)	<a href="http://www.jta-tennis.or.jp/">http://www.jta-tennis.or.jp/</a>
亞細亞大学テニス部公式サイト	<a href="http://www2.asia-u.ac.jp/~autennis/">http://www2.asia-u.ac.jp/~autennis/</a>
ブログ	<a href="http://autennis.livedoor.biz/">http://autennis.livedoor.biz/</a>

※2014年6月末現在の予定です

## 思

い出せば、けっこう不思議な光景だった——。

東京の西の最果、武藏野の面影残る日の出町は土砂降りの日曜。上がった雨が、また泣き出しそうな黄昏どきだ。ジャージ姿の学生たちがコートサイドに集まり、そこから女子大生の肩を抱いた中尾彬が転がるように現れた。女子大生は泣きじゃくり、中尾も大粒の涙。学生たちは胴上げとか笑いながら、いや、泣いている者もいた……。

よく見ると、中尾彬ではなく“ホッチ”こと亜細亜大学硬式テニス部の堀内昌一監督、よく見れば、英文の横断幕がネットに揺れている。〈F1亜細亜大学国際オープンテニス2007〉——3月から展開された男子テニスのフューチャーズ5大会、その幕開け、F1亜細亜が終わったところ。監督と女子学生が涙する昭和の卒業式のような光景は、彼らにしかわからない物語だった。しかし、彼らだけの物語ではなかった。

フューチャーズは、ATPツアーものとも下位の大会である。本戦で1勝して1ポイント、優勝すれば12ポイント獲得できる。F1亜細亜は本戦32ドローに予選は64ドロー、さらに予選のワイルドカード8本のうち4本を公開して予備予選(32ドロー)を行なっている。8勝してやっと1ポイントを手にする勘定になる。

1ポイントで念願の世界ランク1518位タイ、ざっと500人の名前が並んでいる。四大大会の予選カットは250位前後で、最低150ポイントは必要だ。ロジャー・フェデラーの7715ポイントは、なんと遙かなるアラモだろう。

「学生たちにランキングを持つチャンスを与え、学生テニスも世界と結びついていることを再確認したい」というのがフューチャーズ主催に名乗を上げた理由だが、堀内監督の思惑はそこだけに止まら

平成19・20年卒業生がこの石碑を部室の前に立ててくれた。F1亜細亜大学国際オープンテニス2007開催を記念して、ここに紹介したテニスマガジン掲載記事と「大学から世界へ～学生の学生による学生のための国際大会開催の地」という文字が彫られている

ない。

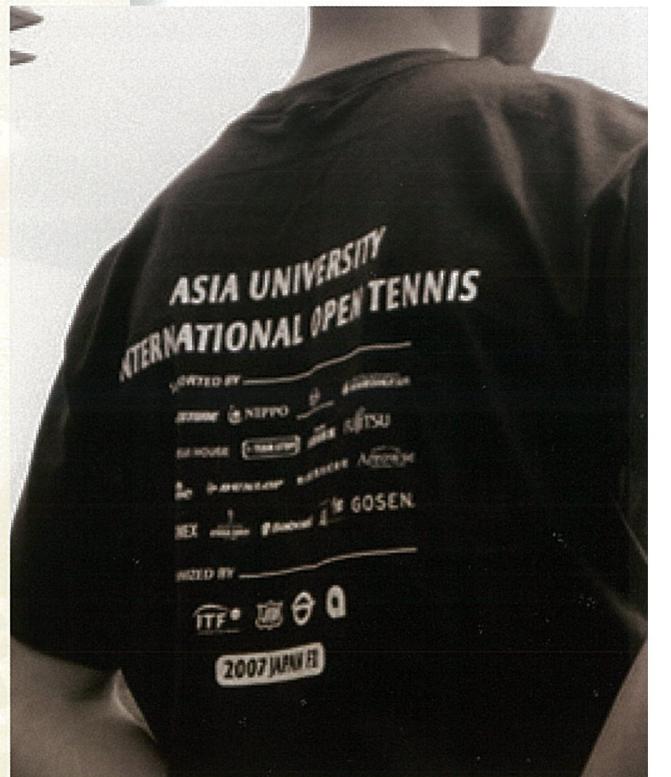
日本には、以前からこうした大会は存在した。堀内監督も日本体育大学で活躍していた80年代前半、メーカーなどが主催して春季サーキットが開かれ、ジャパンオープン(現・楽天オープン)もそうした流れから誕生している。90年代にもサテライトが開かれたものの、辛うじて鈴木貴男をグランドスラムに送り出したくらいの成果しかなかった。

フューチャーズの登場でポイントが取りやすくなるとはいえ、世界と結びつけば近隣の強敵たちも来日する。終わってみればF1亜細亜では、ベテラン茶圓鉄也の8ポイントを筆頭に近藤大生が2、ほかに6選手が1ポイント獲得し、学生は杉田祐一(早稲田大・三菱電機)と亞大的新1年生・篠川智大がゲット。

杉田は〈学生〉の対象外だから、日本選手、まして学生のポイント獲得が難しいことは変わりがないのだ。ただ、これは想定内だった。テニスはやって楽しく、見て楽しい。読んで楽しい人は少なく、運営の楽しさを知った人も多くない。F1亜細亜は日本初、川廷尚弘スーパーバイザーによればアジア初の学生の自主運営による大会だった。

学生運営の大会は、堀内監督の20年来の夢だったという。早稲田大学との絡みでその機会が巡ってきた。この秋、早稲田大は創立125周年を迎える。大々的に記念行事が行なわれる。杉田や卓球の福原愛の部外入学、ハンカチ王子こと斎藤祐樹投手の話題づくりとともに、早稲田大庭球部のフューチャーズ開催も記念行事活動と連動している。この動きを見て、単独では名乗りを上げられなかつた亜細亜大が、千載一遇のチャンスとばかりアプローチショットを放って、ネットに出たのである。

「僕もアメリカに留学してサテライトを回りました。大会は手づくりの素朴なものでした。これまでの日本のフューチャーズも、みなさんが一生懸命手伝って温かい大会になりましたが、それを学生にやらせたかった。人と接することでたくさんのことを学び、テニスを別の角度から見ることで、テニスがもっと面白く、好きになれるはず」



# 世界がやつてきた。 2007年亜細亜大学国際オープンテニス・総括

文◎武田 薫 記事提供◎テニスマガジン(2007年6月号)



自分たちのポイント獲得だけが目的ではないから、ワイルドカードの特権を他校の学生にもジュニアにも分けている。

予選には、内外から107人のプレーヤーが日の出町までサインアップにきた。55人の部員は選手全員の練習コートを手配、準備しなければならない。セミナーハウスを一泊二食付3000円で宿舎に開放し、近郊の昭島や八王子に滞在した選手の送迎の世話、洗濯の案内、自転車のレンタル、ツアープロの命綱・インターネット利用のため、大学から10台のコンピューターを借りた。画期的なディリープログラムの作成にブログの逐次更新。国際大会だから英語表記あり……。予算は限られていたから、試合進行とこうした周辺作業すべてを、学生自らの手でこなさなければならない。

運営が学生だろうが、選手からは手厳しい注文が飛び込んでくる。

「使わなかったボールは練習で使うから、返さないよ。練習ボールと質が違う」と言い張ったのは、ニュージーランドから予選参加したアダム・トンプソン、デ杯代表でもある。

「一応プロだ。いまは親が援助してくれる。もう24歳だから精神的にきつくてね。ホテルは一泊80ドルだぜ。ニュージーランドならヒルトンホテルに泊まれる。どうしてもランキングを上げたいんだ」

健闘空しく予選落ちすれば、日本選手は恵まれているとヤケにもなる。シングルス本戦のWCをもらった大塚真之助は、1回戦敗退と同時に賞金・会計担当補佐に回っている。

「ボールの手配や水の準備、これまで当たり前に思ってきたことがけっこうたいへんで、貴重な経験でした」

あとから「何度計算しても5000円少なくて」と電話が入り、慌てたこともあっ

た。デスクの向こう側に座って初めて聞くツアープロのナマの声——間違いなく、学生たちがテニスを見る目は変わっただろう。

ダブルスで準優勝した亞細亞大OBの佐藤博康がこんな感想を話した。

「日の出町でフューチャーズをやるとは思わなかった。OBとしてうれしいし、決勝を戦えてよかった」

日の出町という地域性も、このF1亞細亞の特徴だ。

日の出町は、1983年、中曾根康弘元首相の別荘での米国ロナルド・レーガン大統領とのロンヤス会談で話題になったことがある。新宿から中央線の立川で乗り換え、拝島で単線の五日市線に移って武蔵引田駅下車——駅からの道端に野菜の無人販売所があり、テニスのプロ大会の開催地でこれほどの遠隔地はかつての八ヶ岳くらいなものだろう。だが、フューチャーズは観客ではなく選手のための大会というところがミソなのだ。雨の中を訪れた青木國太郎町長はご祝儀を手にうれしそうである。

「26年前にゴミ焼却場を誘致してから、自然とスポーツがこの町のテーマでした。モラルを尊重するスポーツは、町民平和に結びつく。まして初めての国際大会です。ますます発展することを切に願っています」

学生は近隣住民にテニスクリニックを行い、地元の人たちはうどんコーナーを切り盛りし、商工会が特産品を並べて一体感を味わっていた。

かつて、デビューしたてのアンドレ・アガシが出席したボストン郊外の大会を取り材した。夕方になるとバーベキューの煙がコートに流れ、近所の人たちがビール片手にワイワイと賑やかだった。堀内監督にはそんなイメージもあり、地元ア

ピールの場になればそれはまた別の美味しい展開になるかもしれない。

『世界は日の出を待っている』ではなく、日の出に世界がやってきた……。大会中、寝泊りをともにした川廷スーパーバイザーは二重丸をつけた。

「学生たちは毎晩反省会を開き、いつも交換するなど自分たちで決めてアドバイスを求めてきた。もっと教えなければいけないと思っていたんですが、いやあ、楽でした」

茶圓も「若いから、テキパキして気持ちよかったです」と拍手を送り、優勝した韓国の林奎泰はこうだ。

「学生だけで大会運営をやるなんて信じられませんよ。残念ながら、韓国の学生には真似できないな」

そんな声を聞けば、小川春男学長も、決勝戦の寒い中、朝から夕方まで付き合った甲斐があった。

「国際大会に相応しい緊張感あふれる試合でした。学生諸君も、雨の中で緊張感を維持し立派だった。いい勉強になったでしょう」

最終日は雨で試合開始が5時間も延期され、そのことも運営の経験になったと言うはたやすい。だが、すべてが初めてであり大きなリスクをともなう賭けだった。冒頭の不思議な光景、堀内監督の涙がその舞台裏を思わず物語っていた。

さて、このチャレンジは誰にでも可能だっただろうか。誰もが、いきなりアプローチショットを叩いてネットに出されると限らない。

テニスは大学の中だけでも日本の中だけでもない、世界を目指すことを忘れるな——堀内監督、森稔詞コーチの日常的な指導方針が下地にあることを忘れてはいけない。日の出町に出現した日本の新しいテニス風景に、期待したい。

『2007亞細亞大学国際オープンテニス』ダブルス決勝のあと、大会スタッフとして働いたテニス部員も加わり、入賞選手を囲んで記念撮影。中央にいる2ペアが優勝、準優勝ペア。右の2人が、惜しくも準優勝だった亞細亞大学OBの佐藤博康とそのパートナーの李明



# 亜細亜大学国際オープンテニス チャリティーテニスクリニックに ご参加ください!

あなたも  
サポーター

このクリニックの収益はすべて国際大会運営費に充てられます。

よってクリニック参加のみなさまは

大会サポーターであるとともに亜細亜大学テニス部のサポーターでもあります!

## “テクニカルシリーズ”開講中!

2008年にスタートした『亜細亜大学国際テニス大会～チャリティーテニスクリニック “テクニカルシリーズ”』は、これまでに年間およそ20回、2014年現在までを数えるとおよそ140回ほど開催してまいりました。

クリニック開催の目的は大きく分けて2つあります。ひとつはテニス部員と一

般プレーヤーのみなさまとの交流機会を増やしたいということ。そしてもうひとつは、このクリニックでいただく参加費を『亜細亜大学国際テニス大会』の大会運営費用に充て、みなさま方ひとりひとりに大会サポーターとなっていただき、さらには、亜細亜大学テニス部のサポーターになって、応援していただきたいという思いがあります。

クリニックの講師は、テニス部の堀内

昌一監督、森稔詞コーチ、宮崎靖雄コーチのいずれかが務め、現役部員がサポートして、各回テーマに沿ったていねいな指導を心掛けています。もう一段階向上したいとお考えのテニスプレーヤーのみなさまに対して、期待に応える内容をご提供したいと思います。みなさまのご参加を心よりお待ちしております。

亜細亜大学テニス部一同

テーマは“テクニカルシリーズ”として細かく設定

例 サービス編 | レシーブ編 | ストローク編 | ボレー編 | プライベート編 など



情報およびお申し込み方法は、随時ブログに更新中!

亜細亜大学テニス部ブロガーEVER UPWARD!(意味は「限りなく向上せよ」)

<http://autennis.livedoor.biz/>

# 亞細亞大学国際テニス大会チャリティークリニック 参加者を代表して

鎌田健嗣さん



何度も通っても新たな“気づき”があり、テニス部のみなさんと同じコートに立って実践できる、それが続けるモチベーションとなっています。

亞細亞大学関係者のみなさま、今回は年間活動報告の中で、テニスクリニック参加者として声を掛けていただき、拙文を披露する場をいただきましたことを、この場を借りてお礼申し上げます。

私は、一昨年6月23日のテニスクリニック（テーマ◎アプローチ＆ネット）に参加し、クリニック参加回数は40回目を数えました。思い起こせば、08年の初夏にボレークリニック

に参加したのが最初でした。一昨年卒業した益田拓馬くんがまだ1年生のときにボールを出してもらい、湿気のあまりに靴の中が洪水状態になってしまったあの日から足かけ6年、クリニックに参加させていただいていることになります。

私が本クリニックに参加したのは、08年の正月に5年半の北京駐在から帰国し、日本でテニスをやる環境を探していたことがきっかけでした。ご存じのとおり海外ではハードコートばかりで砂入り人工芝コートはほとんどありません。私はハードコートで練習したいと思い、多摩地区のテニススクールを探し、その中でたまたま『フューチャーズ・チャリティクリニック』というものをWEBで見つけたのです。大学のテニスコートで練習できるとの内容にも興味を持ち、参加することになりました。オールラウンドコートと書いてあったのでてっきり人工芝かと思い靴を持っていたらハードコートだったので、うれしく思ったあの日のことをいまでも憶えています。

以来、テニス部のみなさんにいろいろ指導をしていただきましたが、私が思うに、要是「体の動きを理解して、効率的なパフォーマンスを継続してできるようになること」、これに尽きるのかなと思っています。サービスも、やっとこれかな！というものを体得できるようになりました。何度も通っても新たな“気づき”があり、それを堀内監督、森コーチ、そして学生のみなさんと共有しながら同じコートに立って実践できる、それが続けるモチベーションとなっているのです（もちろん、それに加えてフューチャーズ開催のサポートであることも…）。

最後に、学生のみなさん、テニスクリニックは社会とのコミュニケーションを勉強する場でもあります。このこともテニスをプレーすること、テニス大会を運営することと同じくらい良い機会ととらえて、日々テニスができる最高の環境を生かしながら4年間を大事に、且つ思いきり過ごしていただきたいと思っています。応援しています。



本多立雄さん



亞細亞大のテニスに対する真摯でオープンな姿勢が、日本のテニスに力強い流れを創り始めた、そう感じています。

「世界の舞台で活躍する選手を育てるには、登竜門のフューチャーズを、日本でもっともっと開催しなければいけない」——堀内監督の熱い思いをお聞きしながらも、日本人がグランドスラム本戦の常連になれるのはいつだろと、日の出から遠い空を見つめたあの頃を思い出します。

『亞細亞フューチャーズ』は今年で8年目を迎え、『同・国際女子オープン』もスタートしました。第3回大会優勝の伊藤竜馬選手はじめ、添田豪選手など、地道にフューチャー

ズに挑戦し続けてきた日本人が、今、ATPツアーブラジル戦にストレートインして上位進出を狙っています。亞細亞大で大会がスタートした06年には、夢の実現は10年先のことだろうと思っていたましたが、彼らの雄姿をグランドスラムで当たり前のように見ることができる日々がやってきました。亞細亞大を起点とした大学国際大会シリーズが、日本人選手躍進の大きなきっかけとなったのはまぎれのない事実です。

私たちは、外部サポーターとして、フューチャーズの開催趣旨に賛同するとともに、学生の皆さんが出場するさまざまな試合を応援しています。そして、研究や情報収集を欠かさない、堀内監督や森コーチ、宮崎コーチなどの指導陣と、現役学生のみなさんから、「トッププレーヤーにも一般にもジュニアにも共通する本物のテニス」をご指導いただいている。みなさんから、技術とともに、テニスに対する姿勢を学んでいます。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

学生のみなさんが4年間で成長していく姿を見るのも楽しみですが、強く願っているの

は、亞細亞大をはじめとする学生の中から、フューチャーズで活躍する選手、そしてチャレンジャー、ATPツアーで戦う選手が出てくることです。

自分たちのテニスの実力アップ、ジュニアや一般への指導、国際大会の企画・運営、そして学生の本分である勉強・研究。さまざまなことをこなしながら、テニスの未来のため、開かれた大学テニスを実践する亞細亞大。私たちサポーターだけでなく、その姿勢に賛同する人たちが、一年中、全国から日の出に集まるようになってきました。きっかけは、フューチャーズでしょう。山梨学院大や筑波大が追随したように、大学主導、さらには学連主導の形でこの大会がさらに増えていくことを願っています。そして、地方大学の選手にも積極的にフューチャーズの予選、予選に参加するように、私自身も含めて、働きかけてかなければいけないと思います。

亞細亞大のテニスに対する真摯でオープンな姿勢が、日本全体のテニスを底上げするための、力強い流れを創り始めた、そう感じています。